

年 報
第32号
令和7年度

ISSN1344-249X

ANNUAL REPORT
OF
IBARAKI NATURE MUSEUM

No.32
2025－2026

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
IBARAKI NATURE MUSEUM
Bando, Ibaraki, Japan

年 報
第32号
令和7年度

ISSN1344-249X

ANNUAL REPORT
OF
IBARAKI NATURE MUSEUM

No.32
2025－2026

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
IBARAKI NATURE MUSEUM
Bando, Ibaraki, Japan

館長報告

Director Report

令和7年度は博物館が開館してから31年目にあたり、また3代目の横山一己館長が運営した最後の年となりました。

開館当初から継続されている事業の多くはさらにブラッシュアップされ、多様な分野での成果を残しました。詳細については本年報をご覧くださいと思いますが、いくつか特筆すべき部分をご報告いたします。



まず、本館の大きな特色でもある、広い企画展示室を活かして開催される企画展では、第91回「ミュージアムパーク30年のありったけ」（総入館者数：約26万1千人※令和7年度入館者数：約9万5千人）、第92回「恐竜とともに生きた生物たち」（入館者数約14万人）、第93回「どんぐり」（入館者数約13万人）、第94回「鳥の世界へようこそ！」（総入館者数：約14万9千人※令和7年度入館者数：約4万2千人）が開催されました。これらは学芸系職員の調査研究の成果を、わかりやすい言葉と展示資料でみなさんにご紹介するものです。自然史研究の発展は日進月歩であり、常設展示では追いきれない知見が企画展では時宜を得て紹介されています。また、専門的説明に偏ることなく、あらゆる年齢層への発信を心がけている点も企画展が好評を博している理由の1つでしょう。参考書や教科書からの抜粋ではない、学芸系職員がフィールドから得た解説と豊富な実物資料の世界をこれからもぜひお楽しみください。

館内および館外で、参加者のさまざまな要求にお応えする形で実施されている各種の教育普及イベントも多く参加者を得て好評のうちに実施されました。未就学児からシニア世代の方々までの幅広い年齢層に対応していることが特徴です。人材育成という観点から、今回はジュニア学芸員育成事業について報告いたします。本事業は平成13年から25年間にわたり継続されているもので、自然史研究や博物館活動に興味のある中高校生を対象としてその活動の支援を目的としています。初年度は認定ジュニア学芸員となるための養成講座を受講し、次年度以降は当館の学芸系職員とともに自主研究や活動を継続していきます。令和7年度には12人が養成講座を経て認定されましたが、開設以来の認定者は実に346人に達します。受講者の中には、その後も自然史科学に関する勉強を続け、研究者の道に進んだ人材も誕生しています。専門の道には進まなかった認定者も、自然科学に関する素養を身に付けた当該分野のサポーターとして期待することができます。

収蔵標本数についても触れてみます。当館の収蔵資料点数は令和7年度時点で約47万点となりました。これは、神奈川県立生命の星地球博物館のような卓越した収蔵資料点数（約125万点）の事例もありますが、県立博物館としては充実したコレクションと捉えられます。これら資料を活用した研究活動は、展示や教育普及活動の原動力となります。一方で、収蔵庫から溢れた標本の管理が課題となっている博物館の事例もあります。文部科学省は令和8年3月31日に資料管理

の選択肢として、交換・譲渡・貸与・返却に加えて、廃棄について前提条件を付けて示しました。その条件の1つに、博物館資料は将来の世代に継承すべき貴重な財産であるという前提を崩さないこととあります。当館でも資料の収集方針については今後の吟味を進めるべきですが、100年先、200年先にも共有財産として保管していく姿勢が必要です。ただし、資料は100年を待たずして利用して問題になることはありません。また、収蔵資料は当館職員だけのものではなく、外にも開かれたものです。これまでに、収蔵資料を利用した国内外の研究機関との共同研究が進められていますが、県立博物館の責務としてさらに広く利用を促進してその成果を自然史研究の底上げや展示および普及啓発事業に活かすことが求められます。そのためには資料のデジタルアーカイブ化もさらにスピード感を持って進める必要があります。

入館者数が令和7年度には50万人を超えたことも大きな報告です。開館以来、50万人を超えた年度はこれが4回目で、平成29年度以来となります。横山前館長をはじめとする職員一同、博物館ボランティア、博物館友の会、警備、清掃、レストラン、売店といった博物館にかかわるすべてのスタッフの工夫と努力により実現したものと考えています。博物館の評価は入館者数だけではありませんが、みなさんにさまざまな博物館活動を高く評価していただいた結果と謙虚に受け止めるとともに、現状に満足することなく、さらに質の高い博物館活動を展開していきたいと考えています。

今後の課題についても触れなくてははいけません。開館後32年目に入り、館の施設の老朽化の進行は来館者、また職員の安全安心の確保の観点からの大きな懸念材料です。令和8年度からは、館内の照明機器や電気配線の交換作業による休館も予定されており、みなさんにご不便をおかけすることを予めお伝えしておきます。

令和4年の約70年ぶりの博物館法の改正により、博物館に求められる機能として地域のさまざまな主体との文化観光事業への取り組みが努力義務に加えられました。本博物館は、これまでも地域に密接した博物館として近隣自治体との連携を進めてきています。博物館としての従前からの基本的機能は堅持しつつ、さらにウィン・ウィンの関係になれるべく館の運営に創意と工夫を重ねていきたいと考えています。

最後になりましたが、令和7年度に館の運営および事業にご協力をいただいたみなさんに改めてお礼を申し上げますとともに、引き続きのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和8年7月

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

館長 山 崎 晃 司

目次
TABLE OF CONTENTS

館長報告
Director's Report

I	事業の概要	5
	Outline of Activities	
1	展示事業……5	
	Exhibition Activities	
2	教育普及事業……13	
	Education Service	
3	資料の収集・保管・利用……28	
	Collection, Conservation and Utilization of Materials	
4	学術調査研究……42	
	Scientific Research	
5	広報広聴活動および出版事業……53	
	Public Relations and Publications	
6	博物館関係行事……55	
	Museum Events	
7	他の機関・団体との連携……57	
	Cooperation with Other Institutions and Organizations	
8	ボランティアの養成と活動の支援……59	
	Training and Support for Volunteers	
9	友の会活動の支援……61	
	Support to Events by Friends of Ibaraki Nature Museum	
10	賛助会員制度……64	
	Supporting Members	
II	利用状況	65
	Visitor's Statistics	
1	令和7年度入館者数……65	
	Number of Visitors, 2025-2026	
2	アンケート調査による入館者の状況……67	
	Summary Analysis of Questionnaires on Visitor's Background	
3	博物館日誌（令和7年度）……70	
	Museum Calendar 2025-2026	
III	管理運営	72
	Organization and Management	
1	組織……72	
	Staff and Structure	
2	予算・決算……73	
	Financial Summary	
3	施設整備など……74	
	Facility Maintenance	
4	博物館協議会……75	
	Trust Committee	
5	資料評価委員会……76	
	Material Appraisal Committee	
6	助言者会議……77	
	Advisory Committee	
	付録	79
	Appendix	

1 展示事業

Exhibition Activities

(1) 常設展示の更新

令和7年度は、以下の通り展示更新や展示資料製作、展示装置類の交換を実施した。

○ 展示更新

① 第2展示室「地球は動いている」コーナーの部分更新

「地球は動いている」コーナーの「地球の素顔」と「リップルマークのでき方」、「河川によりつくられる地形」を撤去し、剥ぎ取り標本や映像資料を用いた地層からわかることについて考える展示に部分更新を行った。詳細な図面を作成するための実施設計を行い、既存の展示物の撤去および新規展示物の製作とあわせて展示映像を制作し、展示を更新した。

② 第2展示室古生代の化石エリア照明のLED化

第2展示室古生代の化石エリアにおいて、ケース内照明として備え付けられていたロング型蛍光灯を撤去し、ケース上方にLEDスポットライトを新たに設置した。

③ 第4展示室内照明LED化実施設計

利用者の安全、良好な展示環境の構築、照明器具の保守性および省エネルギー性の向上を目的として、第4展示室における照明のLED化に伴う設計図および積算書を作成した。

④ 第5展示室内照明LED化

第5展示室内照明をLEDに交換し、省エネおよび長寿命の展示環境を確保した。

⑤ ディスカバリープレイスにおける紫水晶の巨大晶洞の展示

第85回企画展「ときめく石一色と形が奏でる世界一」、第91回企画展「ミュージアムパーク30年のありったけーいつも自然博物館はおもしろい！」で展示した紫水晶の巨大晶洞をディスカバリープレイスへ展示した。

⑥ ディスカバリープレイスにおけるガラスフィルム貼付

1F ディスカバリープレイスの一部の展示ケースに収蔵されている植物標本の紫外線による退色を防止するとともに、地震などの災害発生時におけるガラスの破損・飛散を防ぎ、来館者および資料の安全を確保することを目的とし、実施した。

⑦ 常設展示室映像キャプション製作

常設展示室の映像キャプションを製作し、来館者にとってわかりやすい展示を提供した。

○ 定期的な小規模更新

① 「トピックスコーナー」

博物館のボランティア活動や採集、寄贈、購入などで新たに博物館の資料となった標本、話題性のある標本などの紹介を行ってきたが、調査研究紹介の場がないため、博物館の教育普及活動に加えて研究活動（総合調査、分野別調査、創造的調査）について、その成果を紹介した。

- ・地学ボランティアについて（令和6年12月～令和7年4月）
- ・博物館の調査研究印刷物について（令和7年5月～11月）
- ・博物館の教育普及活動について（令和7年12月～）

② 「博物館のコレみて！」コーナー

令和6年3月から「学芸員からこんにちは」のコーナーを改称し、収蔵されている収蔵品の中から、資料を厳選して展示している。

今年度は、通算第4回として、茨城県の植物相の研究に大きく貢献された和田尚幸氏のコレクションの一

部を、寄贈していただいた約2万点の標本の中から紹介した（令和7年3月～7月）。第5回は、世界的に有名な化石産地メゾンクリーク（アメリカ合衆国イリノイ州）産の球状コンクリーションに含まれる動植物化石を展示し、その成因の研究成果も紹介した（8月～11月）。第6回は、「イタチ科のはく製ずらり！」として、国内固有種だけでなく海外のイタチ科も含めて紹介した（12月～3月）。

③ 「茨城の自然インフォメーション」

当館では、県内の自然環境を総合的に把握するための「総合調査」を実施している。

現在は第Ⅳ期調査（2024～2026）を行っている。地学、植物、動物の各研究室が当館の職員とともに調査し、その調査結果について展示している。

・総合調査（地学）（令和6年10月～令和7年7月）

「第Ⅲ期総合調査2018～2023」の茨城地学調査会テフラ分科会および微化石分科会、「第Ⅳ期総合調査2024～2026」微化石分野の調査活動や調査結果を紹介した。微化石分科会については、八溝山地の調査で見つかったコノドントを紹介した。テフラ分科会については、鉾田市青山の鹿島層とローム層、つくば市の上大島層と下大島層に含まれるテフラを紹介した。

・総合調査（動物）（令和7年8月～11月）

「第Ⅲ期総合調査2024～2026」の茨城動物調査会哺乳類分科会、鳥類分科会、陸・両生・爬虫類分科会の調査活動や調査結果を紹介した。特に哺乳類分科会については、茨城県内の変わりゆく野生動物の分布について調査し、クマ、シカ、カモシカについて紹介した。

・総合調査（植物）（令和7年12月～令和8年3月）

「第Ⅲ期総合調査2018～2023」の茨城植物調査会、非維管束植物分科会の調査結果、コケ植物、海藻類、地衣類について紹介した。特にコケ植物については、西金砂山で茨城県新産として発見されたオオヒメヒナゴケ、筑波山において茨城県で90年ぶりに再確認された希少種のツルゴケについて紹介した。

○ 展示修繕など

① 第1展示室天井上部壁面窓の暗幕修繕

天井上部壁面（北西側）の窓の暗幕が劣化していたため、窓の外側から光を遮るための合板などを貼る修繕を行った。

② 第1展示室隕石下カーペットの修繕

触れる展示「隕石」の下部に敷いてあるタイルカーペットが破損していたため、新しいものに交換した。

③ 第2展示室恐竜ジオラマ上部スポットライト交換

第2展示室恐竜ジオラマ上部のLED照明が切れていたため、既存の照明をレールから取り外し、代替品を取り付けた。

④ 第2展示室などラベル修繕

第2展示室のラベルの劣化が進んでいたため、ラベル約650点を修繕した。なお、多言語化の一環として英語表記を加えた。

⑤ 第3展示室円柱水槽内照明交換

第3展示室（水系）円柱水槽内のLEDが光量不足などにより大変暗く、水槽内の生体が見づらい状況であったため、LEDを交換し、生体が見やすくなるようにした。

⑥ 第3展示室コルトンフィルム修繕

第3展示室水系および森林のコルトンフィルム（内照式フィルム）が、経年変化により白色化され、展示が見づらくなっていたため、元データより新しいシートと差し替えることで修繕を行った。

⑦ 第3展示室水系展示・ジオラマ展示植物レプリカ製作

第3展示室の水系展示に設置されていたオニイタヤとヤマユリのレプリカを、清掃のしやすさを考慮した取り外し可能な仕様で新たに製作した。また、来館者が触れる場所にあり、破損・劣化が進んでいたジオラマ展示のオタカラコウのレプリカについても新規製作を実施し、安全性の確保と展示品質の向上を図った。

⑧ 第3展示室タカアシガニ壁掛け標本改修

第3展示室に展示中の2体のタカアシガニについて、良好な展示環境の構築を目的として、タカアシガニ・展示パネルの撤去（降下）、タカアシガニの着色および背板の取り付け、壁の補修を実施した。

- ⑨ 第3展示室ジオラマ展示ヤマドリ剥製改修
走り姿勢のヤマドリ剥製を設置した。
- ⑩ 第3展示室海の深さと生きものメバルの修繕
擬岩に接着して展示していたメバル1体が、擬岩から外れて落下した。落下した際に破損した部分を修繕するとともに、もとの場所付近に吊り展示を行った。
- ⑪ 第4展示室見る体験装置の修繕
第4展示室の動物の視野を再現した体験展示「動物の眼」について、ネコとトンボの装置で経年劣化による破損などがあったため、改修工事を行った。
- ⑫ 第4展示室ブラックライトの交換
第4展示室における「細胞のつくりとはたらき」および「DNAのつくり」において、ブラックライトLEDを現市場に即した照明に交換、修繕を行い、展示が見やすくなるようにした。
- ⑬ 第5展示室の展示台製作
第5展示室の展示更新にともない、新規ガラスケース内の「島に固有のカタツムリ」の展示に用いるための新たな標本の展示台を製作した。
- ⑭ 常設展示室壁面補修修繕
第1展示室内2カ所の壁面、第3展示室「シーラカンス」の壁面、第4展示室「DNAのつくり」と「細胞のつくりとはたらき」の壁面、合計5カ所を修繕した。
- ⑮ ヌオエロサウルスの尾部（血道弓）の安全点検および補強
ヌオエロサウルス骨格の血道弓の1つが落下したため、安全確保の観点から血道弓の点検補強作業を実施した。
- ⑯ ダイオウイカ模型清掃
中庭に設置している実物大ダイオウイカ模型の清掃を実施した。

(2) 常設展示の保守

各々の展示資料や装置類について、定期点検および部品交換などを実施した。

- ① 動刻設備メンテナンス保守点検
地球のプレート運動装置および付属設備、恐竜動刻模型、動刻模型付属設備の保守点検および部品交換（年間3回）
- ② 展示室および展示ケース内照明点検交換
蛍光灯・ハロゲンランプ・LEDランプなど、照明管球類の定期巡回点検交換（年間8回）
- ③ 展示安全点検（映像音響機器類保守点検を含む）
1日常駐点検（年間12回）、定期保守点検（年間1回）
- ④ ジオラマ展示清掃保守点検定期点検
定期点検（年間1回：11月実施）
- ⑤ 情報管理システム保守点検（月1回 / 年間12回）
OSのアップデートおよび不正アクセスログ確認など保守管理（年間12回）、職員が利用するPCなど情報機器の軽微な不具合の解消補助
- ⑥ 収蔵庫・展示室の環境調査
館内の生息昆虫、収蔵庫内カビ調査および文化財害虫防除施工（6月から11月まで、計5回）

(3) ポケット学芸員の利用について

「ポケット学芸員」はスマートフォンやタブレット端末にアプリケーションをインストールして使用する展示ガイダンスシステムである。展示についての基礎知識や専門情報、補足情報を知ることができる。現在、日

本語版、英語版、中国語（繁体字・簡体字）版コンテンツを公開している。

また、インストール促進、活用範囲の拡充（PCなど）、上述の言語以外の利用者への利便性の向上などの目的で、「ポケット学芸員（web版）」の運用を開始した。これは、これまでスマートフォンのアプリケーションとして提供してきた「ポケット学芸員」をホームページ上でも利用できるようにしたものである。また、令和7年3月に刷新した電子顕微鏡の紹介コンテンツを追加した。

(4) 企画展示

令和7年度は「ミュージアムパーク30年のありったけ」、「恐竜とともに生きた生物たち」、「どんぐり」、「鳥の世界へようこそ！」の4つの企画展を開催した。

第91回企画展「ミュージアムパーク30年のありったけーいつも茨城県自然博物館はおもしろい！ー」

30th Anniversary, Special Exhibition - Amazing world of Ibaraki Nature Museum -

- 1 会期 令和6年11月2日（土）～令和7年6月1日（日）
- 2 内容 当館は令和6年度に開館から30周年を迎えた。そこで本企画展では「ミュージアムパーク茨城県自然博物館」をテーマとして、博物館の「おもしろさ」を改めて感じていただけるように、30年間の歩みと現在、そして未来の博物館にもスポットを当てて紹介した。令和7年2月に資料を入れ替え、リニューアルを行った。
 - ・資料数：2,759点
 - ・主な展示資料：資料：カルノタウルスの全身骨格標本、紫水晶（アメシストドーム）、大型のサメ類コレクション、ダイオウイカの含浸標本、カタツムリのリアルフィギュア、セイタカダイオウ、アキタブキのさく葉標本、キノコの大型クッション模型 など
 - 映像：菅生沼の変遷30年、ブナ調査、カルノタウルス全身骨格標本の組み立て など
 - 体験コーナー：にょろの体験ボックス、音の見える化装置 など
- 3 会場 企画展示室（700㎡）
- 4 展示資料
- 5 後援 NHK 水戸放送局、茨城新聞社、ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
- 6 総入館者数 261,391人（※うち令和7年4月1日～：95,385人）
- 7 関連イベント
 - ・自然ラボ（講座）「美しき巨大晶洞の成り立ちを探る」
日 時：4月5日（土）
講 師：門馬綱一氏（国立科学博物館）
場 所：講座室
参加者：30人
 - ・自然ラボ（観察会）「筑波山で春の植物を観察しよう」
日 時：4月19日（土）
講 師：小幡和男氏（当館名誉学芸員）
場 所：筑波山
参加者：27人
 - ・自然ラボ（観察会）「磯の動物を観察しよう」 ※荒天のため中止
日 時：5月17日（土）
場 所：平磯海岸
共 催：（公財）水産無脊椎動物研究所・地球レーベル・茨城の海産動物研究会ほか
特別協力：船の科学館「海の学びミュージアムサポート」
- 8 担当 佐藤一康（主任）、石塚勇太（副主任）、後藤優介（副主任）、池澤広美、小池 渉、国府田誠一、櫛引豪人、土田十司作、栗栖宣博、村田一弘、久松正樹、高橋 淳、平川正樹、田宮奈津美、

川村詩音、小泉直孝、前島清、百瀬裕子



展示室風景

Special exhibition room



展示室風景

Special exhibition room

第92回企画展「恐竜とともに生きた生物たちーぼくらは脇役じゃないー」

Spotlight on various creatures coexisted with dinosaurs - enjoy dinosaurs in permanent exhibition -

- 1 会期 令和7年7月5日（土）～令和7年9月15日（月・祝）
- 2 内容 恐竜と同じ時代に生きていた生物は、人気のある恐竜に比べて「背景」「脇役」として扱われがちである。本展示では、恐竜ではない生物の化石の面白さ、研究の楽しさについて紹介し、大昔の生物多様性や生命進化への理解を深める一助とした。
- 3 会場 企画展示室（500㎡）
- 4 展示資料
 - ・資料数：402点
 - ・主な展示資料：資料：ザミテスの巨大化石、デイノスクス頭骨のレプリカ、プテラノドン全身骨格標本、大小さまざまなアンモナイト化石、ステノプテリギウス標本など化石や標本を多数展示、「生きている化石」といわれるカブトガニの生体展示 など
 - 映像：陸上の生きもの、海の爬虫類の紹介、生痕化石の紹介 など
 - 体験コーナー：化石研究者になってみよう！、植物化石をしらべよう、アンモナイトタッチング
- 5 後援 NHK水戸放送局、茨城新聞社、LuckyFM茨城放送、アクアワールド茨城県大洗水族館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
- 6 総入館者数 143,685人
- 7 関連イベント
 - ・自然ラボ（講座）「プランクトン化石とウチ化石から探る中生代の海洋生態系」
日 時：7月26日（土）
講 師：泉賢太郎氏（千葉大学）
場 所：講座室
参加者：83人
 - ・自然ラボ（講座）「恐竜時代の景色はどんなの？～イラストレーターと研究者が描く恐竜時代～」
日 時：8月2日（土）
講 師：ツク之助氏（サイエンスイラストレーター）、加藤太一、滝本秀夫
場 所：映像ホール
参加者：140人
- 8 担当 加藤太一（主任）、北澤佑子（副主任）、前橋千里、吉田 佑、滝本秀夫、村田一弘、飯田一行、清水麻里子



展示室風景

Special exhibition room



展示室風景

Special exhibition room

第93回企画展「どんぐりー魅力にはまってさぁたいへん♪ー」

What a Wonderful Acorn World - So Much Fun ♪ -

- 1 会期 令和7年10月11日（土）～令和8年1月25日（日）
- 2 内容 どんぐりはブナ科の植物が付ける果実の総称で、子どもに大変人気がある。本企画展では、分類学、形態学、生態学、考古学などさまざまな側面から紹介するとともに、昆虫や動物、菌類など生物との関係についても紹介し、どんぐりを通して自然環境の保全や里山管理の大切さについて考えるきっかけをつくった。
- 3 会場 企画展示室（450㎡）
- 4 展示資料
 - ・資料数：432点
 - ・主な展示資料：資料：どんぐりの拡大模型、クヌギ・コナラの幹の乾燥標本、ツキノワグマ剥製、アカネズミ剥製、イノシシ剥製、どんぐりのアクリル封入標本、最古の利用されたどんぐり（実物）、ブナ科植物の植物画 ほか
 - 映像：どんぐりの木の1年、最大のどんぐり・幻のどんぐり、1年成と2年成 ほか
 - 体験コーナー：どんぐりを使った工作コーナー（やじろべえ、ストラップ など）
- 5 後援 NHK水戸放送局、茨城新聞社、LuckyFM茨城放送、アクアワールド茨城県大洗水族館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
- 6 総入館者数 132,662人
- 7 関連イベント
 - ・自然ラボ（観察会）「博物館でどんぐりを観察しよう」
日 時：10月25日（土）
場 所：講座室・博物館野外
参加者：35人
 - ・自然ラボ（講座）「どんぐりの謎ー拾って食べて考えたー」
日 時：12月20日（土）
講 師：盛口 満氏（沖縄大学）
場 所：映像ホール＋オンライン
参加者：96人（映像ホール84人、オンライン12人）
- 8 担当 伊藤彩乃（主任）、豊崎賢二（副主任）、小泉直孝、世木田和也、栗栖宣博、久松正樹、成田 昭、高畑 智、川村詩音



展示室風景
Special exhibition room



展示室風景
Special exhibition room

第94回企画展「鳥の世界へようこそ！－知れば知るほどおもしろい－」

The Amazing World of Birds! - Which bird is your favorite? -

- 1 会期 令和8年2月28日（土）～令和8年6月7日（日）
- 2 内容 鳥は地球上に1万1,000種以上生息し大繁栄している生きものであり、私たちにとって身近な生きものの一つである。博物館に所蔵されている剥製標本などを展示して、鳥の形態や生態、多様性や人間とのかかわりなど、さまざまな視点から紹介し、興味をもってもらおうきっかけとした。
- 3 会場 企画展示室（500㎡）
- 4 展示資料
 - ・主な展示資料：イヌワシ・ニジキジ・エナガなどの剥製多数、ダチョウの骨格標本、フクロウの実重量のぬいぐるみ、オオツリスドリの巣の標本、野鳥観察日記 ほか
 - 映像：よりどりみどり大集合！、コアホウドリのダイナミックソアリング ほか
- 5 後援 NHK 水戸放送局、茨城新聞社、LuckyFM茨城放送、ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
- 6 総入館者数 42,526人（～令和8年3月31日）
- 7 関連イベント
 - ・自然ラボ（観察会）「菅生沼の鳥、じっくりしっかり見てみよう」
日 時：1月10日（土）
場 所：菅生沼
参加者：17人
 - ・自然ラボ（講座）「あなたもきっと、鳥が見たくなる！－観察を続けて見えてくること－」
日 時：3月21日（土）
講 師：濱尾章二氏（国立科学博物館）、平城達哉氏（奄美市立奄美博物館）
場 所：映像ホール
参加者：74人
 - ・企画展定期観察会「今だから気になる、あの鳥を探そう！」
日 時：①3月 7日（土） ②3月28日（土）
場 所：博物館野外・菅生沼
- 8 担当 佐野拓哉（主任）、櫛引豪人（副主任）、小池 渉、後藤優介、石塚武彦、横倉政宏、篠崎 樹、清水麻里子



展示室風景
Special exhibition room



展示室風景
Special exhibition room

(5) 特別展示

○新年特別展示

- 1 会期 令和7年12月20日（土）～令和8年1月18日（日）
- 2 会場 2階エントランス
- 3 内容 令和8年の干支である午（ウマ）に関連する動植物や地学資料を展示した。ウマに因んだ名前をもつ動物（ウマノオバチ、ハタケノウマオイ、マダラカマドウマ、コマドリ、バフンウニ、マトウダイ）、植物（タンザワウマノスズクサ、コマクサ）、岩石（メノウ）など9点を展示し正月の雰囲気盛り上げた。



ウマノオバチ



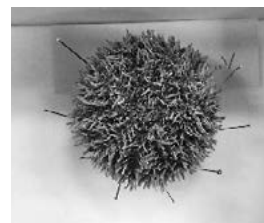
ハタケノウマオイ



マダラカマドウマ



コマドリ



バフンウニ



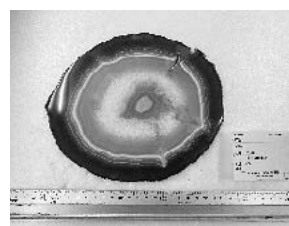
マトウダイ



タンザワウマノスズクサ



コマクサ



メノウ

新年特別展示

Special exhibition for the New Year

2 教育普及事業

Education Service

1 教育活動支援事業

(1) 移動博物館

茨城県内の学校および社会教育施設に当館の資料を展示し、遠方など通常当館を利用する機会が少ない方々や本館では効果的な利用ができないような方々が博物館の資料を見学できるような取り組みを実施した。

令和7年度は、学校10校、社会教育施設2施設で実施した。また、学芸系職員による展示解説を希望する学校、社会教育施設に対して実施した。さらに、幼稚園での試行を行い、次年度からの実施の可否を検討している。

＜学校など＞

No.	会 場	期 間	入場者数	テーマ
1	つくば市立学園の森義務教育学校	R7. 7. 1～R7. 7. 8	1,813	身近な自然
2	城里町立沢山小学校	R7. 7.10～R7. 7.17	270	身近な自然
3	日立市立駒王中学校	R7. 9. 1～R7. 9. 5	325	身近な自然・日立鉱山
4	茨城大学附属幼稚園	R7. 9.19	77	見て触れて楽しむ自然
5	筑西市立小栗小学校	R7. 9.24～R7. 9.30	287	身近な自然
6	茨城県立伊奈特別支援学校	R7.10.15～R7.10.21	320	体験して楽しむ展示
7	八千代町立西豊田小学校	R7.10.22～R7.10.28	419	身近な自然
8	北茨城市立精華小学校	R7.10.31～R7.11. 7	615	身近な自然
9	土浦市立大岩田小学校	R7.11.27～R7.12. 4	426	身近な自然
10	茨城県立友部特別支援学校	R8. 1.20～R8. 1.23	197	身近な自然

＜社会教育施設＞

No.	会 場	期 間	入場者数	テーマ
1	茨城県立図書館	R7. 4.25～R7. 5. 6	4,148	身近な自然
2	常総市立図書館	R7.11.13～R7.11.20	149	身近な自然



移動博物館（城里町立沢山小学校）
Mobile Museum
(Shirosato Municipal Sawayama Elementary School)



移動博物館（土浦市立大岩田小学校）
Mobile Museum
(Tsuchiura Municipal Oiwa Elementary School)

(2) 教育用資料貸出

学校や社会教育施設での理科教育や環境教育を支援するため、所蔵している標本・資料を教育用貸出資料として整備している。資料の追加や変更がある場合は、その都度ホームページで案内している。

No.	貸出先	期 間	使用目的	教材名
1	東京農業大学 森林総合科学科	R7. 4.23～ R7. 5.23	授業	頭骨標本セット1
2	茨城県立緑岡高等学校	R7. 4.28～ R7. 5.12	イベント	ゴム枕8個、ゴムペラ8本 アンモナイト型、三葉虫型、サメの歯型各5個

No.	貸出先	期 間	使用目的	教材名
3	東京都市大学	R7. 5.21～ R7. 5.23	授業	昆虫のスケッチ用標本セット（30）2 貝化石セット（40）1
4	利根町立利根中学校	R7. 5.22～ R7. 5.29	授業	全身骨格標本5、頭骨標本（4個）セット1、頭骨標本（2個） セット2、両生類骨格標本2
5	東京都市大学	R7. 5.28～ R7. 5.30	授業	貝化石セット（40）1
6	つくば市立手代木中学校	R7. 5.30～ R7. 6. 7	授業	頭骨標本（4個）セット1 頭骨標本（2個）セット2
7	つくば市立学園の森 義務教育学校	R7. 5.31～ R7. 6.14	授業	頭骨標本ビーバーセット1 頭骨12個セット1
8	茨城県立境高等学校	R7. 6. 4～ R7. 6. 8	文化祭	頭骨標本セット（2個）2、全身骨格標本5、昆虫標本セッ ト（7種）5、秋の昆虫観察用標本30、両生類骨格標本2、 化石29、始祖鳥ベルリン標本1、クマのトランクキット1
9	つくばみらい市立谷和原中学校	R7. 6.8～ R7. 6.18	授業	頭骨標本（2個）セット2 鳥の卵2（6個）セット1、美しい鳥の羽1と2
10	つくば市立吾妻中学校	R7. 6.14～ R7. 6.27	授業	全身骨格標本（サル）1 頭骨標本（4個）セット1
11	茨城県立緑岡高等学校	R7. 6.17～ R7. 6.30	イベント	ゴム腕8個、ゴムべら8本 アンモナイト型、三葉虫型、サメの歯型各5個
12	坂東市立長須小学校	R7. 6.20～ R7. 7. 4	授業	昆虫のスケッチ用標本（30個）1 昆虫の標本セット（7種）5
13	つくばみらい市立伊奈東中学校	R7. 6.22～ R7. 7. 6	授業	進化学習キット（始祖鳥ベルリンキット標本）1
14	つくば市立竹園西小学校	R7. 6.24～ R7. 7. 9	授業	タネのトランクキット1
15	利根町立利根中学校	R7. 7. 9～ R7. 7.18	授業	動物の進化学習キット1 始祖鳥のベルリン標本1
16	NPO法人 リヴォルヴ学校教育研究所	R7. 7.27～ R7. 8.10	イベント	アンモナイト型・三葉虫型・ビカリア型 各5 ゴム腕・ヘラ各10
17	茨城県環境政策課	R7. 7.31～ R7. 8. 5	イベント	解説パネル（筑波山の植物2、茨城の昆虫、哺乳類、キツ ツキ、筑波山の地形と地質、カラの仲間、カワセミの仲間）、 動物の剥製、キノコのレプリカ
18	茨城県県南教育事務所	R7. 8. 1～ R7. 8. 5	教員研修	タネのトランクキット1
19	つくば市立前野小学校	R7. 8.14～ R7. 8.26	教員研修	タネのトランクキット1
20	つくばみらい市立福岡小学校	R7. 8.31～ R7. 9.14	授業	秋の昆虫観察用標本1
21	NPO法人 リヴォルヴ学校教育研究所	R7. 9. 6～ R7. 9.14	授業	火山噴出物6点セット1
22	小田協議会	R7. 9.13～ R7. 9.24	イベント	化石セット、アンモナイト学習キット各1 アンモナイトの型、三葉虫の型、ビカリアの型 サメの歯の型 各10個
23	つくば市立春日学園 義務教育学校	R7. 9.15～ R7. 9.30	授業	はぎとり標本8枚セット1、アンモナイト学習キット1 （ヒマラヤアンモナイト化石含む） 火山噴出物6点セット1
24	つくば市立前野小学校	R7. 9.21～ R7.10.4	授業	昆虫のスケッチ用標本 拡大模型（アゲハチョウ、カブトムシ、オオカマキリ）
25	つくば市立研究学園小学校	R7. 9.27～ R7.10.11	授業	秋の昆虫観察用標本1、ダンゴムシキット1 両生類の骨格標本1
26	五霞町立五霞小学校	R7. 9.28～ R7.10. 5	授業	ダジック・アース1
27	つくば市立前野小学校	R7.10.11～ R7.10.25	授業	化石セット、動物の進化学習キット、アンモナイト学習キッ ト各1 アンモナイトの型、三葉虫の型、サメの歯の型 各10個
28	つくばみらい市立 富士見ヶ丘小学校	R7.10.18～ R7.11. 1	授業	頭骨標本4種セット1 頭骨3個セット＋木片（ビーバー）1

No.	貸出先	期 間	使用目的	教材名
29	坂東市立中川小学校	R7.10.23～ R7.11. 6	授業	地層はぎとり標本8枚セット
30	常総市立石下西中学校	R7.10.28～ R7.11.11	授業	頭骨標本4種セット1
31	ふじしろ図書館	R7.10.31～ R7.11.14	イベント	果実模型（クヌギ、コブシ、ミツバアケビ、チチミザサ、 ゲンノショウコ） 昆虫模型（カブトムシ、アゲハ、カマキリ、アブラゼミ） 声あてボックス3種、匂いボックス3種、ダジックアース
32	坂東市立岩井第一小学校	R7.11. 7～ R7.11.18	授業	地層はぎとり標本8枚セット
33	つくば市立竹園東小学校	R7.11. 8～ R7.11.16	授業	昆虫のスケッチ用標本3、昆虫標本セット7種5 秋の昆虫観察用標本1
34	東京都市大学	R7.11. 8～ R7.11.11	授業	貝化石セット1
35	八千代町立下結城小学校	R7.11. 9～ R7.11.22	授業	化石セット1
36	鹿嶋市立鹿野中学校	R8. 1.21～ R8.1.29	授業	造岩鉱物セット9
37	常総市立石下西中学校	R8. 2.17～ R8. 3. 3	授業	地層はぎとり標本8枚 化石セット1
38	つくばみらい市立谷和原中学校	R8. 3. 4～ R8. 3.13	授業	化石セット1
39	鹿嶋市立鹿野中学校	R8. 3. 7～ R8. 3.21	授業	地層はぎとり標本8枚
40	開智望小学校	R8. 3.15～ R8. 3.22	授業	骨格標本（タイ、カエル、ミズオオトカゲ、ニワトリ、イヌ、 サル）各1 頭骨4個セット2、キョネコセット4

(3) 講師派遣

学校、社会教育施設などからの授業支援や講演などの要請に対し、博物館職員を派遣し、自然科学やキャリア形成についての普及啓発を図った。講師の派遣の形態により、希望する団体などへ出向く「館外派遣」と、団体来館時に博物館内で実践する「館内派遣」を実施した。

① 学校・幼稚園など

<館内>

No.	派 遣 先	期 日	内 容	派遣職員	参加人数
1	坂東市立七郷小学校4年生	R7. 5.27	夏の野鳥観察	佐野拓哉	31
2	坂東市立七郷小学校3年生	R7. 6. 5	昆虫観察会	久松正樹 石塚武彦	28
3	常総市教育研究会生活科・総合学習部会	R7. 7.29	植物を用いた体験的な学び	豊崎賢二	30
4	坂東市理科研究部	R7. 8.20	実物資料を活用した学習の紹介（地学編）	前橋千里	18
5	坂東市立七郷小学校3年生	R7. 9. 9	昆虫観察会	久松正樹 石塚武彦	31
6	常総市立菅生小学校3年生	R7. 9.30	博物館や菅生沼周辺の動植物について	小泉直孝 久松正樹	27
7	常総市立菅生小学校3年生	R7.11.12	博物館や菅生沼周辺の動植物について	小泉直孝 久松正樹	50
8	坂東市立七郷小学校4年生	R7.11.18	秋の野鳥観察	佐野拓哉	31
9	坂東市立七郷小学校6年生	R7.11.19	地層と化石の観察	佐藤一康	34
10	坂東市立七郷小学校5年生	R7.11.20	流れる水のはたらき	石塚勇太	22
11	坂東市立七郷小学校4年生	R8. 1.20	冬の野鳥観察	佐野拓哉	31
12	坂東市立中川小学校	R8. 1.23	ミクロの世界をのぞいてみよう	前橋千里	23
13	茨城県立並木中等教育学校	R8. 2.14	博物館のミッション	高橋 淳	21
14	茨城県立土浦第一高等学校附属中学校	R8. 3. 6	木の葉石を活用した発展的な学習	佐藤一康	80
15	つくばトッポンチーノ保育園	R8. 3.18	南極の自然	北澤佑子	16

派遣延べ 19人 参加延べ473人

<館外>

No.	派遣先	期 日	内 容	派遣職員	参加人数
1	ソニー科学教育研究会	R7. 5.18	茨城の大地をつくるー石と鉱物ー	小池 渉	18
2	常総市立菅生小学校	R7. 5.30	菅生沼のタチスミレの観察と保全活動	豊崎賢二 飯田勝明	87
3	茨城県立並木中等教育学校	R7. 7.11	恐竜時代の植物について	滝本秀夫	25
4	土浦市教育研究会理科教育研究部	R7. 8. 4	塩原層群の岩石を活用した実技研究	佐藤一康	40
5	下妻市教育研究会生活科・総合学習研究部	R7. 8. 8	コケの観察とテラリウムづくり、授業への応用	鶴沢美穂子	12
6	県南北相馬地区理科実技研修会	R7. 8.22	昆虫の体のつくり	久松正樹	11
7	日立市立駒王中学校	R7. 9. 3	標本の種類と標本の観察からわかること	滝本秀夫	96
8	常総市立石下西中学校	R7. 9.16	職業人に学ぶ（博物館学芸員）	鶴沢美穂子	95
9	常総市教育委員会	R7. 9.16	南極での体験談・幼少期の興味関心	北澤佑子	31
10	愛光学園中学校	R7. 9.16	古生物学の魅力と研究紹介	加藤太一	220
11	取手市立六郷小学校	R7. 9.17	土地のつくりと変化	佐藤一康	16
12	つくば市立前野小学校	R7.10.22	地層と化石について	佐藤一康	25
13	つくばみらい市立伊奈小学校	R7.10.31	地層と化石について	佐藤一康	35
14	取手市立久賀小学校	R7.11. 6	土地のつくりと変化	佐藤一康	40
15	坂東市立猿島中学校	R7.11. 6	南極での体験談	北澤佑子	349
16	下妻市立豊加美小学校	R7.11. 8	化石からわかること	滝本秀夫	43
17	坂東市立岩井中学校	R7.11.20	南極の自然・環境・体験	北澤佑子	666
18	坂東市立中川小学校	R7.11.21	木の葉石を割って化石を探そう	前橋千里	48
19	県西理科同好会	R7.11.22	葉脈標本づくり	豊崎賢二	14
20	石岡市立東小学校	R7.11.27	どんぐりの不思議・どんぐりを使った工作	豊崎賢二	19
21	茨城県立鹿島高校附属中学校	R7.12. 8	南極派遣の経緯・経験	北澤佑子	130
22	結城市立結城西小学校	R7.12. 9	博物館の仕事・南極での仕事	北澤佑子	300
23	つくば市立前野小学校	R7.12.18	博物館の仕事・南極での仕事	北澤佑子	176
24	坂東市立神大実小学校	R8. 1.21	菅生沼での野鳥観察	佐野拓哉	38
25	取手市立久賀小学校	R8. 1.28	南極での活動	北澤佑子	45
26	稲敷市立桜川中学校	R8. 2. 2	土の中にはどのような生態系が広がっているか	吉田 佑	44
27	つくば市立学園の森義務教育学校	R8. 2. 6	学芸員の仕事	鶴沢美穂子	250
28	常総市立菅原小学校	R8. 2.20	将来の夢へ向かって	北澤佑子	45
29	取手市立六郷小学校	R8. 3. 6	南極での活動について	北澤佑子	35
30	坂東市立東中学校	R8. 3.17	木の葉化石発掘体験	前橋千里	48

派遣延べ 31人 参加延べ3001人

② 大学および研究機関など

<館内>

No.	派遣先	期 日	内 容	派遣職員	参加人数
1	茨城大学教育学部	R7. 5.23	初等理科教育法研究（理科の授業でのICT活用について）（オンライン）	佐藤一康	261
2	秀明大学学校教師学部	R7. 6.20	博物館を活用した理科授業づくり	佐藤一康	9
3	茨城県高等学校教育研究会生物部	R7. 8. 6	コケの観察とテラリウム作成、ドングリの観察とドングリの標本作成、魚類に関する実習、アライグマの解剖実験	鶴沢美穂子 世木田和也 北澤佑子 後藤優介	25
4	茨城県高等学校教育研究会生物部	R7. 8. 7	昆虫採集と同定実習	久松正樹	20
5	東京都市大学理工学部自然科学科	R7. 8.26	コケ植物をテーマとした企画展の工夫について	鶴沢美穂子	30
6	大妻女子大学	R7.10.19	博物館の教育活動と学校における博物館活用について	高橋 淳	8
7	東京農工大学農学部	R7.12. 5	博物館の資料収集・保管の現状	後藤優介	9
8	秀明大学学校教師学部	R7.12. 6	博物館を活用した理科授業づくり	佐藤一康	7

派遣延べ 11人 参加延べ 369人

<館外>

No.	派遣先	期 日	内 容	派遣職員	参加人数
1	富山県 立山カルデラ砂防博物館	R7. 8. 9	ツキノワグマの生態を中心とした、山岳地域の危険生物に関するセミナー	後藤優介	60
2	常磐大学人間科学部教育学科	R7.10.14	理科教育における博物館・科学館の活用、南極での体験談	北澤佑子	31
3	千葉大学園芸学部	R7.12. 3	緑の環境を育む 地域作りでの博物館の役割	伊藤彩乃	57
4	筑波大学理科教職授業	R7.12.11	博物館の教育的利用などについて	北澤佑子	80

派遣延べ 4人 参加延べ 228人

③ 社会教育施設など

<館内>

No.	派遣先	期 日	内 容	派遣職員	参加人数
1	イオンワンパーセントクラブ	R7. 8. 2	博物館概要、学芸員の仕事	鶴沢美穂子	107
2	かしま子ども大学	R7. 8.28	博物館概要および企画展に関するレクチャー	北澤佑子 村田一弘	30
3	BSカレッジ	R8. 1.21	館の概要、ボランティア活動など	高橋 淳	35

派遣延べ 4人 参加延べ 172人

<館外>

No.	派遣先	期 日	内 容	派遣職員	参加人数
1	守谷市生涯学習課	R7. 5.10	草花と昆虫の観察	石塚武彦	11
2	みらい倶楽部	R7. 6.21	きらくやまふれあいの丘での植物・昆虫観察	石塚武彦	18
3	かわさき市民アカデミー	R7. 6.24	みどり学Ⅰ（コケ植物）	鶴沢美穂子	80
4	いばらきコープ	R7. 7. 1	SDGsと身の回りの生きもの	石塚武彦 飯田勝明	75
5	国立科学博物館筑波実験植物園	R7. 7. 6	筑波山近隣で見られる身近な自然	石塚武彦	30
6	シャンティつくば	R7. 7.18	南極の自然と生物、観測、航海、基地での活動など	北澤佑子	70
7	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	R7. 7.19	昆虫採集とその観察	久松正樹	48
8	茨城県立図書館	R7. 7.26	南極の自然と生物、観測、航海、基地での活動など	北澤佑子	247
9	一般社団法人日本サステナブルシーフード協会	R7. 8.23	南極と南極海に生息する海洋生物	北澤佑子	29
10	筑波山地域ジオパーク推進協議会	R7. 8.28	上曽トンネル掘削工事における岩石・鉱物の記録	小池 渉	19
11	金田山の生態系を守る会	R7. 9. 6	スズメバチなどの危険生物を学ぼう	久松正樹	21
12	行余会	R7. 9. 6	南極の自然と生物、観測、航海、基地での活動など	北澤佑子	20
13	茨城県環境政策課	R7. 9.20	茨城県に生息する鳥獣・ツキノワグマの生態	後藤優介	103
14	ひたちなか市埋蔵文化センター	R7. 9.21	虎塚古墳周辺のコケ植物の観察	鶴沢美穂子	20
15	茨城県猟友会	R7.10.11	ツキノワグマの生態について	後藤優介	30
16	守谷市生涯学習課	R7.11. 1	草花や昆虫の観察	石塚武彦	12
17	東海村自然倶楽部	R7.11. 1	コケ観察会～田んぼに生えるコケ～	鶴沢美穂子	11
18	宇都宮動物園	R7.12.10	動物のうんちを活用した体験型プログラムの開発（日本動物園水族館協会研修）	後藤優介	36
19	笠間市立笠間公民館	R7.12.13	笠間子ども大学・化石	滝本秀夫	20
20	認定NPO法人宍塚の自然と歴史の会	R7.12.14	里山のコケ植物の観察	鶴沢美穂子	18
21	鹿行生涯学習センター	R8. 1.23	どんぐりを使った植物の見分け方、どんぐり文化	世木田和也	8
22	桜川市大和ふれあいセンター	R8. 2.14	さまざまな色と形の石 石絵をつくろう	小池 渉	19

派遣延べ 23人 参加延べ 945人

(4) ジュニア学芸員育成事業

自然に関する研究や博物館の活動に関心をもつ中高生を対象として、調査研究活動の支援などを行った。

新規参加者には基本的な技能の習得に重点を置いた養成講座を実施した。新規参加者および継続参加者に自主研究活動への指導・助言を行った。

① 新規受講生向けの養成講座

ジュニア学芸員として活動することに必要な技能を涵養するために、自然調査活動（貝化石を用いた地質調査法、野外観察による魚類調査法、コケを用いた植物分類法など）について基礎的な研修を行った。その後、受講生は各自研究テーマを設定して自由研究を進めてその成果を発表した。

令和7年度は12人が養成講座を受講し、研究報告会を経て、新たにジュニア学芸員として認定された。認定後は引き続き調査研究活動や当館イベント補助活動を行っている。

② 認定済みジュニア学芸員活動継続参加者

継続参加者は、自身の研究テーマについての調査研究や新規ジュニア学芸員養成講座や当館イベントの補助活動を行っている。令和7年度は24人が継続して活動した。

<養成講座>

期 日	内 容
R7. 4.20	ジュニア学芸員養成講座開講式 養成講座「地学調査法」（候補生12人、認定済み8人）
R7. 5.11	養成講座「動物調査法」（候補生11人、認定済み11人） 養成講座「植物調査法」（候補生11人、認定済み11人）
R7. 6. 1	養成講座「研究報告法」（候補生10人、認定済み2人）
R7. 7.12	養成講座「自由研究相談会」（候補生11人、認定済み3人）
R7. 8. 3	養成講座「中間報告会」（候補生11人）※オンラインで実施
R7. 8.24	養成講座「報告会資料作成」（候補生11人）
R7. 9.28	令和7年度ジュニア学芸員候補生研究報告会並びにジュニア学芸員認証式 （候補生12人、認定済み2人）

<その他の活動>

期 日	内 容
R7. 6.15	ベビーカー体験（候補生3人、認定済み5人）
R8. 1.17	車いす体験（認定済み7人）

(5) キャリア形成

大学生、中学生などのキャリア形成のために博物館実習と職場体験学習の受け入れを行った。

① 博物館実習

実 施 日：令和7年8月29日（金）～9月11日（木）のうち10日間

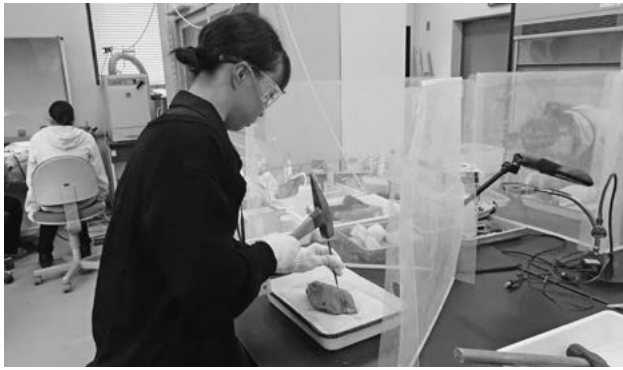
実習生数：10人（鹿児島大学、岐阜大学、筑波大学、東洋大学、日本女子大学、日本大学、広島大学
※五十音順）

内 容：講義「博物館の概要」、収蔵庫見学、標本製作・整理実習（化石標本のクリーニング、甲殻類はく製製作、地衣類標本データ入力）、展示製作実習、展示教育普及活動補助、野外整備、発表会

グループ展示テーマ：A班（植物）「ミュージアムパーク野外のめぐみ」

B班（動物）「見分けてみよう！！あのカメどんなカメ？」

C班（地学）「野外で観察できる岩石や鉱物」



博物館実習（標本製作実習）
Museum Practice
(Specimen Preparation Practice)



博物館実習（展示製作実習）
Museum Practice
(Exhibition Production Practice)

② 中学生職場体験学習

実施日：令和7年8月5日（火）～8月7日（木）

生徒数：11人（県立鹿島高校附属中学校、坂東市立岩井中学校、坂東市立南中学校、境町立境第二中学校）

内容：オリエンテーション「博物館の仕事」、「学芸員の仕事」、「収蔵庫」などについて
体験「水槽生態展示」、「エントランス業務補助」、「発見工房展示物作成」
見学「ガイドツアー」、「施設・研究室・収蔵庫」など

(6) 教育機関、教育施設などへの協力

① 茨城県教育委員会

茨城県児童生徒科学研究作品展の実施に伴い、県南および県西地区展に審査員として職員を派遣した。

② 茨城県教育研修センター

令和7年度 夏季自然体験活動研修講座

博物館を活用した理科教育 実習・講義

会場：ミュージアムパーク茨城県自然博物館

担当：茨城県教育研修センター 松島正人、陶 慶一

実施日：令和7年7月31日（木）

受講者数：24人

内容：博物館野外における動物観察・博物館の活用例紹介	吉田 佑
博物館野外における植物観察・博物館の活用例紹介	豊崎賢二
地学分野における体験・博物館活用例紹介	村田一弘、佐藤一康
博物館における教育普及・授業における博物館の利用	小泉直孝

③ 国立科学博物館

国立科学博物館、日本博物館協会との共催で、「教員のための博物館の日」を実施した。博物館を自発的に楽しみ、博物館を活用した体験的な活動について理解を深める機会を設けることで、豊富な学習資源について理解を深め、学校に対する教育普及活動を充実させるとともに、教員の博物館利用促進を図ることを目的として実施した。

実施日：令和7年8月1日（金）

参加者：49人（県内38人、県外11人）

内容：博物館の団体利用について	小泉直孝
授業のための土壌動物基礎講座	吉田 佑、小林正雄
授業のためのコケ基礎講座	鵜沢美穂子

2 解説・案内事業

(1) インストラクターズルームの運営

① インストラクターズルームでのガイダンス

団体利用に伴う情報提供や助言を行うとともに、情報交換、交流の場を提供した。

令和7年度の利用件数は3,166件。※昨年度は1年間で6,335件。

利用件数が減ったのは、今年度予約システムを更新したことにより、システムの利便性や安定性が向上したため、予約に関する問い合わせが大きく減ったことによる。インストラクターズルームでは、下見などの来館者などに対して、博物館での活動の提案などよりきめ細かな対応を行うことができ、サービスの向上につながった。

② 団体の利用

来館予約・下見・昼食会場（セミナーハウス）については、24時間WEB上で予約を受け付けている。今年度はユーザー側から予約の変更・キャンセルが可能になるなど利便性が向上した。WEB予約に関しては利用者にも浸透しており、予約に関する問い合わせは大きく減った。また、団体利用に関する説明事項は、動画にまとめ当館のホームページで視聴できるようになっている。昼食会場については、時間とテーブル数を事前に予約できるようにしており、雨天時などでも安心して昼食がとれるようになっている。障害のある利用者に対しては、別の入り口から入館したり、講座室の貸し出しをしたりするなどきめ細かな対応をしている。

(2) 学習プログラムの開発・提供

① 自然発見ノート、たんけん・調査カードの提供

小・中学生を対象に以下のプログラムの案内および提供を行った。

館内学習プログラム集：自然発見ノート（6テーマ）第5展示室の展示物の更新に伴い、問題を改訂した。

館内学習プログラム集：たんけんカード（3テーマ）

野外学習プログラム集：野外自然探検隊（3テーマ）、ファミリープログラム（1テーマ）

教育普及プログラム集（60テーマ）

② 学習プログラムの開発・提供

動物・植物・地学それぞれの分野で2本ずつ、追加で映像を作成した。当館ホームページの映像コンテンツに紹介ページを設置し、来館前の事前学習などで活用できるようにした。

③ 幼小ジュニアプログラムの提供

幼稚園、保育所などの未就学児および小学校低学年向けに以下のプログラムを提供した。

館内「はくぶつかんをたんけんしよう」

野外「森であそぼう」、「たねであそぼう」、「落ち葉のお面でへんしんしよう」

「ダンゴムシふしぎはっけん」

④ セルフガイド（館内・野外）の提供

館内や野外施設の見どころをクイズ形式で紹介するセルフガイドをホームページなどで公開した。

展示セルフガイド

野外セルフガイド（野外セルフガイド一年間編一、野外クイズに挑戦Q & A）

(3) 観察支援

① 観察用具の貸し出し

自然発見工房や菅生沼ゲートにおいて、観察用具の貸し出しを行っている。

令和7年度の貸し出し数は、双眼鏡61台、ルーペ2個、虫眼鏡5個、ファミリープログラム1件であった。

② ディスカバリープレイスの運営

ア ディスカバリープレイスにおいて生体展示を行った。

アカハライモリ、ニホンアマガエル黒色個体、ニホンアマガエル普通色個体、水生昆虫15種（クロズマメゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、コツブゲンゴロウ、セスジゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、ツブゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、エゾゲンゴロウ、コガムシ、ヒメガムシ）、ウミウシ類6種（アオウミウシ、クロシタナシウミウシ、コモンウミウシ、サラサウミウシ、シラユキウミウシ、シロウミウシ）、ダイオウグソクムシ、ヨダレカケ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ホトケドジョウ、ホウネンエビ

イ デジタルマイクロスコープ

4K対応のデジタルマイクロスコープを使用し、拡大したチョウ（アカボシゴマダラ）の鱗粉などを大型モニターで見られるようにした。

ウ 電子顕微鏡・3Dプリンタ

走査型電子顕微鏡で有孔虫やアミメアリなどを展示し、来館者が自由に拡大などの操作ができるようにした。3Dプリンタの機器を展示し、3Dプリンタによって製作した昆虫や恐竜頭骨などの立体模型をあわせて展示した。

③ 自然発見工房の運営

ア 野外および自然発見工房内での情報提供

自然発見工房において野外施設や季節の自然についての情報の提供を適宜行った。

イ 「ミュージアムパークの自然」の公開

- ・動物（鳥類・哺乳類の剥製、昆虫の標本、ハチの巣の標本など）
- ・植物（水草類、身近な野草、樹木、ドングリ、材木、キノコ、タケの地下茎など）
- ・地学（木下層貝化石、塩原産植物化石、博物館地下のボーリングコアなど）

ウ 自然発見工房の有効活用に向け、レクチャールーム1・2のリノベーション

エ 野外クイズのスタンプ押印枚数

野外クイズに挑戦Q & A…726枚 野外自然探検隊…33枚

(4) 野外施設の教育的管理

① 自然観察のためのフィールドの整備

教育的な視点で、日常的な管理、点検を継続して行った。

「ばったの原」の下草刈りを行った。

「昆虫の森」の樹木調査をし、雑草などの伐採を行った。

② 解説を伴う野外看板の整備

解説看板や樹名板などの設置、修繕および訂正を行った。

(5) その他 展示解説員研修の実施

展示解説員としての知識や解説技法などの向上のため、研修を実施した。

期 日	テーマなど
R7. 6. 3	燻蒸期外部研修：外部講師による展示解説員研修
R8. 2. 2	停電期間中外部研修：外部の施設を訪問し、接遇や展示解説の技能向上を図る

3 イベント・体験事業

(1) 研究室（植物、地学、動物）所属職員によるイベント

① サイエンストーク（※事前予約制で実施）

調査研究の成果を一般来館者向けにわかりやすく紹介するイベントを実施した。

テーマ	実施日	参加人数	講師 および 担当職員
茨城の海の骨なし動物たち	R7. 4.26	31	講師：池澤広美 担当：小林正雄、吉田 佑
葉化石からよみがえる約165万年前のブナ林の姿	R7. 6. 7	10	講師：伊藤彩乃 担当：横倉政宏
ちょっとマニアックな“初崎層”の化石研究の話	R7. 9.13	オンライン10回線	講師：加藤太一 担当：前橋千里、石塚勇太
知られざるキノコのはたらきとは？	R7.10. 5	27	講師：櫛引豪人 担当：横倉政宏
おさかな調査～菅生沼をのぞいてみたら～	R7.12. 6	24	講師：北澤佑子 担当：吉田 佑
1億年前の化石を調べる ～CTスキャンを用いた最新化石研究～	R8. 3. 7	30	講師：滝本秀夫 担当：石塚勇太、加藤太一

② 自然ラボ（観察会）（※事前予約制で実施）

主に博物館野外および茨城県内の豊かな自然を観察することで、参加者の郷土の自然への理解や自然に親しむ心を養うようなイベントを実施した。※【企】は企画展記念イベント

実施日	テーマ	参加人数	講師 および 担当職員
R7. 4.19	ヘリテージストーン アドベンチャー in 石切山脈	22	担当：佐藤一康、前橋千里、前島 清
R7. 4.19	【企】筑波山で春の植物を観察しよう	27	講師：小幡和男氏（当館名誉学芸員）、飯田勝明 担当：鶴沢美穂子、世木田和也、栗栖宣博
R7. 5.17	【企】磯の動物を観察しよう	中止	担当：池澤広美、北澤佑子、小林正雄
R7. 5.25	湿地の希少植物を観察しよう	21	担当：伊藤彩乃、豊崎賢二、世木田和也、栗栖宣博、 飯田勝明
R7. 5.31	博物館で昆虫を観察しよう	39	担当：久松正樹、石塚武彦、 当館ボランティア（昆虫チーム）
R7.10.18	キノコを観察しよう	28	講師：糟谷大河氏（慶應義塾大学） 担当：櫛引豪人、世木田和也、鶴沢美穂子
R7.10.25	【企】博物館でどんぐりを観察しよう	35	担当：伊藤彩乃、豊崎賢二、成田 昭、世木田和也
R8. 1.10	【企】菅生沼の鳥、じっくりじっくり見てみよう	17	担当：後藤優介、佐野拓哉
R8. 1.12	野焼きがタチスミレを救う	20	講師：小幡和男氏（当館名誉学芸員） 担当：豊崎賢二、伊藤彩乃、世木田和也、成田 昭



博物館でどんぐりを観察しよう（10月）

Let's observe acorns at the museum（October）



菅生沼の鳥、じっくりじっくり見てみよう（1月）

Let's take a close look at the birds of Sugo Swamp（January）

③ 自然ラボ（講座）（※事前予約制で実施）

自然についての実験、実習および講義を行い、参加者が自然の不思議や楽しさを実感できるようなイベン

トを実施した。※【企】は企画展記念イベント

テーマ	実施日	参加人数	講師 および 担当職員
【企】美しき巨大晶洞の成り立ちを探る	R7. 4. 5	30	講師：門馬綱一氏（国立科学博物館） 担当：小池 渉、佐藤一康、前島 清
きみはアカミミガメを知っているか？	R7. 6.21	30	講師：後藤優介（動物研究室） 担当：吉田 佑
【企】プランクトン化石とウンチ化石から探る中生代の海洋生態系	R7. 7.26	83	講師：泉賢太郎氏（千葉大学） 担当：加藤太一、前橋千里、村田一弘
【企】恐竜時代の景色はどんなの？～イラストレーターと研究者が描く恐竜時代～	R7. 8. 2	140	講師：ツク之助氏（サイエンスイラストレーター）、 加藤太一、滝本秀夫 担当：前橋千里
みてみよう！いきものミクロ☆たんけん隊	R7.11.29	45	講師：滝本祐也氏（長岡技術科学大学）ほか 担当：池澤広美、長塚和徳
【企】どんぐりの謎ー拾って食べて考えたー	R7.12.20	96	講師：盛口 満氏（沖縄大学） 担当：世木田和也、伊藤彩乃、小泉直孝、豊崎賢二
宇宙大航海 part II	R8. 3. 1	30	講師：高橋 淳（地学研究室） 担当：石塚勇太、前橋千里
県の石からわかる大地の成り立ち ～関東編～	R8. 3.14	21	講師：石塚勇太（地学研究室） 担当：佐藤一康、前島 清
【企】あなたもきっと、鳥が見たくなる！ ー観察を続けて見えてくることー	R8. 3.21	74	講師：濱尾章二氏（国立科学博物館）、 平城達哉氏（奄美市立奄美博物館） 担当：佐野拓哉、後藤優介、櫛引豪人

④ サンデーサイエンス（※午前は事前予約制、午後は当日抽選制で実施）

毎週日曜日に、月毎のテーマで自然博物館ならではの観察や実験、ものづくりなど、自然に対する関心を高めることを目的とするイベントを実施した。

天候不良時や猛暑時の来館者の安全を考慮して、スタディールーム、野外施設発見工房で実施した（中庭での植物採取や砂場での化石探しのときのみ野外で活動）。スタディールームでの上限人数を30人とし、博物館ボランティアに協力いただきながら午前と午後の2回実施した。繁忙期中は午前と午後どちらも事前予約制とし、来館者の円滑な案内につながった。

テーマ	実施月	回数	参加人数	担当職員	
動物のうんちをつくろう！	4	8	292	動物研究室	小林正雄、長塚和徳、池澤広美、 後藤優介、吉田 佑、北澤佑子
貝化石を見つけよう	5	8	251	地学研究室	滝本秀夫、村田一弘、前島 清、 高橋 淳、前橋千里、佐藤一康
コケのテラリウムをつくろう	6	10	253	植物研究室	鶴沢美穂子、櫛引豪人、小泉直孝、 世木田和也、横倉政宏
動物のあしあとをつくろう	7	8	311	動物研究室	佐野拓哉、長塚和徳、池澤広美、 後藤優介、石塚武彦、小林正雄
葉っぱのスタンプでエコバッグをつくろう	8	10	234	植物研究室	栗栖宣博、横倉政宏、小泉直孝、 櫛引豪人、世木田和也
木の葉化石を見つけよう	9	8	258	地学研究室	村田一弘、滝本秀夫、前島 清、 高橋 淳、佐藤一康、小池 渉、 石塚勇太、前橋千里
観察してつくろう！「クマムシ」 ブラバンアート	10	8	199	動物研究室	吉田 佑、北澤佑子、池澤広美、 後藤優介、小林正雄、久松正樹、 長塚和徳
木の葉化石を見つけよう	11	10	259	地学研究室	滝本秀夫、村田一弘、前島 清、 高橋 淳、小池 渉、佐藤一康、 前橋千里、石塚勇太、加藤太一
どんぐりブックをつくろう	12	6	285	植物研究室	小泉直孝、豊崎賢二、成田 昭
貝化石を見つけよう	1	8	290	地学研究室	高橋 淳、村田一弘、滝本秀夫、 前島 清、前橋千里、加藤太一、 小池 渉、石塚勇太

テーマ	実施月	回数	参加人数	担当職員	
竹筆をつくろう	2	4	103	植物研究室	成田 昭、小泉直孝、横倉政宏
カモの小さな置き物をつくろう	3	8	316	動物研究室	石塚武彦、久松正樹、佐野拓哉、北澤佑子、吉田 佑、小林正雄



葉っぱのスタンプでエコバッグをつくろう（8月）

Let's make eco bags with leaf stamps (August)



木の葉化石を見つけよう（9月）

Let's find leaf fossils (September)

⑤ 理科自由研究のヒントを見つけよう（映像ホール＋オンライン）

小中学生とその家族を対象に、理科自由研究を行う際のヒントや留意点などをわかりやすく伝えることで、理科を身近なものとして認識させるとともに、児童生徒の探究する心を育てる場として実施した。学芸系職員による研究にまつわる体験談や研究の進め方などを紹介した。

期 日：令和7年7月12日（土）

内 容：「自由研究の進め方」

「身近な植物を観察しよう」

「身近な場所にどんな鳥がいるか調べよう」

「砂の研究－河原や海岸の砂を調べよう－」

教育課長 小泉直孝

植物研究室 豊崎賢二

動物研究室 佐野拓哉

地学研究室 佐藤一康

参加者：映像ホール140人＋オンライン30回線

⑥ ネイチャーガイド

毎月、土曜日（第3土曜日を除く）に、博物館で観察できる植物、動物、岩石、自然環境などについて、テーマを決めて学芸系職員による解説を行った。令和7年度は31回実施し、延べ309人が参加した。

(2) 展示解説員によるイベント

① わくわくディスカバリー

展示解説員による幼児および小学生向けのイベントを実施した。スタディールームで午前（事前予約制）・午後（当日抽選制）の2回に分けて実施した。

テーマ	実施日	参加人数	担当職員
おさんぽ恐竜をつくろう！	R7. 5.24	54	岩本静夏、木村弥生、原田紗里、佐藤一康、滝本秀夫
アジサイのうちわをつくろう！	R7. 6.28	96	小野田裕介、森田麻友、渡辺優子、豊崎賢二、横倉政宏
パタパタはばたくヒバリをつくろう！	R7. 7.26	77	坂本由香理、羽田茉莉乃、渡部花歩、豊崎賢二、長塚和徳
博物館で夏祭り！手作りお魚すくいをつくろう！	R7. 8.23	74	飯倉美波、滝本麻衣子、龍田 愛、北澤佑子、長塚和徳

テーマ	実施日	参加人数	担当職員
つくってかざろう！天体のモビール	R7. 9.27	82	石川優里、大谷凛音、昼間佳奈子、佐野拓哉、村田一弘
ハロウィンコウモリのお面をつくろう！	R7.10.25	52	井口結賀、木下春菜、辻 史織、佐野拓哉、高橋 淳
木の実でオーナメントをつくろう！	R7.11.22	50	真柄紫保、宮澤美里、栗崎香菜、鶴沢美穂子、成田 昭



アジサイのうちわをつくろう！（6月）
Let's make a hydrangea fan! (June)



つくってかざろう！天体のモビール（9月）
Make it and decorate it! celestial mobile (September)

② ガイドツアー、スポットガイド

昨年度よりスポットガイドは土曜日2回、日曜日1回に回数をふやし、大型モニターやタブレット端末を使用して解説ができるようにしたり、常設展示室でのガイドを実施したりと取り組みをふやしている。今年度は混雑日のガイドツアーを中止にするのではなく、館内見どころガイドとして形を変えて実施する取り組みを新たに開始した。

＜ガイドツアーの参加者数＞

月	参加者数	月	参加者数	月	参加者数	月	参加者数
4	137	7	180	10	137	1	203
5	151	8	150	11	150	2	95
6	116	9	152	12	96	3	184
前期計		886	後期計		865	合計	
						1751	

＜スポットガイドのテーマと参加者数＞

実施日	テーマ	参加人数	実施日	テーマ	参加人数
R7. 4. 5	だんごむしのせかい	10	R7. 9. 6	カメについて～浦島太郎のカメは何ガメ？～	30
R7. 4. 5	マイマイカブリのおはなし	25	R7. 9. 7	カラスのおはなし	20
R7. 4. 6	たんぽぽのおはなし	25	R7. 9.13	季節の花と花ことば	10
R7. 4.12	カブトムシのおはなし	3	R7. 9.13	サメのおはなし	8
R7. 4.12	カエルのおはなし	15	R7. 9.14	カワセミを知ろう！	10
R7. 4.13	身近にいる危険な昆虫	50	R7. 9.20	カエルのおはなし	5
R7. 4.19	カラスのおはなし	3	R7. 9.20	ヘビのおはなし	20
R7. 4.19	カメについて～浦島太郎のカメは何ガメ？～	20	R7.11. 1	骨のおはなし	10
R7. 4.20	海の星 ヒトデのおはなし	15	R7.11. 1	海の星 ヒトデのおはなし	4
R7. 4.26	モズのおはなし	6	R7.11. 2	サメのおはなし	10
R7. 4.26	ヘビのおはなし	15	R7.11. 8	カワセミを知ろう！	5
R7. 4.27	アカゲラのおはなし	15	R7.11. 8	カエルのおはなし	10
R7. 5.10	タネのふしぎ	20	R7.11. 9	たんぽぽのおはなし	10

実施日	テーマ	参加人数	実施日	テーマ	参加人数
R7. 5.11	サメのおはなし	15	R7.11.15	ツノゼミのせかい	4
R7. 5.17	ツノゼミのせかい	7	R7.11.15	カブトムシのおはなし	10
R7. 5.17	ホネのおはなし	10	R7.11.16	タネのふしぎ	20
R7. 5.18	カワセミを知ろう！	20	R7.11.23	アカゲラのおはなし	7
R7. 5.25	だんごむしのせかい	30	R7.11.29	海の星 ヒトデのおはなし	4
R7. 5.31	シーラカンスの不思議	35	R7.11.29	秋の星座のおはなし	15
R7. 5.31	たんぼぼのおはなし	30	R7.11.30	クイズに挑戦！アルマジロ博士になろう！	18
R7. 6. 1	季節の花と花ことば	15	R7.12. 6	カメについて～浦島太郎のカメは何ガメ？～	7
R7. 6. 7	アカゲラのおはなし	1	R7.12. 6	大きな鳥のおはなし	15
R7. 6. 7	カメについて～浦島太郎のカメは何ガメ？～	15	R7.12.13	歯のかたちのおはなし	20
R7. 6. 8	春と夏の星座のおはなし	30	R7.12.14	へびのおはなし	30
R7. 6.14	カブトムシのおはなし	15	R7.12.20	どんぐりころころどの木の子？	6
R7. 6.14	身近にいる危険な昆虫	35	R7.12.20	シーラカンスの不思議	15
R7. 6.15	カラスのおはなし	20	R7.12.21	カラスのおはなし	15
R7. 6.21	アルマジロのおはなし	15	R7.12.27	ホネのおはなし	10
R7. 6.21	海の星 ヒトデのおはなし	20	R7.12.27	サメのおはなし	10
R7. 6.22	歯のかたちのおはなし	10	R8. 1. 3	カワセミを知ろう！	4
R7. 7. 5	サメのおはなし	20	R8. 1. 3	うまのおはなし	20
R7. 7. 6	季節の花と花ことば	14	R8. 1. 4	タネのふしぎ	20
R7. 7. 6	たんぼぼのおはなし	20	R8. 1.10	カブトムシのおはなし	25
R7. 7.12	カエルのおはなし	20	R8. 1.11	海の星 ヒトデのおはなし	20
R7. 7.12	カワセミを知ろう！	20	R8. 1.17	ツノゼミのせかい	8
R7. 7.13	タネのふしぎ	35	R8. 1.17	へびのおはなし	30
R7. 7.19	へびのおはなし	10	R8. 1.18	冬の星座のおはなし 午年スペシャル！！	7
R7. 7.27	ツノゼミのせかい	4	R8. 1.24	クイズに挑戦！アルマジロ博士になろう！	15
R7. 8. 2	ホネのおはなし	15	R8. 2.14	だんごむしのせかい	10
R7. 8. 2	だんごむしのせかい	20	R8. 2.14	アカゲラのおはなし	25
R7. 8. 2	アルマジロのおはなし	10	R8. 2.15	カメについて～浦島太郎のカメは何ガメ？～	15
R7. 8. 3	歯のかたちのおはなし	15	R8. 2.21	カエルのおはなし	10
R7. 8. 9	身近にいる危険な昆虫	10	R8. 2.21	骨のおはなし	10
R7. 8. 9	シーラカンスの不思議	40	R8. 2.22	カラスのおはなし	16
R7. 8.24	たんぼぼのおはなし	20	R8. 2.28	サメのおはなし	8
R7. 8.30	アカゲラのおはなし	23	R8. 3. 1	クイズに挑戦！アルマジロ博士になろう！	20
R7. 8.30	夏の星座のおはなし	25	R8. 3. 7	シーラカンスの不思議	25
R7. 9. 6	カブトムシのおはなし	15	R8. 3. 7	へびのおはなし	30
R7. 9.21	ツノゼミのせかい	12	R8. 3. 8	カワセミを知ろう！	30
R7. 9.28	アルマジロのおはなし	15	R8. 3.14	どんぐりころころどの木の子？	15
R7.10. 4	タネのふしぎ	15	R8. 3.14	カブトムシのおはなし	10
R7.10. 5	だんごむしのせかい	20	R8. 3.15	たんぼぼのおはなし	25
R7.10.11	秋の星座のおはなし	15	R8. 3.21	海の星 ヒトデのおはなし	6
R7.10.12	どんぐりころころどの木の子？	20	R8. 3.21	春の星座のおはなし	15
R7.10.18	カラスのおはなし	7	R8. 3.22	大きな鳥のおはなし	30
R7.10.18	歯のかたちのおはなし	12	R8. 3.28	カタツムリのおはなし	10
R7.10.19	シーラカンスの不思議	40	R8. 3.28	歯のかたちのおはなし	20
R7.10.26	アカゲラのおはなし	13	R8. 3.29	タネのふしぎ	10
合計					1,877



ガイドツアー
Guide Tour



スポットガイド
Focused Guide

(3) 当館ボランティアによるイベント

① 子ども自然教室（※事前予約制で実施）

ボランティアの企画運営による、小中学生を対象とした自然観察・体験活動を行うイベントを実施した。

テーマ	実施日	参加人数	担当ボランティア
博物館で季節の昆虫を観察しよう	R7. 5.10	28	昆虫チーム
自然とのふれあい	R7. 6.14	13	ネイチャーゲームチーム
土のペンダントをつくろう！	R7. 7.12	21	有志
光る泥だんごを作ろう！！	R7. 8. 9	26	地学チーム
ちりモン図鑑をつくろう	R7. 9.13	23	イベントチーム
きのこハンター	R7. 9.27	19	きのこけチーム
ネイチャーゲームで自然とふれあおう	R7.11. 8	10	ネイチャーゲームチーム
博物館で冬の野鳥を探そう	R7.12. .6	17	野鳥チーム
マツボックリでツリーを作ろう	R7.12.13	24	図書チーム
土壌のミニモノリスを作ろう！！	R8. 1.10	20	有志
石の図鑑をつくろう	R8. 1.24	21	地学チーム
化石をスケッチしてみよう	R8. 2.14	9	化石クリーニングチーム

② ふれあい野外ガイド

野外施設の自然を楽しむための情報やヒントを提供するためにミュージアムボランティアによる野外ガイドを毎月第3土曜日に行っている。

主な活動チームと活動内容

- ・昆虫（昆虫採集と解説）
- ・植物（野外の植物紹介）
- ・ネイチャーゲーム（自然とのふれあい）
- ・化石クリーニング（木の葉化石の発掘体験）
- ・図書（紙芝居と昔の遊び）
- ・きのこけ（きのこの展示・観察、こけしおりづくり）



ふれあい野外ガイド
Guided tours by museum volunteers in the outdoor facilities



ふれあい野外ガイド
Guided tours by museum volunteers in the outdoor facilities

3 資料の収集・保管・利用

Collection, Conservation and Utilization of Materials

資料は、社会から託された共有財産という基本認識に立ち、博物館として必要な資料の収集を進めるとともに、それが次世代へ引き継がれるような適正な保管を図らねばならない。当館は茨城県立の博物館であることから、資料の収集対象を主に「茨城の風土に根ざした自然」に関する資料とし、いわゆる「地域収集資料“Regional collection”」の充実を進めている。

1 収蔵資料

(1) 資料収集方針と収蔵資料数

茨城県の自然に関する地域資料の充実を図ること、展示および教育普及活動の充実につながる資料を収集することを主な目的として、資料収集を進めている。収集方法別にみると、購入・製作93点、採集3,332点、寄贈348点であった。分野別にみると、動物分野1,949点、植物分野1,297点、地学分野527点であった。令和7年度は、3,773点の国内外産の自然誌資料を収蔵し、当館の収蔵資料総数は471,543点になった。

収蔵資料数（令和8年3月末現在）

年度		令和6年度まで	令和7年度	合 計
事 項	分野			
購入・製作資料	動物	26,791	56	26,847
	植物	8,345	27	8,372
	地学	8,696	10	8,706
採集資料	動物	58,129	1,802	59,931
	植物	92,549	1,270	93,819
	地学	15,361	260	15,621
寄贈資料	動物	138,493	91	138,584
	植物	96,528	0	96,528
	地学	22,870	257	23,127
その他	動物	8	0	8
合 計		467,770	3,773	471,543

ひとまとまり（ロット）の資料については、1ロットを1点として計上している。

(2) 購入・製作資料

動物資料56点、植物資料27点、地学資料10点、合計93点の資料を購入・製作した。

分野	項 目	種 類	点 数	資 料 名
動物	哺乳類	剥製	2	アカネズミ（1）、ハタネズミ（1）
	鳥類	剥製	42	カタグロトビ（1）、ズグロサメクサイコ（1）、オシドリ（1）、コウノトリ（1）、ハイタカ（1）、ハチクマ（1）、ヤマドリ（2）、フクロウ（1）、オナガガモ（1）、ササゴイ（1）、アオバト（1）、チュウヒ（1）、コミミズク（1）、ハシビロガモ（1）、カワウ（2）、アオサギ（1）、ウミウ（1）、クロツグミ（1）、アカショウビン（1）、ヨシガモ（1）、ヤマムスメ（1）、コゲラ（2）、マヒワ（1）、オオルリ（1）、オオマシコ（1）、ミソサザイ（1）、ウグイス（1）、エナガ（2）、ルリカケス（2）、オオアカゲラ（1）、アマミヤマシギ（1）、オオトラツグミ（1）、リュウキュウコノハズク（1）、コガモ（1）、インドガン（1）、カワセミ（2）
		骨格	2	キジ（1）、ノスリ（1）
	無脊椎動物	剥製	1	コモンヤドカリ（1）
		模型	9	料理見本（ござら（アメフラシ）の味噌炒め、ほや刺身、蒸しほや、ルッツ（ユムシ）刺身、なまこ酢（5）、サメハダコケムシ拡大模型（1）、キタムラサキウニ拡大模型（1）、アリストテレスのランタン模型（可動式）（1）、ウニ発生順序模型（1）
植物	維管束植物	アクリル封入標本	25	枝付きドングリ封入標本（5）、ドングリタッチング用封入標本（20）
		複製	2	ツブラジイレプリカ（1）、オオツクバネガシレプリカ（1）

分野	項目	種類	点数	資料名
地学	岩石・鉱物	実物	9	県の石など (9)
	化石	実物	1	宇和島のプレトロトリゴニア (1)

(3) 加工

なし

(4) 採集資料

動物資料1,802点、植物資料1,270点、地学資料260点、合計3,332点の資料を採集した。

分野	項目	点数	資料名
動物	哺乳類	80	ツキノワグマ (4) アライグマ駆除個体 (67)、タヌキ・ハクビシンなど交通事故死個体 (7)、クリハラリス (2)
	鳥類	20	ウグイス、シロハラ、ツグミなどのバードストライク個体など (20)
	両生・爬虫類	3	カミツキガメ (2)、シロマダラ (1)
	魚類	113	淡水魚類 (113)
	昆虫類	1,547	小美玉市のハムシ類 (545)、カタビロシンジュクチカクシゾウムシ (2)、茨城県のアリヅカムシ (52)、オヨギカタビロアメンボなど水生半翅類 (47)、ツヤハダゴマダラカミキリなど (45)、るりぼし掲載標本 (102)、茨城県のハサミムシ (754)
	昆虫類以外の無脊椎動物	39	海産無脊椎動物 (15)、陸・淡水産貝類 (23)、土壤動物 (1)
植物	維管束植物	1,020	種子植物 (1,000)、シダ植物 (20)
	非維管束植物	250	菌類 (200)、コケ植物 (50)
地学	岩石・鉱物	186	万成石など (22)、大甕層の岩石 (5)、鷹峰鉱山の岩石・鉱物 (28)、茨城県内の鉱物 (2)、加波山花崗岩 (2)、筑波変成岩 (1)、県の石など (25)、各務原市のチャート・変形岩など (17)、夜久野オフィオライトの変成斑れい岩 (3)、夜久野層群の砂岩・頁岩 (4)、夜久野の玄武岩 (3)、瀬戸陶土層など (9)、足助断帯の変形岩 (5)、石灰岩 (3)、玄武岩枕状溶岩 (2)、蛇紋岩 (2)、足摺深成岩類 (14)、過アルカリ貫入岩 (2)、室戸岬斑れい岩類 (6)、砂岩 (1)、海岸砂 (2)、北茨城市花園コランダム (1)、岩手県玉山鉱山水晶 (1)、大子町北富田デイサイト (1)、阿蘇テフラ (7)、中新世の宮崎層群 (5)、島根県隠岐の島の黒曜岩・片麻岩など (6)、常磐炭鉱の石炭 (2)、来待石・エクロジャイトなど (5)
	化石	74	日立層群初崎層のサメ類、硬骨魚類など化石 (14)、湯長谷層群亀ノ尾層の硬骨魚類の骨格・鱗化石 (60)

(5) 寄贈資料

令和7年度は、一次資料9件348点（動物資料5件91点、地学資料4件257点）の寄贈を受け入れた。

	分野	寄贈者	資料名
一次資料	動物	鈴木佑弥	スズキコモリグモ (4)
		小熊進之助	ダイニチホシエソ属の一種液浸標本 (1)
		脇 司	吸虫類 (65ロット)
		佐藤宏樹	ウミウシ類液浸標本 (20ロット)
		外山太一郎	ツブイボショウジンガニ液浸標本 (1)
	植物	なし	
	地学	金子 稔	有孔虫プレパラート標本 (日立市久慈浜海岸) (27)
		金子 稔	貝形虫化石プレパラート標本 (守谷市西板戸井) (45)
		望月利彦	サメ類の歯化石 (ひたちなか市) (1)、ホタテの仲間化石 (ひたちなか市) (1)
		安藤寿男	日立層群初崎層の化石 (160) 久米層の化石 (23)

(6) 寄託資料

ナウマンゾウの臼歯および切歯が行方市から寄託され、ディスカバリープレイスで展示している。

寄託者	寄託期間	資 料 名
行方市教育委員会	H7. 4. 1 ～ R8. 3.31	ナウマンゾウ臼歯（2）、切歯（1）

(7) 譲渡資料

動物資料が他機関から譲渡された。

譲渡者	資 料 名
公益財団法人名古屋みなと振興財団 名古屋港水族館	エンペラーペンギン（正羽、黄色羽、黒色羽）、アデリーペンギン（尾羽、フリッパー羽、背側正羽、腹側正羽、頭部羽、綿羽）
アクアワールド茨城県大洗水族館	ミズクラゲの生体一式（ポリプ、エフィラ、生体）

(8) 長期借用資料

貴重な資料を一定の期間ごとに契約更新をしながら、長期にわたって継続的に資料を借用し、常設展示で公開している。

借用元	借用期間	資 料 名
ロサンゼルス自然史博物館	H11. 9.29 ～ R8.10.31	サーベルタイガー実物化石標本（1）
東京税関	H14.12. 1 ～ R8. 3.31	シーラカンス剥製標本（1）

(9) データベース登録

① 収蔵資料データベース

当館では、クラウド型データベースシステムを活用した収蔵管理システムを運用し、収蔵資料データの管理を行っている。登録されたデータは、当館ホームページ上から誰でも検索することができるようになっていいる。収蔵されている資料は、各分野とも未整理のものがああり、収蔵資料の一部がデータベースに登録されていない状況となっている。収蔵資料の有効な活用を進めるためにも、全資料のデータベース登録に向けて作業を進めていく必要がある。

令和7年度のデータベース入力状況（資料数（総計）に対するデータベース登録数（総計）の割合）

分野	資料数（総計）	データベース登録数（R7）	データベース登録数（総計）	割合（％）
動物	225,370	13,504	108,523	48.2
植物	198,719	5,844	189,800	95.5
地学	47,454	2,182	47,404	99.9
合計	471,543	21,530	345,727	73.3

② S-Net/GBIF への標本情報の提供

当館では、平成18年より国立科学博物館の「自然史系博物館のネットワークを活用した生物多様性情報の提供」事業への協力を行っている。この事業は、自然史標本に関する情報を国立科学博物館に提供し、集約した情報をウェブサイト「サイエンスミュージアムネット（S-Net）」で横断的に検索することを可能とするものである。情報は、全世界の生物多様性に関する情報の横断的検索を可能とする「地球規模生物多様性情報機構（GBIF）」のデータベースにも提供され、提供した当館の資料も国外から検索することが可能になっている。

S-Net/GBIF への標本情報の提供件数

年 度	動 物	植 物	地 学	計
令和6年度まで	75,752	146,624	1,941	224,317
令和7年度	2,696	804	0	3,500
合 計	78,448	147,428	1,941	227,817

③ 海洋生物データベースOBISへのデータ提供

グローバルな海洋生物の分布や多様性データを統合し、検索できる世界最大の海洋生物データベース（OBIS）の日本拠点となっている日本海洋生物多様性情報連携センター（海洋研究開発機構 JAMSTEC）から、データ提供の依頼があったため、当館で所有している海洋生物のデータを提供した。

（１）第Ⅱ期総合調査の結果をまとめた報告書「鹿島灘沿岸のヘッドランドおよび茨城県中央沿岸域の海産無脊椎動物（2006-2008）」の中の生物出現記録データ

（２）GBIFに提供したデータのうち、海藻類、海産貝類、海産魚類の標本データ

2 図書・視聴覚資料

当館では、研究のための学術図書や文献の収集のほかに、来館者のための自然科学・博物館学関係の図書や雑誌の収集を行ってきた。併せて自然科学・環境関係の映像ソフトを整備し、図書室に併設されたビデオコーナーで自由に視聴することができるようになっている。

(1) 図書数

項 目		計
和書	一般書・専門書	18,068
	児童書	4,711
	紙芝居	136
洋書		1,087
合 計		24,002

(2) 雑誌タイトル数

項 目	タイトル数
和 雑 誌	8

(3) 視聴覚ソフトタイトル数

分 野	タイトル数
動 物 関 係	364
植 物 関 係	118
地 学 関 係	295
自然一般・環境関係	248
合 計	1,025

※ビデオコーナーにて608タイトルを公開中

3 資料の利用

(1) 資料の貸出

① 展示目的（動物12件128点、植物7件61点、地学1件11点、合計20件200点）

分野	施設・機関	貸出期間	主な貸出標本	使用目的	担当
動物	栃木県立博物館	R7. 3.29～ R7. 7.31	ワニガメ剥製（１） ハクレン剥製（１） ナメクジ類レプリカなど（19）	企画展「外来生物～人によって運ばれた生き物たちからのメッセージ～」	池澤広美
	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	R7. 4. 1～ R7. 8.31	ブルーギルなど魚類剥製（20） カイツブリなど鳥類剥製（11）	展示	北澤佑子 佐野拓哉
	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	R7. 5.27～ R7. 9. 5	スズメバチなど標本セット（6） ドロバチ拡大模型など（11）	特別展示「すごいぞハチの巣」	久松正樹

分野	施設・機関	貸出期間	主な貸出標本	使用目的	担当
動物	森林総合研究所多摩森林科学園	R7. 9. 2～ R7.12. 5	ツキノワグマ全身骨格標本など (4) ツキノワグマ糞標本 (10)	企画展「クマ — かわいい？ こわい？ — “知る”という選択」	後藤優介
	京都水族館	R7. 9.16～ R7.12. 3	セイヨウミツバチ拡大模型 (1)	企画展「京都水族館養蜂部」展	久松正樹
	アクアワールド茨城県大洗水族館	R7. 9.24～ R7.12.14	フロリダマミズヨコエビ液浸標本 (1)	特別企画展「『外来種が〇〇すぎる！？いばらき大外来種展』	池澤広美
	ひたちなか市	R7. 9.25～ R7.10. 1	アライグマ剥製など (2) 声当てボックス (1)	市イベントでの外来生物の展示	後藤優介
	土浦市	R7. 9.26～ R7.10. 8	アライグマおよびキョン剥製 (2)	土浦市環境展	後藤優介
	水戸市立博物館	R8. 1.27～ R8. 3.16	ムササビ、オオサンショウウオ、ニワトリ4剥製など (8) セイヨウタンポポ封入標本など (2)	特別展「子どもミュージアム 夜の生きもの展」	後藤優介 吉田 佑 佐野拓哉
	群馬県立自然史博物館	R8. 2.17～ R8. 6.30	イエシロアリなど (10)、ゴキブリの被り物 (4)	企画展「“害虫”たちの大博覧会」での展示のため	久松正樹 後藤優介
	国立科学博物館	R8. 3. 1～ R8. 6.30	アカシュモクザメ、スローロリス、ヤマカガシ剥製、オオスズメバチ巣盤、アンボйна標本など (13)	特別展「超危険生物展」	北澤佑子 後藤優介 吉田 佑 久松正樹 池澤広美
	栃木県なかがわ水遊園	R8. 3. 2～ R8. 5.15	アブラツノザメ (1)	企画展「魚のフシギ大解明」	北澤佑子
植物	ひたちなか市	R7. 5.15～ R7. 5.21	ミズヒマワリなど (6)	市イベントでの外来生物の普及啓発のため	鶴沢美穂子
	埼玉県立川の博物館	R7. 9.26～ R7.12.18	キノコレプリカ (13)	令和7年度秋季企画展「埼玉の食と菌類」	櫛引豪人
	国立科学博物館	R7. 8.28～ R8. 3.15	モダマ果実など (3)	特別展「大絶滅展—生命史のビッグファイブ」	鶴沢美穂子
	つくば市立前野小学校	R7. 8.14～ R7. 8.26	種の標本 (6)	つくば市教育研究会における教員向けの夏季研修会	櫛引豪人
	千葉大学	R7. 8.28～ R7. 9. 5	植物関係標本 (17)	授業で博物館に関する理解を促すため	鶴沢美穂子
	国立科学博物館	R7.12. 3～ R7.12.26	アツモリソウ標本など (4)	企画展「つくば蘭展」	伊藤彩乃
	茨城県霞ヶ浦環境科学センター	R8. 1.27～ R8. 5.13	どんぐり標本など (12)	特別展示「どんぐりいろいろ」	伊藤彩乃
地学	神栖市歴史民俗資料館	R7.4 .23 ～ R7. 9.30	ゴンフォテリウムなど (11)	特別展「マンモス」	加藤太一

② 研究目的（動物1件5点、植物2件12点、合計3件17点）

分野	施設・機関	貸出期間	主な貸出標本	使用目的	担当
動物	東京大学大学院理学系研究科 生物学講座 上島 励	R7.10.16～ R8. 3.31	<i>Tauphaedusa</i> 属標本 (5)	<i>Tauphaedusa</i> 属の分類学的研究	池澤広美
植物	千葉工業大学 森林圏微生物学研究室 白川 誠	R6. 8.23 ～ R6.10.31	ヒメカタショウロ (1) ニセショウロ属 sp. (1)	<i>Scleroderma</i> 属の分類研究：特に <i>S. venenatum</i> の日本新産種報告のため	櫛引豪人
	長岡市立科学博物館 櫻井幸枝	R7.11.27～ R8. 5.31	シンミズヒキさく葉標本 (10)	シンミズヒキとミズヒキ、および種間雑種の形態の比較	鶴沢美穂子
地学	なし				

(2) 資料の閲覧（特別観覧）（合計8件8人）

分野	閲覧者	閲覧日	主な閲覧標本	閲覧目的	担当
動物	筑波大学 地球科学学位 プログラム博士後期課程 近藤征海	R7. 5.27	ツキノワグマ：INM-1-47882, 47883, 48145, 48146, 58568 ニホンノウサギ：INM- 1-47858, 47859, 47868, 47986, 48046 ハクビシン：INM-1-41865, 41866, 41869, 41884, 48039 タヌキ：41877, 41879, 41883, 41957, 41971	博士研究のデータ収集	後藤優介
	福島大学大学院食農科学 研究科生産環境科学コー ス 農村計画学研究室修士 1年 佐藤翔悟	R7. 7.25	福島県産アキアカネ標本	修士研究のデータ収集	久松正樹
植物	オウ・キンイ	R7.10.10	カモノハシ（イネ科）	修士研究「茅葺き屋根材の利用」 についての研究	伊藤彩乃
	岡山理科大学 東馬哲雄	R7.10.31	イワキハグマ、ヤミゾハグマ、 およびタンザワウマノスズク サ、オオバウマノスズクサの 植物標本	コウヤボウキ属の雑種の関する研 究、およびウマノスズクサ属の種 子散布に関する研究	伊藤彩乃
	江口哲平	R7.11.16	ゲジゲジシダとハイホラゴケ 類の植物標本	茨城県内のゲジゲジシダとハイホ ラゴケ類の形態を把握	伊藤彩乃
地学	国立科学博物館 理学研 究部 鉱物科学グループ 研究主幹 門馬綱一	R7. 4.11	岐阜県中津川市産のペグマタ イト晶洞標本	書籍「小学館の図鑑NEO POCKET 鉱物」（B6版）に掲載する写真撮 影	小池 渉
	北海道大学理学院自然史 科学専攻 宇津城遥平	R8. 2.10	ティラノサウルス（スタン） の骨格標本1体	写真撮影および脊椎の計測を行い、 獣脚類の頸部動作様式の復元	加藤太一
	国立科学博物館 地学研 究部 日本学術振興会特 別研究員（PD） 三上智之	R8. 3.22	ドレパナスピス、リノプテラ スピス、アストラスピス	魚類のヒレの起源と進化を解明す る研究のために、初期の魚類であ るドレパナスピスなどにおける、 ヒレに関連する構造の状態を観察・ 撮影	加藤太一

(3) 学術論文などに掲載された資料

分野	資料名	掲載された学術論文など
動物	アライグマ消化管容物標本150点	鈴木郁子・落合菜知香・後藤優介・山崎晃司. 2025. 茨城県南部において分布 拡大傾向にあるアライグマ（ <i>Procyon lotor</i> ）の食性の特徴. 茨城県自然博物館研 究報告, (28)：23-35.
	アカアシカツオドリ剥製1点 (INM-1-131071)	佐野拓哉・後藤優介. 2025. 茨城県内陸部で保護されたアカアシカツオドリ（カ ツオドリ目, カツオドリ科）の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (28)：81- 84.
	オヨギカタビロアメンボ17点	阿部眞大・内田大貴. 2026. 茨城県および千葉県におけるオヨギカタビロアメ ンボの初記録. 月刊むし, (661)：28-29.
	オヨギカタビロアメンボ21点	内田大貴・三田村敏正・吉井重幸・阿部眞大. 2026. 福島県におけるオヨギカ タビロアメンボの初記録. 月刊むし, (660)：28-30.
	タニガワミズギワカメムシ6点	内田大貴・高野季樹. 2025. 東京都多摩川下流部で得られたタニガワミズギワ カメムシの記録. <i>Rostria</i> , (70)：88-90.
	アリヅカムシ52点	札 周平・野村周平. 2025. 茨城県におけるアリヅカムシの分布追加記録資料. るりぼし, (56)：42-48.
	ハサミムシ754点	小松崎佑介. 2025. 茨城県におけるハサミムシ目の記録Ⅰ. 2025. るりぼし, (56)：13-31.
	クマゼミ10点、脱皮殻14点	石塚武彦・上山裕平. 2025. 茨城県守谷市におけるクマゼミ（カメムシ目、セ ミ科）の発生記録. 茨城県自然博物館研究報告, (28)：59-61.

分野	資料名	掲載された学術論文など
動物	スズキコモリグモ4点 (INM-1-131076-131079)	鈴木佑弥・大宮 悠. 2025. 茨城県におけるスズキコモリグモの記録. KISHIDAIA, (127): 27-29.
	ツブイボショウジンガニ液浸標本1点 (INM-1-131070)	高野萌慧・外山太一郎. 2025. 茨城県から得られた北限記録のツブイボショウジンガニ (短尾下目: ショウジンガニ科). CANCER, 34: 69-72.
	ウミウシ類20ロット (INM-1-131080-131099)	佐藤宏樹. 2025. 茨城県ひたちなか市沿岸で確認されたウミウシ類. 水生動物, 2025: 1-11.
	メンダコの寄生虫 <i>Yamaguticestus</i> 属 (条虫綱) の一種の幼虫4点 (INM-1-131072-131075)	脇 司・高野弘企・青山沙織. 2026. メンダコの消化管から検出された <i>Yamaguticestus</i> 属 (条虫綱) の一種の幼虫. タクサ (日本動物分類学会誌), 60: 37-43.
	マンボウ類の寄生虫37点 (INM-1-131181-131217)	Waki, T., H. Nakano, T. Okawa and T. Ishikawa. 2026. <i>Accacoeliid trematodes</i> in two sunfish species, <i>Masturus lanceolatus</i> and <i>Mola mola</i> , in Japanese waters. <i>Systematic Parasitology</i> , 103 (1). DOI: 10.1007/s11230-025-10259-3.
	ツキヨミズウオキュウチュウ1点 (INM-1-131069)	脇 司・柳下直輝・林 時人. 2025. 深海魚ミズウオに寄生するツキヨミズウオキュウチュウ (和名新称) <i>Botulus microporus</i> の日本列島沿岸における記録. タクサ (日本動物分類学会誌), 59: 28-33.
	クラゲ (刺胞動物) における吸虫類81点 (INM-1-131100-131180)	Waki, T., H. Sekine, A. Aou, M. Nitta, G. Yamamoto, S. Toshino, H. Nakano, T. Okawa, K. Takano, D. Yamazaki and R. Hagihara. 2025. Metacercariae infecting seven cnidarian species with their life cycle information including their adult stages in Japan. <i>Journal of Helminthology</i> , 100: e4. DOI: 10.1017/S0022149X25100989.
植物	妙岐ノ鼻産菌類 (ヒメヒナノヒガサ) など乾燥標本 3点 (INM-2-83460, 87461, 229310)	Kasuya, T., T. Maruyama, M. Uzawa and K. Hosaka. 2025. Two species of <i>Rickenella</i> , <i>R. indica</i> and <i>R. mellea</i> , new to Japan. 日菌報, 66 (1): 35-46.
	筑波山産ソルゴケ乾燥標本 1点 (INM-2-244566)	Sugimura, K. and M. Uzawa. 2025. Distribution and habitat of an endangered <i>Pilotrichopsis dentata</i> (Mitt.) Besch., rediscovered in Ibaraki Prefecture after 90 years. <i>Bull. Ibaraki Nat. Mus.</i> , (28): 1-11.
地学	那珂湊層群産 <i>Archaeozostera</i> 化石 1点 (INM-4-19436)	村田一弘・松尾武祥・加藤太一. 2025. 茨城県ひたちなか市の上部白亜系那珂湊層群礫合層から産出した生痕化石 <i>Archaeozostera</i> . 茨城県自然博物館研究報告, (28): 53-58.
	木下層産貝形虫化石 40点 (INM-4-20095 ~ 20136)	小沢広和・金子稔・石川博行・野村正弘・石塚勇太・加藤太一. 2025. 茨城県守谷市西板戸井の上部更新統木下層産貝形虫化石: 博物館の堆積物展示標本より. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 37-45, pls. 1-2.
	木下層産浮遊性有孔虫化石 27点 (INM-4-20068 ~ 20094)	金子 稔・石塚勇太・加藤太一・角野凜子・朝海芽生・伊藤 咲・鈴木彩夏・西山知里. 2025. 茨城県日立市久慈浜海岸砂に含まれる有孔虫群集. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 63-66, pls. 1-2.
	トリケラトプス頭骨 1点 (INM-4-14453)	Tada, S., T. Tsuihiji, H. Ishikawa, N. Wakimizu, S. Kawabe and K. Sakane. 2026. Nasal soft-tissue anatomy of Triceratops and other horned dinosaurs. <i>The Anatomical Record</i> , 2026: 1-23. https://doi.org/10.1002/ar.70150 .
	ティラノサウルス骨格 (複製) 1点	Utsuki, Y. and Y. Kobayashi. 2026. Functional Morphology of the Archosaur Neck Provides Evolutionary Insights Into the Avian Neck Flexibility. <i>Journal of Morphology</i> , 287: e70114.

(4) 図書貸出

来館者は収蔵している図書の一部を図書室の開架で自由に閲覧できる。また、友の会会員には週3日 (水、土、日) の貸出日を設けている。

① 貸出図書数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
令和3年度	34	46	6	28	10	0	21	5	7	10	0	0	167
令和4年度	13	6	5	14	13	13	10	0	4	7	14	10	109
令和5年度	13	0	12	7	4	3	10	16	8	9	0	1	83
令和6年度	4	5	2	13	10	6	2	6	5	5	15	5	78
令和7年度	19	15	24	8	3	4	1	1	0	2	3	3	83

② 貸出図書の分野別集計

分野	一般・専門書（冊）	児童書（冊）	合計（冊）
自然科学	15	63	78
物理学	0	0	0
化学	0	0	0
天文学・宇宙科学	0	0	0
地球科学・地学・地質学	0	2	2
生物科学・一般生物学	0	0	0
植物学	0	2	2
動物学	0	0	0
医学・薬学	0	0	0
技術・工学・工業	0	0	0
農林水産業・園芸	0	0	0
社会科学	0	0	0
文学・芸術	0	0	0
百科事典・歴史・そのほか	0	1	1
絵本	0	0	0
紙芝居	0	0	0
合計	15	68	83

(5) 画像映像資料の提供

分野	施設・機関	許可日	提供画像	使用目的
動物	茨城県環境政策課	R7. 8.18	「アサギマダラ」などの画像（14）	筑波山自然研究路に設置する看板に掲載
	アクアワールド茨城県大洗水族館	R7. 9.21	「フロリダマミズココエビ」画像（1）	企画展における展示映像
植物	株式会社文一総合出版	R8. 2. 3	ブナの葉の大きさの地域ごとの比較画像（1）	「木ぐらし手帳」（文一総合出版）に掲載
地学	株式会社 Gakken	R7. 7.30	ティラノサウルスの全身骨格、幼体頭骨、歯などの画像（7）	「学研図鑑LIVEエクストリーム ティラノサウルス」に掲載
	株式会社 幻冬舎	R8. 3.19	プロトサウルス型モササウルス類の展示標本画像（1）	書籍『会いにいける！恐竜・古生物図鑑』（幻冬舎）での掲載
館全体	株式会社ADDIX	R7. 4.23	ヌオエロサウルスなど写真など（2）	「Lobbum Camp」に掲載（Webサイト）
	株式会社VUERO	R7. 4.30	第91回企画展の関連画像（4）	株式会社KADOKAWAが運営するWebサイト「ウォーカープラス」に掲載
	筑西市役所広報広聴課	R7. 5. 9	ハウネンエビの画像（1）	広報筑西ピープル「市民記者のページ」に掲載
	株式会社 Gakken	R7. 5.30	シホテアリン隕石の標本画像（1）写真など（4）	「学研の図鑑 LIVE 宇宙 新刊」に掲載
	ケーブルテレビ株式会社	R7. 6. 6	松花江マンモスの画像（1）	地域情報サイト「ふらっとろーかる」に掲載
	日本海洋科学振興財団 船の科学館	R7. 6.24	第78回企画展の画像（1）	船の科学館事業「海の学びミュージアムサポート事業」の過去の支援事業で紹介
	株式会社常陽銀行	R7. 7. 4	第92回企画展の画像（1）	「ベネサポ」アプリにおける当館無料招待券プレゼントの通知
	青少年対策荏原第三地区委員会	R7. 7.11	アクアマリンアップなどの画像（4）	参加者募集チラシで掲載
	大洗町立第一中学校	R7. 7.11	デジタルパンフレット（1）	第1学年末休みのしおりに使用
	公益財団法人常陽藝文センター	R7. 7.15	エンコーダスの画像（1）	「催し物情報」における第92回企画展紹介のために使用

分野	施設・機関	許可日	提供画像	使用目的
館全体	アクアワールド茨城県大洗水族館	R7. 7.25	2016年とんぼの池 池干しの映像 (1)	アクアワールド大洗水族館企画展「外来種」展で使用
	株式会社小学館	R7. 9.12	塩岩などの画像 (2)	「小学館の図鑑 NEOPOCKET 鉱物 宝石」に掲載
	株式会社コミュニティ京成	R7.10. 9	ティラノVSトリケラトプスなどの画像 (4)	京成観光バスツアー募集パンフレットに使用
	株式会社常陽銀行	R7.10.15	第93回企画展の画像 (1)	「ベネサポ」アプリにおける当館無料招待券プレゼントの通知
	株式会社小学館	R8. 2. 6	黒雲母花こう岩とそのアップ写真 (2)	『ドラえもん科学ワールド 地球の宝物 鉱物と宝石』に掲載

(6) 資料の借用

① 展示目的 (45件340点)

使用目的	施設・機関	借用期間	主な借用標本	借用数	担当
第92回企画展「恐竜とともに生きた生物たち」	国立科学博物館	R7. 6.18～ R7. 9.30	<i>Eboracia microlobifolia</i> など	9	滝本秀夫
	高梁市成羽美術館	R7. 6.15～ R7. 9.30	古生物資料 (4)、写真資料 (3)	7	滝本秀夫
	南相馬市博物館	R7. 5.28～ R7. 9.30	<i>Parasequoia</i> など	10	滝本秀夫
	小松市立博物館	R7. 6. 5～ R7.9.30	<i>Nilssoniocladus nipponensis</i> など	11	滝本秀夫
	藺田哲平 (福井県立恐竜博物館)	R7. 6. 5～ R7. 9.30	スッポンモドキ科など	4	前橋千里
	湯川弘一 (福井県立恐竜博物館)	R7. 6. 5～ R7. 9.30	植物化石	1	滝本秀夫
	西田治文	R7. 6.11～ R7. 9.30	ハボロハナカセキなど	6	滝本秀夫
	松原徳弘	R7. 6.18～ R7. 9.30	植物化石 (4)、プレパラート (一式)	5	滝本秀夫
	栃木県立博物館	R7. 3.25～ R7. 9.30	エンクリヌスなど	35	加藤太一 北澤佑子 吉田 佑
	栃木県立博物館	R7. 6.10～ R7. 9.30	プロトスクス	1	前橋千里
	群馬県立自然史博物館	R7. 4.25～ R7. 9.30	カエル類など	38	加藤太一 北澤佑子 吉田 佑
	高桑祐司 (群馬県立自然史博物館)	R7. 4.25～ R7. 9.30	ノチダヌスなど	12	加藤太一 北澤佑子 吉田 佑
	福島県立博物館	R7. 4.16～ R7. 9.30	琥珀中に保存された昆虫化石など	16	加藤太一 北澤佑子 吉田 佑
	東京大学総合研究博物館	R7. 6.23～ R7. 9.30	コプロライトなど	3	村田一弘
	伊左治鎮司 (福島県立博物館)	R7. 6.24～ R7. 9.30	シュードメラニア・ヤマダイなど	17	加藤太一
	千葉大学	R7. 6.17～ R7. 9.30	標本 (1)、顕微鏡写真 (2)	3	村田一弘
	東北大学総合学術博物館	R7. 6. 5～ R7. 9.30	<i>Hitachia nakaminatoensis</i>	1	村田一弘

使用目的	施設・機関	借用期間	主な借用標本	借用数	担当
第92回企画展「恐竜とともに生きた生物たち」	鳥羽水族館	R7. 6. 5～ R7. 9.30	オウムガイの糞の写真	1	村田一弘
	寺田和雄 (福井県立恐竜博物館)	R7. 6. 5～ R7. 9.30	植物化石 (2)、プレパラート (1)	3	滝本秀夫
	大石 徹	R7. 6.18～ R7. 9.30	植物化石など	3	滝本秀夫
	福原達人 (福岡教育大学)	R7. 6. 5～ R7. 9.30	現生の潜葉虫が葉を食べている写真	1	村田一弘
第93回企画展「どんぐり」	つくば市教育局	R7. 9.26～ R8. 1.30	石皿 (栗原地区)、石皿 (下広岡地区)、すり石 (下広岡地区)、出土どんぐり類、クッキー状炭化物	5	小泉直孝
	北本市教育委員会	R7.10.11～ R8. 1.25	「クリ」「ナラガシワ」写真	2	小泉直孝
	埼玉県立川の博物館	R7.10. 1～ R8. 1.30	コナラシギゾウムシの成虫、幼虫と巣	2	久松正樹
	吉武 啓・吉武直子	R7.10.11～ R8. 1.25	シギゾウムシ類乾燥標本、シギゾウムシ類幼虫写真	40	久松正樹
	明利酒類株式会社	R7. 9.25～ R8. 1.31	ウイスキーの樽の材、チャーリングした樽の破片	2	世木田和也
	茨城県林業技術センター	R7. 9.25～ R8. 2.13	ニオウシメジ凍結乾燥標本、ニオウシメジ菌床	2	栗栖宣博 世木田和也
	里山を守る会	R7. 9.26～ R8. 1.30	マツボックリ炭、炭俵の置き物	2	栗栖宣博
	徳永桂子	R7. 4.23～ R8. 2. 8	世界のどんぐり標本 (14)、植物画 (10)	24	成田 昭 伊藤彩乃
	千葉県立中央博物館	R7. 2.27～ R8. 2. 8	世界のどんぐり標本 (31)	31	成田 昭 伊藤彩乃
	始良市教育委員会	R7. 9.19～ R8. 2.10	イチイガシのどんぐりピット、水浸標本、イチイガシのかご、再現かご	4	小泉直孝
	黎明館	R7. 9.17～ R8. 2.20	最古のどんぐり	1	小泉直孝
第94回企画展「鳥の世界へようこそ！」	我孫子市鳥の博物館	R8. 2. 4～ R8. 6.12	ヒヨドリなど剥製標本10点、ダチョウ骨格標本、フンボルトペンギン骨格画像	11	佐野拓哉 後藤優介
	長良川うかいミュージアム	R8. 2. 4～ R8. 6.19	鶺鴒籠、モロブタ、アユ模型3点、ウミウ画像	6	櫛引豪人 小池 渉
	関市文化財保護センター	R8. 2. 3～ R8. 6.19	吐け籠、手縄	2	櫛引豪人 小池 渉
	朝霞市立博物館	R8. 1.31～ R8. 6.21	放鷹道具7点	7	横倉政宏 小池 渉
	ちば東葛農業協同組合	R8. 2. 3～ R8. 6.19	黒酢米 米袋	3	櫛引豪人
	NHKエンタープライズ	R8. 2.28～ R8. 6. 7	ヒゲワシ映像	1	後藤優介
	ヒョーゴアーカイブス	R8. 2.28～ R8. 6. 7	コウノトリ画像	1	櫛引豪人
	(公財) 東京動物園協会 井の頭自然文化園	R8. 2.28～ R8. 6. 7	コガモ画像	1	佐野拓哉
	(公財) 東京動物園協会 葛西臨海水族園	R8. 2.28～ R8. 6. 7	フンボルトペンギン映像	1	佐野拓哉
	岐阜観光 コンベンション協会	R8. 2.28～ R8. 6. 7	鶺鴒画像	1	櫛引豪人
	鉏路市立博物館	R8. 2.28～ R8. 6. 7	ホオジロガモ画像および映像	2	石塚武彦 佐野拓哉

使用目的	施設・機関	借用期間	主な借用標本	借用数	担当
第94回企画展「鳥の世界へようこそ！」	板橋区立郷土資料館	R8. 2.28～ R8. 6. 7	徳川十三代將軍御鷹野之図 画像	1	横倉政宏
	兵庫県立人と自然の博物館	R8. 2.28～ R8. 6. 7	コウノトリ画像	1	櫛引豪人

② 研究目的（1件1点）

分野	施設・機関	借用期間	主な借用標本	借用数	使用目的	担当
地学	南三陸町	R6. 6.28～ R9. 3.31	クダノハマギョリュウ	1	分類学的研究のため	加藤太一

4 情報管理システムの運用

当館では、情報の管理・共有化・電子化により博物館業務の効率化を図るとともに、自然科学に関する情報発信の基地としての役割を果たすために情報管理システムを常時運用している。

(1) ホームページの利用状況

令和7年度のホームページのアクセス件数は、913,588件であった（3月末時点）。ホームページ開設（平成9年10月1日）以来、11,516,660件に達した。1日平均は、2,502.9件だった。また、アクセス件数の83.6%が携帯端末からのアクセスである。

ホームページアクセス件数の推移（過去5年間）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
アクセス件数	930,193	1,155,329	1,038,857	1,006,246
日平均数	2,548.4	3,165.2	2,846.2	2,756.8
	令和7年度			
アクセス件数	913,588			
日平均数	2,502.9			

(2) 収蔵資料管理システム

当館が所蔵する動物・植物・地学資料に関する情報をデータベース化し、各種業務において活用している。平成27年度にクラウドサービス型の収蔵資料管理システムを導入した。また、収蔵資料情報の一部をホームページにおいて公開している。これにより、外部から当館の収蔵資料情報を検索して活用することが可能となっている。

(3) 図書管理システム

図書室・研究室に所蔵されている図書の情報をデータベースで管理するとともに、自然博物館友の会会員を対象とした開架図書の貸出業務に活用している。

(4) 団体およびイベント予約システム

当館の利用を希望する団体やイベントへの参加を希望する個人が、24時間いつでも予約申込ができるよう、インターネット上の予約システムを導入している。令和7年度に、新しいシステムに変更したことにより、システムの安定性が向上するとともに、これまでできなかったユーザー側から予約の変更・キャンセルが可能になるなど利用者の利便性が向上し、申し込みに関する問い合わせも激減した。

(5) オンラインチケットシステム

エントランスでの混雑緩和、来館者サービスの向上を目的とし、令和8年2月10日からオンラインチケットの取扱いを開始した。これにより、入館までの時間が大幅に短縮され、エントランスの混雑が緩和した。

(6) Wi-Fi 利用状況

平成30年3月1日より、博物館内において公衆無線 LAN サービスの利用を開始した。令和7年度の接続者数は47,297人（昨年度比+117%）、データ使用量は8,117GB（昨年度比+136%）と昨年を上回る多くの利用実績があったことが伺える。接続した SSID のデータ使用量では、【IBARAKI-FREE-WiFi】が最も多く、4,905GB（全体の約55% 昨年度比+141%）となった。また、当館独自の SSID については、【Ibaraki_Nature_Museum】が2,206GB（約27%）、【Ibaraki_Nature_Museum_FB】が736GB（約9%）となり、利用者によるデータ使用量は全体の36%を占めている。

(7) デジタルアーカイブ化の推進

文化庁の博物館機能強化推進事業の一環として、デジタルアーカイブ構築に向けた全3回の専門家派遣研修を実施した。第1回は、原資料の保存を目的とした具体的な技術基準を習得した。第2回は、ユーザー別のニーズ整理や Web API によるシステム連携、利用目的に応じたデータ形式の使い分け方針を検討した。第3回は、部署横断的なグループワークを通じ、UIや検索機能などの具体的な画面構成を構想した。研修を通じ、デジタルアーカイブの有効活用に対する職員のイメージが明確化され、前向きな議論が行われた。今後は得られた知見を活かし、館としての方針を策定する予定である。

5 資料の保守・管理

収蔵資料および展示資料を良好な状態に維持することを目的として、燻蒸と環境調査を行っている。燻蒸の方法については、館内にある燻蒸釜で職員が行う燻蒸と、収蔵庫および展示室に対して専門業者が施工する特別燻蒸がある。今年度は、館内にある燻蒸釜での燻蒸に使用するガスをエキヒューム S から二酸化炭素へ変更するための改修工事を実施した。なお、収蔵庫の特別燻蒸の際には、館を臨時に休館して行っている。購入・採集・寄贈・寄託などで受け入れた資料や貸出標本などの標本については、収蔵庫や展示室に収める前に燻蒸釜で燻蒸を行っている。令和7年度の特別燻蒸は、これまでの環境調査の結果をもとに燻蒸実施場所を選定し、燻蒸業者が次の要領で行った。

(1) 特別燻蒸

① 期間

第1次施工期間として、令和7年6月8日（日）～ 6月13日（金）の6日間（10日～13日を臨時休館とした）にわたり実施した。

第2次施工期間として、令和7年6月29日（日）～ 6月30日（月）にかけて実施した。

第3次施工期間として、令和7年7月27日（日）～ 7月28日（月）にかけて実施した。

② 内容

第1次施工期間は、動物収蔵庫・植物収蔵庫の2つの収蔵庫をヴァイケーン（フッ化スルフリル）を用いて行った。

第2・3次施工期間は、第2・第3展示室をミラクン GX を用いて行った。第2・第3展示室のジオラマにおいて、文化財害虫の発生を抑制するために実施したものである。

(2) 環境調査

① 期間および回数

令和7年6月から11月までの間、1か月単位で区切り、計5回の調査を実施する。

② 内容

収蔵庫（動物収蔵庫・植物収蔵庫・地学収蔵庫・液浸収蔵庫）および常設展示室（全6室）、企画展示室、

研究室（全3室）、荷解室、館内出入口などの全域で昆虫生息調査を行い、調査結果をもとに薬剤散布による昆虫などの防除と館内職員への注意喚起を行った。

(3) 燻蒸釜の改修

① 期間

令和8年1月14日（水）～1月16日（金）にかけて実施した。

② 内容

館内にある燻蒸釜での燻蒸に使用するガスを、エキヒュームSから二酸化炭素に変更するための改修工事を行った。

(4) 資料保管庫の整備

動物収蔵庫の鳥類剥製の保管スペースの増加のため、可動式標本棚4台を設置した。可動式とすることで、床面を通路と標本保管スペースに両用することができ、限られたスペースでの収蔵量の増加を図った。

(5) 電源回路修繕工事

冷凍ストッカーの導入および二酸化炭素燻蒸用機器の設置に伴い、電源の安定供給と既存回路の負荷軽減を図るため、電源回路の新設工事を行った。

① 期日

令和8年1月7日（水）～1月8日（木）

② 内容

荷受・荷解場および燻蒸室の既存電源回路は使用電力が上限に近く、新規機器の使用が困難な状況であった。そのため、分電盤から専用回路を2系統（荷受・荷解場系統、燻蒸室系統）新設した。既存の冷凍ストッカーや燻蒸室内のコンセントをこれらの新設回路へ接続変更することで、電力負荷の分散と供給の安定化を図った。

(6) 真空凍結乾燥機の整備

博物館における自然史資料の長期保全および、魅力的な展示物制作体制を維持するため、老朽化した現行機に代わる新たな真空凍結乾燥機を令和8年2月25日に導入した。設置から30年以上が経過し、老朽化およびメーカーのメンテナンス終了により使用不能となっていた現行機に代わり導入したものである。真空凍結乾燥（フリーズドライ）は、資料を凍結させたまま真空中で水分を昇華させることで、自然乾燥で生じる収縮や変形を抑え、採集時の立体的な形状を保ったまま標本化する技術である。

当館では、菌類や植物などの学術標本の長期保全（レッドデータブック作成時の証拠標本など）に加え、近年では「うんち展」をはじめとする企画展において、実物を活用した臨場感のある展示物製作に不可欠な役割を果たしてきた。本機の更新により、停止していた標本製作体制を復旧させ、自然史資料の収集継続と魅力ある展示サービスの維持・向上を図る。

(7) 植物標本燻蒸用冷凍ストッカーの導入

令和8年1月末からの燻蒸ガスの変更に伴い、植物標本の防虫・殺虫処理を行うための冷凍ストッカーを導入した。

① 導入日

令和8年1月28日（水）

② 内容

燻蒸釜で使用するガスが、エキヒュームSから二酸化炭素へ変更となったことに伴い導入したものである。二酸化炭素燻蒸は従来と比較して処理に時間を要するため、燻蒸釜の処理能力低下が課題となっていた。その対策として、植物さく葉標本などについては、燻蒸室内に設置した冷凍ストッカーを用いて冷凍燻蒸（冷

凍法)を行うこととした。これにより、動物標本などを対象とする二酸化炭素燻蒸と役割分担を図り、効率的な資料保存管理を行う。

(8) 薬品系産業廃棄物収集運搬および処分

博物館より排出された産業廃棄物を、廃棄物の処理および清掃に関する法律および関係法令に従って適正に処理した。処理した産業廃棄物などは汚泥45kg、廃油298kg、腐食性廃酸3.97kg、腐食性廃アルカリ14.15kgである。

6 職員研修

学芸系職員の資質向上のため、資料借用や運搬に係る梱包についての実技研修を実施した。

- (1) 日 時
令和8年2月20日(金) 14:00～15:30
- (2) 場 所
セミナーハウスA
- (3) 参加者
学芸系職員15名、企画課職員2名
- (4) 内 容
 - ・ 梱包資材の取り扱いについて
薄葉紙、綿を用いたクッション作成要領
2種類の紐の締め方
段ボール箱を用いた梱包方法
 - ・ 動物、植物、地学資料についての梱包方法
動物：鳥類、魚類
植物：植物レプリカ、大型のサヤ
地学：化石、鉱物

1 学術調査研究の概要

学術調査研究は、その研究対象から科学的領域調査研究と博物館学的調査研究に分けられる。また、その研究のねらいや手法により、総合調査、重点研究、創造的調査研究の3つに分けることができる。これらの研究には、学芸系職員を中心に、外部の研究者も加わって取り組んでいる。

学術調査研究

科学的領域調査研究

博物館資料の充実を図り、活力ある博物館活動を展開するための調査研究活動

博物館学的調査研究

教育普及活動、資料活用、博物館運営などの方法論や実践論の調査研究活動

創造的調査研究

博物館職員の資質の向上と博物館活動の発展、さらに自然科学の向上発展に寄与することを目的として、職員各自の専門性や業務内容に関連したテーマにもとづき行う調査研究活動

重点研究

茨城県の自然誌や当館の博物館活動に関する重要な課題や今日的な課題をテーマとし、グループで行う調査研究活動

総合調査

茨城県の生物相やその変遷、地質などの地学的特性を把握するため、自然史資料の集積を図り、茨城県内の資料の目録をつくることを目的とする調査活動

2 総合調査

令和7年度は第Ⅳ期総合調査の2年目にあたる。茨城県全域を対象とし、2つの団体に調査を委託した。地学分野については、地学総合調査員および地学総合調査補助員を委嘱した。調査の内容と成果は以下に示す。

調査内容と主な成果

分野	調査区域およびテーマ	令和7年度の主な成果	委託団体および外部調査員／担当職員
動物	哺乳類	○茨城県北に設置した自動撮影カメラによるモニタリングを実施した。	代表：竹内正彦 (農研機構畜産研究部門動物行動管理研究領域) ／担当：後藤優介
	鳥類	○茨城県南東地域の鳥類相調査を実施した。	代表：飯田直己 (日本野鳥の会茨城県) ／担当：佐野拓哉
	両生・爬虫類	○過去の確認状況の整理と、情報が不足する分野・地域の抽出を行った。	代表：早瀬長利 (元国定公園管理員) ／担当：吉田 佑
	淡水魚類	○県内の河川および河口域における魚類相の把握	代表：金子誠也 (茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション) ／担当：北澤佑子
	昆虫	○筑波山特別地域のコウチュウ類の調査を実施した。 ○2024年末に発行した「茨城県産昆虫目録」の修正、更新を随時進める。 2025年3月発行した「茨城の昆虫たち」を県内小中高校に配布した。	代表：佐々木泰弘 (茨城県生物多様性センター・自然環境調査員、茨城生物の会・理事) ／担当：久松正樹
	海産動物	○ひたちなか市岩礁海岸で調査を実施し、標本および画像を収集した。 ○「茨城の魚類図鑑」(仮称)の製作に向け、打合せを行うとともに、茨城沖の魚類の調査を実施し、標本および画像を収集した。	代表：森野 浩 (茨城大学名誉教授) ／担当：池澤広美
	陸・淡水産無脊椎動物	○これまで採集した標本の整理・同定作業を行うとともに、鹿島神宮で調査を実施した。	代表：茅根重夫 (元茨城県立岩井西高等学校校長) ／担当：池澤広美 吉田 佑
植物	維管束植物	○筑波山(つくば市・桜川市・石岡市)・菅生沼(常総市、坂東市)維管束植物のフロラ調査 ○筑波山・菅生沼の維管束植物の標本を採集した。 ○いずれの調査地も調査を許可申請したうえで行った。 ○各調査員が現地でフロラ調査を行い、標本の採集と同定作業を行った。 ○調査結果を現在まとめている「茨城県植物目録」に反映させる予定である。	代表：安 昌美 (元茨城県高等学校教育研究会生物部長) ／担当：伊藤彩乃
	非維管束植物	○県南・県北地域のコケ植物(蘚苔類)、海藻類、地衣類、淡水藻類のフロラ調査 ○筑波山において蘚苔類の調査を行った。 ○笠間市を中心に地衣類の調査を行った。 ○県央から県北において海藻の調査を行った。	代表：白井健司 (茨城県立土浦第一高等学校 非常勤講師) ／担当：鶴沢美穂子

分野	調査区域およびテーマ	令和7年度の主な成果	委託団体および外部調査員／担当職員
植物	菌類 ○筑波山・森林総合研究所（独立行政法人）千代田試験地・鹿島神宮（鹿嶋市）・自然博物館野外 茨城県内の植物寄生菌類と大型菌類のフロア調査	○筑波山・森林総合研究所（独立行政法人）千代田試験地・鹿島神宮（鹿嶋市）・自然博物館野外などで調査を行い、標本を採集した。 ○いずれの調査地も調査を許可申請したうえで行った。	代表：山岡裕一 （筑波大学生命環境系教授） ／担当：櫛引豪人
地学	化石 ○茨城県内の硬骨魚類化石の調査	○日立市会瀬海岸、鶴首岬、高磯海岸で調査を実施し、日立層群“初崎層”から硬骨魚類化石を採取した。 ○北茨城市の湯長谷層群亀ノ尾層から硬骨魚類化石を採取した。 ○当館が所蔵する茨城県産の硬骨魚類化石を同定した。	地学総合調査員：宮田真也（城西大学助教） 地学総合調査補助員：柴田順生（東京都市大学 修士課程1年） ／担当：加藤太一
学	岩石鉱物 ○県北・県央地域に位置する鷹峰鉱山のマンガン鉱物の調査	○旧鷹峰鉱山の坑口（高日影坑、大萱場坑、御萩堂坑、東沢坑、梅が沢坑、関杉坑）を確認し、周辺からマンガン鉱物資料を27点、錫石標本を1点採取した。採取した標本について、同定作業を行った。	地学総合調査員：門馬綱一（国立科学博物館理学研究部地球研究グループ研究主幹） 地学総合調査補助員：河野雅英（石の百年館解説委員） ／担当：小池 渉

3 重点研究

大学や研究機関、博物館、行政などの外部機関と連携した調査研究を、動物、植物、地学の各分野で実施した。動物分野では、茨城県に侵入しつつある特定外来生物のキョンについて現地調査や情報の収集を進めた。植物分野では、菅生沼などの湿地の植物相調査を行ったほか、県内におけるブナ・イヌブナの分布調査を継続して行った。地学分野では、常磐地域の上部白亜系から復元される後期白亜紀の海洋生態系に関する研究や、植物化石にもとづく裸子植物から被子植物への分化および被子植物の環境適応に関する研究を行った。

調査内容と主な成果

分野	研究テーマおよび担当	令和7年度の主な成果
動物	茨城県内に生息する特定外来生物（哺乳類）の情報蓄積および科学的モニタリング ／担当：後藤優介	キョン：随時発生する目撃情報の精査と、死体などの標本を収集することで、現状の科学的なモニタリングを実施した。 クリハラリス：菅生沼周辺で生息する個体群について、既存の捕獲個体の分析と、最新の生息状況の確認を行った。 アライグマ：県内の駆除個体について、メス個体の収集を行い、科学的順応管理に資するための情報蓄積を行った。
植物	湿地の植生の保全 ／担当：鶴沢美穂子	菅生沼（常総市・坂東市）、小貝川（常総市）、妙岐ノ鼻（稲敷市）、逢善寺茅場（稲敷市）などの県内に残された湿地の植物相の調査を行うとともに、野焼きによる保全活動を継続して行った。
	特定外来生物オオバナミズキンバイの防除 ／担当：伊藤彩乃	茨城県、国土交通省と協力し、霞ヶ浦における特定外来生物のオオバナミズキンバイの駆除を継続して行っているが、本年度は増殖の報告がなかったため、合同での駆除作業は行わなかった。
	県内ブナ調査 ／担当：伊藤彩乃	筑波山のブナ委員会の調査の一環として、2025年6月～10月の間、県内のブナに関する調査を行った。御前山（東茨城郡城里町）、燕山（桜川市）、高戸山（久慈郡大子町）、相川・井殿山（東茨城郡城里町）、石尊山（久慈郡大子町）の林道沿いのブナ・イヌブナの分布調査を行った。また、筑波山のブナの調査木の開花結実調査を行った。さらに、同地において動物相の調査も行い、年間を通した生物相の把握を行った。
地学	常磐地域の上部白亜系から復元される後期白亜紀の海洋生態系 ／担当：加藤太一	常磐地域に分布する上部白亜系（那珂湊層群、双葉層群）において、脊椎動物化石、無脊椎動物化石、生痕化石の調査を行っている。2025年1月の古生物学会において、「上部白亜系那珂湊層群の化石発掘調査の現状と課題」というタイトルでポスター発表を行い、その成果の一部を第92回企画展「恐竜とともに生きた生物たち—ばくらは脇役じゃない—」の中で紹介した。

分野	研究テーマおよび担当	令和7年度の主な成果
地学	植物化石に基づく裸子植物から被子植物への分化および被子植物の環境適応に関する研究 ／担当：滝本秀夫	C T画像の3D解析ソフトとそれを稼働することができる高性能パソコンを導入した。このソフトを使用して昨年度高輝度放射光施設 Spring-8 で実験したデータを処理して3D画像の作成とセグメンテーションを行った。 また、上記の成果の一部を第92回企画展「恐竜とともに生きた生物たち—ぼくらは脇役じゃない—」の中で紹介した。

4 創造的調査研究

当館の学芸系職員の創造的調査研究の状況は以下の通りである。成果の一部は学会での発表のほか、学会誌や当館の研究報告などの学術雑誌への投稿を通して公表するとともに、広報誌「A・MUSEUM」などを通して、研究内容を広く一般に紹介した。学芸系職員の研修については、毎年2回、創造的研究活動を促進するとともに、互いの研究について知見を深めるため、学芸系調査研究活動発表会を行っている。令和7年度は12月23日と3月13日にオンラインで実施した。また、茨城県内でマダニが媒介する感染症（SFTS）の事例が報告されたため、1回目の発表会に合わせ、当館のボランティアでダニ類の研究者である茅根重夫博士を招き、マダニが媒介する感染症（SFTS など）や野外調査時における留意点などについてお話いただいた。さらに、2月20日に標本輸送業者を講師に招き、梱包に関する実技研修会を実施し、学芸系職員の技術向上に努めた。

調査内容

課名	氏名	分野	研究テーマ	令和7年度の実施状況
企画課	小池 渉	地学	筑波山地域の火成岩類の岩体区分の再検討	筑波山塊の主要部を構成する深成岩類について、従来の斑れい岩類および花崗岩類のほか、閃緑岩マグマに着目して形成過程について再検討を行っている。今年度は花崗岩中の捕獲岩やマグマ混交に着目して、上曽トンネルおよび筑波トンネル掘削標本および筑波山周辺での露頭での再検討を行っている。また、上曽トンネルで採掘された鉱物の同定を進め、鉱物種リストの作成を進めている。
		博物館学	「誰もが共に楽しく学べる科学系博物館」の情報デザイン	聴覚障がい者向けのカエル鳴き声視覚化装置の開発および聴覚障がい者による実証実験などの結果について、日本科学教育学会の学会誌に投稿予定。
	栗栖宣博	博物館学	新たな教育活動の検討～SDGsの視点から～	当館の展示や諸活動についてSDGsの視点から再整理したが、その結果をもとに、SDGsに関連した展示を活用したタブレットなどで使用可能な教材を作成している。その試行に向けて検討を進める。
	石塚武彦	動物	茨城県南部におけるクマゼミの発生状況について	茨城県取手市におけるクマゼミの発生状況の継続調査と、県内2番目の発生地である守谷市の発生状況を調査している。
教育課	小泉直孝	博物館学	来館団体数の推移と今後の教育普及事業のあり方について	数か年の来館団体の推移から、今後の教育普及事業のあり方を探る。
	佐藤一康	博物館学	剥ぎ取り標本および木の葉石を活用した講師派遣の実践	剥ぎ取り標本および木の葉石を活用した実践とその教育的有用性、今後の教育普及の充実に向けた方略について検討する。
	豊崎賢二	植物	菅生沼周辺および県内の湿地における植物相の調査	菅生沼周辺や県内の湿地に生育する植物を調査し、生育する種を記録した。また、調査結果をもとに植生図を作成した。また、菅生沼において群落調査を行った。
	佐野拓哉	動物	筑波山登山道周辺におけるソウシチョウの分布状況調査	筑波山登山道周辺においてソウシチョウの分布状況がどのような季節変動をしているか調査を行った。
		博物館学	茨城県自然博物館野外および隣接する菅生沼の鳥類相調査とその活用について	本館野外および隣接する菅生沼の鳥類相を継続的に調査し、来館者が野鳥観察で活用できる資料作成に向けてデータを収集した。
	北澤佑子	動物	茨城県自然博物館野外（とんぼの池）および菅生沼における魚類相の調査	本館野外（とんぼの池）および菅生沼において小型定置網やたも網などを用いて魚類を採集し、生息する魚類について年間を通じて定期的に調査した。
		博物館学	探究的な学びに向けたSDGsに関連する極域を題材に博物館を活用した教材化	探究的な学びの重要性がラーニングコンパスにおいても叫ばれている。SDGsと関連の深い極域（南極・北極）を題材にし、茨城県自然博物館を活用した教材化について探った。

課名	氏名	分野	研究テーマ	令和7年度の実施状況
教育課	鶴沢美穂子	植物	コケ植物生チャワンタケの宿主解明	コケ植物生チャワンタケは強い宿主特異性をもつ。近年日本新産として発見されたそれらの菌類において、宿主を同定し、多様性の解明の一助とした。成果は国際誌 <i>Ascomycete.org</i> に投稿し、掲載された。
		博物館学	「誰もが共に楽しく学べる科学系博物館」の情報デザイン	当館において、ベビーカーや車椅子を使用した展示室の観覧について調査を行った。(京都女子大学・日本大学との共同研究(科研費)) 聴覚障害者による実証実験の結果については、日本デザイン学会で発表した。
	滝本秀夫	地学	東北地方に分布するジュラ系および白亜系から産する植物化石に関する研究	上部ジュラ系糸ヶ山層から産した化石をもとに、滅した植物群ベネチテス類の復元に関する論文をドイツの共同研究者と執筆し、日本古生物学会英文誌に投稿し掲載された。
	村田一弘	地学	茨城県ひたちなか市に分布する那珂湊層群の生痕化石の調査研究	茨城県ひたちなか市に露出する那珂湊層群で採集した生痕化石 <i>Archaeozostera</i> と比較検討するため、先行研究に掲載されている徳島県立自然史博物館所蔵の標本および徳島県鳴門市島田島の露頭の調査を行った。本県で採集した <i>Archaeozostera</i> に関する論文は、本年度の茨城県自然博物館研究報告に掲載され、研究内容については、第92回企画展「恐竜とともに生きた生物たち」、福井県立恐竜博物館での博物館連携セミナーなどで紹介した。
	高橋 淳	教育学	国内外のインクルーシブ天文教育の概要と次世代社会への提言について	インクルーシブな視点からの言語理解から科学技術振興に寄与するための調査について、国立天文台ハワイ観測所職員と準備中。スマート望遠鏡の教育利用について、実証実験を展開中。
		博物館学	自然史系博物館における、視覚および聴覚障がい者対応サービスについて	京都女子大学との共同研究(科研費)により、聴覚障害者による実証実験の結果について、日本デザイン学会で発表した。この継続研究として、ポータブル型音の見える化装置の開発研究を進行中。現在は主に、動物および自然現象についての音声について資料収集を行っている。また、聾学校と連携し、聴覚障がいのある児童生徒が博物館を楽しむ方法について、調査を進めている。
資料課	池澤広美	動物	外来種と希少種を中心とした茨城県内の無脊椎動物に関する調査研究	総合調査と連動し、県内の陸・淡水産無脊椎動物の調査を実施した。
		動物	茨城県沿岸域の動物相について	総合調査や企画展と連動し、本県の沿岸域の動物相の調査を実施するとともに、これまで蓄積してきたデータ(画像を含む)を再整理している。
	前橋千里	博物館学	走査型電子顕微鏡の活用	走査型電子顕微鏡を使って、普段は見えない小さな世界を見せることで、子どもたちが自然や科学に興味をもてるような学習プログラムを作成し、講師派遣事業で実践した。
	石塚勇太	地学	日立市に分布する第四系から産出した穿孔性二枚貝化石	日立市から産出した穿孔性二枚貝化石について、形態的特徴などについて研究を進める。
	吉田 佑	動物	茨城県内およびミュージアムパーク茨城県自然博物館野外施設のミミズ相に関する調査	茨城県内および本館野外施設におけるミミズ相の調査を行い、生息する種を記録する。
	櫛引豪人	植物	茨城県内の大型菌類に関する調査	茨城県内の大型菌類を調査し、見つかった種を記録した。また、つくば市立学園の森義務教育学校、科学・パソコン部の学園生と共同してつくば市葛城大規模緑地の調査を3回行った。
	世木田和也	植物	菅生沼の湿性草地における埋土種子層の調査	菅生沼の湿性草地において土壌採取を行い、撒き出し法による埋土種子調査を行う。土壌の採取は、1月下旬に行った。発芽した実生の観察・記録を続けている。
	後藤優介	動物	ツキノワグマの生態学的研究	ツキノワグマが生息する栃木県足尾山地、東京都奥多摩山地などにおいて、共同研究者らとともに長期的な生態学的研究を行っている。継続的にクマ類の捕獲を行い、血液、体毛、歯などのサンプル採取による生理学的、遺伝学的研究のほか、装着したGPS首輪を用いた行動解析を行う。(科研費1件)
		動物	県内に再侵入した大型哺乳類の生息状況調査	近年、茨城県では100年以上確認されてこなかった大型哺乳類のニホンジカ、ニホンカモシカ、ツキノワグマが再分布しはじめている。散発する目撃などの情報について客観的な整理を行っている。また、標本を伴う情報の場合には、積極的な収集を行う。

課名	氏名	分野	研究テーマ	令和7年度の実施状況
資料課	後藤優介	動物	筑波山ブナ林における哺乳類の生息状況	筑波山ブナ委員会の調査の一環として、筑波山において、自動撮影カメラを用いた哺乳類の記録が行っている。年間を通したカメラデータを詳細に分析することで、確認された哺乳類の生息実態を解明する。
		動物	茨城県内における外来カメ類の生息状況調査	○大型カメ類 茨城県内では近年、特定外来生物であるカミツキガメ、要注意外来生物であるワニガメの発見が続いている。多くは飼育個体の逸出であると考えられるが、自然繁殖の可能性を考量して、発見情報の整理と収集個体の分析を行っている。 ○その他カメ類 博物館野外トンボ池におけるミシシippアカミミガメの生息実態および繁殖状況について、調査を行っている。
		動物	博物館収集資料を用いた動物付着種子散布研究	博物館で収集した哺乳類の交通事故死個体に付着する種子を収集することで、植物の付着散布機構の解明に関する研究を行っている。
		動物	博物館収集資料を用いた寄生虫調査	博物館では、多くの哺乳類や鳥類資料を収集し、保管している。標本化する前の死体や、仮剥製や剥製として保管している標本に付着する寄生虫について明らかにするため、共同研究を行っている。
	加藤太一	地学	クダノハマギョリュウの分類学的研究	宮城県南三陸町から産出した魚竜類（クダノハマギョリュウ）の標本を南三陸町から借用し、クリーニング作業を進めた。9月には産業技術総合研究所にてCTスキャンを実施し、内部構造の観察を行った。3月には現地に残されているカウンターパートの調査を行った。
	伊藤彩乃	植物	自生地播種試験を用いた絶滅危惧種の保全	企業、博物館、大学、地元ボランティアと協力し、ひたち海浜公園に自生する絶滅危惧種オオウメガサソウの保全に関する研究を進めた。
		植物	茨城県内の植物の分布調査	総合調査などに関連し、県内の特筆すべきフロラについて調査・研究を行った。本年度は、科研費の助成金を得て、外部機関との連携も行いながら、特定外来生物の分布調査を継続して行った。
	久松正樹	動物	茨城県の昆虫相の調査	総合調査と連動し、本県産昆虫相の調査を実施するとともに、これまで蓄積してきたデータを再整理し、「茨城県産昆虫目録」を2024年末に発刊した。発刊後の追加種などを記録するとともに、詳細データを公開していきたい。
		動物	茨城県の野生ハナバチ群集の特徴	野生ハナバチ相については県内7調査地の報告をした。それらの報告に未報告の宝篋山山麓と小貝川河川敷の結果を加え、ハナバチ群集の特徴を精査した。類型化した野生ハナバチ群集各グループの特徴を、特に優占種の存在から論文化している。

5 研究成果の公表

（※太字は当館職員を示す）

(1) 学術論文など

Back, S. Y., A. Zedrosser, K. Yamazaki, K., **Y. Goto**, N. Takekoshi and S. Koike. 2025. Risky behavior of Asian black bears differs between sex and season in a landscape fragmented by roads. *Journal of Zoology*, 326: 339-351.
<https://doi.org/10.1111/jzo.70022>.

Hosono, A., M. Ohmae, **M. Uzawa**, T. Furuki, Y. Degawa and T. Orihara. 2026. Bryophilous Pezizales in Japan: First records of three rare species, *Lamprospora dicranellae*, *Neottiella ricciae*, and *Octospora humosa* agg. *Ascomycete.org*, (18): 3-12.

石塚武彦・上山裕平. 2025. 茨城県守谷市におけるクマゼミ（カメムシ目，セミ科）の発生記録. 茨城県自然博物館研究報告. (28): 59-61.

金子 稔・石塚勇太・加藤太一・角野凜子・朝海芽生・伊藤 咲・西山知里・鈴木彩夏. 2025. 茨城県日立市久慈浜海岸砂に含まれる有孔虫群集. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 63-66, pls. 1-2.

Kasuya, T., T. Maruyama, **M. Uzawa** and K. Hosaka. 2025. Two species of *Rickenella*, *R. indica* and *R. mellea*, new to Japan. 日菌報, 66 (1): 35-46.

- Komatsu, W., **H. Ikezawa** and I. Saeki. 2026. An assessment of the habitats and trophic level of the introduced slug *Limax maximus* in Japan. *Biol. Invasions*, 28. DOI: 10.1007/s10530-026-03775-w.
- 村田一弘・松尾武祥・加藤太一. 2025. 茨城県ひたちなか市の上部白亜系那珂湊層群礫合層から産出した生痕化石 *Archaeozostera*. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 53-58.
- 小沢広和・金子 稔・石川博行・野村正弘・石塚勇太・加藤太一. 2025. 茨城県守谷市西板戸井の上部更新統木下層産貝形虫化石：茨城県自然博物館の堆積物展示の分析から. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 37-45, pls. 1-2.
- Pott, C. and **H. Takimoto**. 2025. *Ohaniella* gen. nov., a new whole-plant bennettite from the Oxfordian (Upper Jurassic) Tochikubo Formation of Shidazawa, Fukushima, Northeast Japan. *Paleontological Research*, 29: 316-331. <https://doi.org/10.2517/prpsj.250010>.
- 佐野拓哉・後藤優介. 2025. 茨城県内陸部で保護されたアカアシカツオドリ（カツオドリ目，カツオドリ科）の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 81-84.
- Sato, K., T. Shiraishi, S. Sakamoto, K. Sawada, **Y. Goto**, C. Baltzinger and S. Koike. 2026. Community-wide epizoochorous interactions revealed from roadkilled mammals. *Oikos*, e12094. <https://doi.org/10.1002/oik.12094>.
- Shimozuru, M., S. Nakamura, J. Yamazaki, Y. Yanagawa, H. Tamatani, M. Kuroe, K. Yamazaki, S. Koike, **Y. Goto**, T. Naganuma, K. Tochigi, A. Inagaki, N. Takekoshi, S. Baek, N. Sato, Y. Honda, T. Tsubota and H. Ito. 2025. Epigenetic Clock in Bears: A Simple Cost-Effective Blood DNA Methylation-Based Age Estimation Method Applicable to Multiple Bear Species. *Ecology and Evolution*, e71424. <https://doi.org/10.1002/ece3.71424>
- Sugimura, K. and **M. Uzawa**. 2025. Distribution and habitat of an endangered *Pilotrichopsis dentata* (Mitt.) Besch., rediscovered in Ibaraki Prefecture after 90 years. *Bull. Ibaraki Nat. Mus.*, (28): 1-11.
- 鈴木郁子・落合菜知香・後藤優介・山崎晃司. 2025. 茨城県南部において分布拡大傾向にあるアライグマ (*Procyon lotor*) の食性の特徴. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 23-35.
- 田切美智雄・大路樹生・安藤寿男・塙 勝利・及川 晃・加藤太一. 2025. カンブリア系火山深成複合岩体中に挟まれる石炭系金山石灰岩の層序・ウミユリ茎板化石・放射年代. 地学雑誌, 134 (3): 275-291.
- 田切美智雄・島崎純生・小池 渉. 2025. 日立古生層中のカンブリア系大甕層の放射年代と地質構造. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 13-22.
- 鶴沢美穂子・片桐知之. 2025. 保井コノ博士により新種記載されたコケ植物化石ヤスイゴケの学名と標本について. 植物研究雑誌, 100 (5): 436-445.
- 脇 司・池澤広美. 茨城県におけるカスリハリガネムシ *Gordius japonicus* (類線形動物門：ハリガネムシ目) の記録. 茨城県自然博物館研究報告, (29) (受理).
- Yamaguchi, E., A. Hata, T. Tokida, Y. Nakajima, Y. Kodera, T. Endo, **Y. Goto** and T. Yamamoto. 2026. Association of wild boar feeding habits with habitat landscape during autumn in Japan's rice-producing region. *Wildlife Research*, 53 (2). <https://doi.org/10.1071/WR25046>.
- Yamazaki, K., M. Ishizuka, S. M. M. Nakayama, N. Banda, S. Koike, **Y. Goto**, K. Yamazaki, Y. Nemoto, B. Fuchs and J. M. Arnemo. 2025. Lead concentration in blood of Asian black bears in two areas of Central Japan. *Science of The Total Environment*, 980: 179555. <https://doi.org/10.1016/j.scitotenv.2025.179555>.

(2) 学会発表など

- 後藤優介. 2025. 分布最前線のニホンジカは何を食べている？－茨城県における消化管内容物DNAを用いた食性解析事例－. 日本哺乳類学会2025年度大会. 北海道.
- 後藤優介. 2025. 自由集会「【子連れ参加OK！】食べて、出す！」No Unchi, No Life！うんちの展示に込めた思い. 日本哺乳類学会2025年度大会. 北海道.
- 後藤優介. 2025. 自由集会「予防原則の成否が問われるとき：特定外来生物キョンの茨城県への分布拡大を止められるか？」茨城県へのキョンの侵入状況. 日本哺乳類学会2025年度大会. 北海道.
- 小坂井千夏・稲垣怜那・秦 彩夏・後藤優介・福田至朗. 2025. LAMP法による特定外来生物キョンの検知法の開発. 第8回環境DNA学会. 山口.

丸山哲也・後藤優介・竹内正彦. 2026. 八溝山地のニホンジカの現状 ―2025―. とちぎ野生動物研究交流会. 栃木.

伊藤彩乃. 2025. 論文賞受賞記念講演. 「関東堆積盆地西部の葉化石群集から復元した前期更新世のブナ属優占林の構成種と分布状況」. 日本植生史学会2025年度大会. 岡山.

伊藤彩乃・糟谷大河・大和政秀・庄司顕則・山下由美・遊川知久. 2026. 部分的菌従属栄養植物オオウメガサソウの菌根菌は生活史段階で異なるのか?. 日本植物分類学会2025年度大会. 熊本.

北澤佑子. 2025. 南極せんせいのメッセージ. 第33回ペンギン会議全国大会. 東京.

滝本秀夫・Christian Pott. 2025. ベネチテス類の植物全体の復元. 日本古生物学会第175回例会. 薩摩川内市.

水野翔太・ルグラン・ジュリアン・滝本秀夫・大花民子・中島保寿・望月貴史・加藤太一・吉川広輔. 2025. 岩手県下部白亜系宮古層群で産出した孢子・花粉化石群集に基づく古植生の復元. 日本古生物学会第175回例会. 薩摩川内市.

鵜沢美穂子・片桐知之. 2025. 保井コノ博士により新種記載されたコケ植物化石ヤスイゴケの学名と標本について. 日本蘚苔類学会第54回滋賀大会. 米原.

鵜沢美穂子・高橋 淳・北村正美・小池 渉・生田目美紀. 2025. 茨城県自然博物館におけるインクルーシブデザインの実践―誰もが共に楽しく学べる科学系博物館を目指して. 日本デザイン学会第72回春季研究発表大会. 札幌.

細野天智・鵜沢美穂子・折原貴道. 2025. 子囊殻様の特異な形態を持つコケ植物生菌 *Octosporella brevibarbata* (チャワンタケ目、ピロネマキン科) の日本新産報告. 日本菌学会第69回大会. 千葉.

(3) 著書・監修書

松原 聡・猪郷久義・小畠郁生・加藤太一（監修）. 2025. 学研の図鑑 L I V E ポケット岩石・鉱物・化石 新版. 224 pp., Gakken.

加藤太一（監修）. 2025. ゆるゆる図鑑 読解力ドリル 恐竜 低学年. 56 pp., Gakken.

加藤太一（監修）. 2025. ゆるゆる生きた化石図鑑. 176 pp., Gakken.

水嶋英治・小川義和・中村 隆（編著）・加藤謙一・西川 開・馬淵浩一・鵜沢美穂子・佐々木淑美（著）. 2025. ビジュアル博物館学Curation. 168 pp., 人言洞.

(4) その他印刷物

加藤太一. 2025. 企画展のために収集した化石が新種に！？. 全科協ニュース, 55 (4-5): 6-7.

鵜沢美穂子. 2025. 会いに行けるアイドルサヤゴケ. うかたま 季刊〔夏〕 vol.79. pp. 5., 農文協. (雑誌連載)

鵜沢美穂子. 2025. ミズゴケとウイスキー. うかたま 季刊〔秋〕 vol.80. pp. 5., 農文協. (雑誌連載)

鵜沢美穂子. 2025. 憧れのドウソニア. うかたま 季刊〔冬〕 vol.81. pp. 5., 農文協. (雑誌連載)

鵜沢美穂子. 2026. 古墳から見つかったコケ. うかたま 季刊〔春〕 vol.82. pp. 5., 農文協. (雑誌連載)

(5) 査読対応

分野	雑誌名	発行者	件数	対応職員
地学	化石研究会会誌	化石研究会	1	加藤太一
地学	Palaeontological Research	日本古生物学会	1	加藤太一

6 研究助成金

氏 名	研究課題名	助成金名	金 額
池澤広美	海の無セキツイ動物に関する企画展開催に向けての事前調査	公益財団法人 日本海事科学振興財団 2025年度船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」プログラム3「海の学び調査・研究サポート」	500,000円

氏 名	研究課題名	助成金名	金 額
伊藤彩乃	侵略的外来生物対応における不適合メカニズムと政策革新の社会的要因の解明	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 一般 (分担)	直接経費 80,000円 間接経費 24,000円 ※3年目／3年
	オオウメガサソウの保全に関わる研究	公益信託「エコーいばらき」環 境保全基金	70,000円
北澤佑子	北極の自然や観測に関する教育普及および地球と共生する未来づくりを考える機会の実現に向けてーグリーンランド北西部にあるカナック地域の北極観測同行調査ー	公益財団法人 日本極地研究振興会	200,000円
小池 涉 鵜沢美穂子 (研究協力者： 高橋 淳)	「誰もが共に楽しく学べる科学系博物館」の情報デザイン	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (分担)	直接経費 352,572円 ※4年目／4年
後藤優介	個体群動態とブナ科の結実豊凶を考慮したツキノワグマ個体群管理手法の提案	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) (分担)	直接経費 400,000円 間接経費 120,000円 ※3年目／4年
佐野拓哉	鳥類のあし模型を活用した生物多様性の理解向上	一般社団法人 全国科学博物館振興財団	432,000円

7 他機関からの委嘱

氏 名	委嘱委員名
小池 涉	茨城県高等学校教育研究会地学部顧問
鵜沢美穂子	日本蘚苔類学会広報幹事 (1月より地方幹事)
	希少野生動植物種保存推進員 (環境省)
	自然史学会連合博物館部会委員
	筑波大学非常勤講師 (博物館学)
滝本秀夫	東京都市大学非常勤講師 (生涯学習概論、博物館展示論)
池澤広美	自然史学会連合博物館部会委員
	希少野生動植物種保存推進員 (環境省)
	日本動物分類学会監査委員
	茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション共同利用協議会委員
	茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション共同利用協議会「霞ヶ浦流域フィールド教育コンソーシアム」委員
	海の学びコーディネーター (船の科学館「海の学びミュージアムサポート」事業)
後藤優介	日本哺乳類学会哺乳類保護管理専門委員会クマ保護管理検討作業部会員
	日本哺乳類学会哺乳類保護管理専門委員会外来動物対策作業部会キョン分布拡大対策ワーキンググループメンバー
	日本クマネットワーク監査
	茨城県ツキノワグマ管理計画検討委員会委員
	筑波山ブナ林保護対策委員会事務局
	坂東市鳥獣被害対策協議会委員
伊藤彩乃	茨城における絶滅のおそれのある野生植物種の見直し検討委員会委員 (茨城県生物多様性センター)
	筑波山ブナ林保護対策委員会事務局
久松正樹	希少野生動植物種保存推進員 (環境省)
	茨城県環境アドバイザー
	こどもエコクラブ「壁新聞道場」師範
飯田勝明	土浦市文化財保護審議会委員
	守谷市環境審議会委員
	国立科学博物館筑波実験植物園における学習指導員
	茨城県環境アドバイザー
	常総市文化財保護審議会委員

氏 名	委嘱委員名
高橋 淳	茨城県高等学校教育研究会地学部顧問
石塚武彦	茨城県環境アドバイザー
	国立科学博物館筑波実験植物園における学習指導員
栗栖宣博	茨城県環境アドバイザー
小林正雄	茨城県きぬ看護専門学校非常勤講師（生物生態学）

8 研究報告の出版物

(1) 研究報告

茨城県自然博物館研究報告第28号を発行した。PDF ファイルをホームページで公開している。内容は下記の通りである。

（※太字は当館職員を示す）

① 原著論文

鈴木郁子・落合菜知香・**後藤優介**・山崎晃司. 茨城県南部において分布拡大傾向にあるアライグマ (*Procyon lotor*) の食性の特徴

小沢広和・金子 稔・石川博行・野村正弘・**石塚勇太**・**加藤太一**. 茨城県守谷市西板戸井の上部更新統木下層産貝形虫化石：茨城県自然博物館の堆積物展示の分析から

田切美智雄・島崎純生・小池 渉. 日立古生層中のカンブリア系大甕層の放射年代と地質構造

Koji SUGIMURA and **Mihoko UZAWA**. Distribution and Habitat of an Endangered *Pilotrichopsis dentata* (Mitt.) Besch., Rediscovered in Ibaraki Prefecture after 90 Years

② 短報

村田一弘・**松尾武祥**・**加藤太一**. 茨城県ひたちなか市の上部白亜系那珂湊層群礫合層から産出した生痕化石 *Archaeozostera*

③ 資料

石塚武彦・上山裕平. 茨城県守谷市におけるクマゼミ（カメムシ目，セミ科）の発生記録

金子 稔・**石塚勇太**・**加藤太一**・角野凜子・朝海芽生・伊藤 咲・西山知里・鈴木彩夏. 茨城県日立市久慈浜海岸砂に含まれる有孔虫群集

小熊進之介・山崎和哉・外山太一郎・金子誠也・平嶋健太郎・加納光樹. 茨城県那珂川河口域で採集された準絶滅危惧種イドミミズハゼ種群（ハゼ科）の仔魚の記録

佐野拓哉・**後藤優介**. 茨城県内陸部で保護されたアカアシカツオドリ（カツオドリ目，カツオドリ科）の記録

(2) その他

令和6年度末に当館で刊行した「茨城の昆虫たち」（茨城陸生無脊椎動物研究会 編）と「茨城の磯の動物ガイド」（茨城の海産動物研究会 編）を茨城県内の小・中学校、高等学校など818校（国立・私立を含む）に配布したほか、「茨城県の動物・植物の本 総目録」（茨城県生物文献調査会 編）を県内の高等学校など158校（国立・私立を含む）に配布し、図書室に配架していただいた。なお、ひたちなか市の磯に生息する動物を対象に製作した「茨城の磯の動物ガイド」については、授業などで活用していただき、地元の自然や動物をより深く理解していただくため、ひたちなか市と隣接する大洗町と東海村の学校に100部ずつ配布した。

9 研究協力員

当館職員と外部研究者の円滑な研究協力体制を整えるため、「研究協力員受入れ要綱」を整備し、平成29年度から本格的に研究協力員の受け入れを開始した。令和7年度に受け入れた研究協力員の研究課題は次の8件である。

分野	氏名	研究課題	担当職員
動物	舟橋正隆	茨城県産魚類の研究（主に茨城沿岸の浅海域から深海にかけての調査研究）	池澤広美
	片山英里	茨城県沿岸に分布する魚類の調査および生物地理学的研究	北澤佑子
	内田大貴	関東地方を中心とした水生生物（主に淡水魚類・甲殻類・水生昆虫類など）の多様性解明	北澤佑子
植物	栗原 孝	茨城県における維管束植物のフロラ研究	伊藤彩乃 鶴沢美穂子
地学	国府田良樹	長鼻類の分類学的研究	加藤太一
	飯泉克典	中新世長鼻類の起源と進化の解明	加藤太一
	金子 稔	下総層群から産出する微化石	加藤太一
	三井翔太	茨城県稲敷郡阿見町島津の木下層から産出する魚類の耳石化石群集の解明	加藤太一

○ 研究協力員による研究成果

(1) 学術論文など

小沢広和・金子 稔・石川博行・野村正弘・石塚勇太・加藤太一. 2025. 茨城県守谷市西板戸井の上部更新統木下層産貝形虫化石：茨城県自然博物館の堆積物展示の分析から. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 37-45, pls. 1-2.

金子 稔・石塚勇太・加藤太一・角野凜子・朝海芽生・伊藤 咲・西山知里・鈴木彩夏. 2025. "茨城県日立市久慈浜海岸砂に含まれる有孔虫群集. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 63-66, pls. 1-2.

金子 稔. 2025. 高等学校地学系部活動の微化石を使った研究例（棘皮動物骨片化石）. 地学教育と化学運動. 95: 39-46.

5 広報広聴活動および出版事業

Public Relations and Publications

(1) 広報広聴活動

各種広報媒体を活用し、博物館および博物館活動に対する理解を深めるとともに、来館者からの意見・要望を広く聴取し、博物館運営の参考とした。

① 広報活動

区 分	内 容	参 考
印刷広報 (ポスター・チラシなど)	・「恐竜とともに生きた生物たち」展 ・「どんぐり」展 ・「鳥の世界へようこそ！」展	B1：80枚、B2：2,800枚、A4：110,000枚 B1：80枚、B2：2,800枚、A4：110,000枚 B1：80枚、B2：2,700枚、A4：100,000枚
広告掲出など	・ポスター駅貼り・車内中吊り広告 ・新聞広告 ・ラジオ CM	企画展（TX 各駅、関鉄各駅） 企画展（読売新聞、毎日新聞、茨城新聞ほか）、夏の観光ガイド（産経新聞）、その他（読売新聞、産経新聞、茨城新聞ほか）、企画展紹介（茨城放送）
博物館ニュースの発行 (A・MUSEUM)	Vol.117、118、119	vol.117、118、119 各8,500部 A4判8ページ（フルカラー） 県内市町村の学校などへ配付
県広報媒体利用による 広報	・県教育委員会広報誌「教育いばらき」 ・県政情報紙「ひばり」 ・「市町村広報」 ・茨城放送（ラジオ、「みんなの教育」）	県内各学校および全教職員を対象に配布 新聞折込み（全戸配布） 県内および隣接県各市町村へ情報提供にもとづく広報掲載
報道機関などへの情報提供、取材・中継協力	企画展・記念入館者・各種事業など ※県外（東京など）含む主な掲載内容 【新聞】 ・「うんち展 — NO UNCHI, NO LIFE —」 関連 ・「ミュージアムパーク30年のありったけ」 関連 ・「恐竜とともに生きた生物たち」関連 ・「どんぐり」関連 ・「子ども新聞」関連 ・「木・草・こけだより」関連 【テレビ・ラジオ】 ・「ミュージアムパーク30年のありったけ」 関連 ・「恐竜とともに生きた生物たち」関連 ・「どんぐり」関連 ・「鳥の世界へようこそ！」関連	・読売新聞 2回掲載 ・茨城新聞 6回、東京新聞 1回掲載 ・茨城新聞 6回掲載 ・茨城新聞 6回掲載 ・産経新聞 1回掲載 ・茨城新聞 9回掲載 ・東京新聞 6回掲載 ・LuckyFM 茨城放送「MUSIC STATE スクーピーレポート」 R7.4.16放送 ・いばキラTV「いばらき推し」R7.5.2放送 ・LuckyFM 茨城放送「MUSIC STATE スクーピーレポート」 R7.7.29放送 ・いばキラTV「challenge ibaraki」R7.8.2放送 ・YouTube「ギズモードジャパン」計4回放送 ・LuckyFM 茨城放送「MUSIC STATE スクーピーレポート」 R7.10.22放送 ・LuckyFM 茨城放送「MUSIC STATE スクーピーレポート」 R8.3.24放送

区 分	内 容	参 考
報道機関などへの情報提供、取材・中継協力	・「南極せんせい」関連 ・「ツキノワグマ出没」関連	・茨城新聞2回掲載 ・広報坂東 NO.249（令和7年12月18日号）掲載 ・自衛隊茨城地方協力本部@公式X掲載 ・国立極地研究所ホームページ掲載 ・ケーブルテレビ「いばらきHOTステーション」R7.12/16.17.21放送 ・筑波大学新聞 1回掲載 ・茨城新聞、毎日新聞ほか
出版社などへの情報提供	・資料提供 ・取材依頼、協力	地域情報紙・誌など（県外を含む） <主な掲載誌> 月刊ぷらざ、月刊みと、まっふる、るるぶ、 小学1年生、KidsDO、常陽小学生新聞 ほか

② 広聴活動

区 分	内 容	参 考
入館者からの意見収集	来館者アンケート調査の実施	年3～4回実施 ・調査数 約1,000人／回
	各行事参加者へのアンケート調査	自然ラボ・サンデーサイエンス・サイエンスデーなど
	御意見承り箱の設置（随時）	平成7年11月設置 ・来館者からの感想・意見の収集
博物館モニターからの意見の収集	アンケート調査などへの協力 企画展開催時などに来館し、自由に意見・提案・要望などを提出（随時・内容自由） 館運営全般として施設管理・企画展そのほか展示や館内サービス、イベントなど	令和7年4月より、第13期市民モニター活動開始（61人：2年間） 県職員モニター 61人 市民モニター 75人

(2) 出版事業

博物館で実施している事業（企画展、調査研究など）の記録、報告または展示事業における来館者への便宜を図るため、次の図書の製作・発行を行った。

図 書 名	規 格	部 数
第92回企画展「恐竜とともに生きた生物たち」展示解説書	A 4判、40頁	900
第93回企画展「どんぐり」展示解説書	A 4判、40頁	900
第94回企画展「鳥の世界へようこそ！」展示解説書	A 4判、40頁	900
年報第31号 令和6年度	A 4判、84頁	400
茨城県自然博物館研究報告第28号 2025年12月	A 4判、90頁	500

6 博物館関係行事

Museum Events

(1) 海の日イベント

令和7年7月21日（月・祝）「海の日」にちなんで、海に関連する特別イベントを開催した。

- ・「海の生きものタッチングプール」（参加者：447人）
担当：水系職員、企画課
- ・「コーパルみがき体験！化石をさがそう」（参加者：42人）
担当：企画課、前橋千里



海の日イベント
Marine Day Event

(2) サイエンスデーイベント

博物館をより身近な存在とするため、年4回の無料入館日を独自にサイエンスデーと位置づけ、イベントを行っている。令和7年度は、令和7年6月5日（木）の「地球・科学の日」、令和7年11月13日（木）の「茨城県民の日」、令和8年3月20日（金・祝）「宇宙・科学の日」にちなみイベントを実施した。

- ① 地球・科学の日【令和7年6月5日（木）：環境の日 ※イベントは6月8日（日）に実施】
 - ・「博物館SDGsクイズに挑戦！」（スマートフォンによる二次元コード読み取り方式で実施）
参加者：スマートフォン233人、紙媒体1人、合計234人
担 当：企画課
- ② 茨城・科学の日【令和7年11月13日（木）：茨城県民の日】
 - ・野外ガイドツアー「どんぐりコレクションをつくろう」（参加者：62人）
担 当：植物研究室、友の会、企画課
 - ・「水系バックヤードをみてみよう！」（参加者：72人）※抽選制
担 当：水系職員、企画課
 - ・「だいきいばらき！県民クイズ！」（855枚配布）
担 当：企画課
 - ・講演「感染症を媒介するマダニのお話」（参加者：38人）
講 師：茅根重夫 氏
担 当：吉田 佑、池澤広美、動物研究室
- ③ 宇宙・科学の日【令和8年3月20日（金・祝）：春分の日】
 - ・「プランクトン観察体験！」（参加者：543人）

- 担 当：茨城県霞ヶ浦環境科学センター職員（8人）、企画課
- ・野外ガイドツアー「野鳥の観察をしよう！」（参加者：23人）
- 担 当：佐野拓哉、後藤優介、櫛引豪人、企画課
- ・「水系バックヤードをみてみよう！」（参加者：65人）
- 担 当：水系職員、企画課
- ・「プテラノドンのちぎり絵をつくろう！」（参加者：143人）
- 担 当：企画課、友の会、ボランティア

(3) お正月イベント

令和8年1月2日（金）、3日（土）に新年記念として以下のイベントを開催した。

- ・「お正月だよ！砂金探しでお年玉！」（参加者：70人）※抽選制
- 担 当：横山一己館長、佐藤一康、前橋千里、石塚勇太、企画課、友の会、ボランティア



お正月イベント
New Years Event



お正月イベント
New Years Event

7 他の機関・団体との連携

Cooperation with Other Institutions and Organizations

博物館活動を活発化させるため、行政機関、企業などとの連携の下、館運営を行っている。

(1) ミニ移動博物館の実施

広報活動の一環として、地域の祭りや大型商業施設などでミニ移動博物館を例年実施している。6年度と同様15回、20日実施した。なお、会場で広報資料とともに配布している招待券引換券の回収率は7年度平均12.3%、誘導来館者数は1,191人と、当館への来客促進に大きく寄与している。

種 別	実施場所・関連企画名		期 日
社会教育施設など	逆井城跡公園	「逆井城まつり」	R7. 4. 6
	常総市市民のひろば	「常総千姫まつり」	R7. 5.11
	茨城県立歴史館	「歴史館まつり」	R7. 5.31
	茨城県霞ケ浦環境科学センター	「霞ケ浦ECOフェスティバル」	R7. 8.24
	水海道あすなろの里	「あすなろの秋祭り」	R7.10.26
	坂東市観光交流センター秀緑	「将門まつり」	R7.11. 9
	鹿行生涯学習センター	「ジョブズフェスタ」	R7.11.16
	カシマススポーツセンター	「ミニ移動博物館」	R7.12. 6
	茨城県霞ケ浦環境科学センター	「環境学習フェスタ」	R8. 2.14
	水戸市民会館	「子育てフェスタ」	R8. 3.21
商業・観光施設など	イオンモールつくば	「ミニ移動博物館」	R7. 7.26～ 7.27
	国営ひたち海浜公園	「海・花・そとあそび2025」	R7.11. 8
	イーアスつくば	「子育てフェスタ」	R7.11.29～11.30
	TX PLAZA 秋葉原	「ミニ移動博物館」	R8. 2. 6～ 2. 8
	イオンモール土浦	「ミニ移動博物館」	R8. 3. 7～ 3. 8

(2) マスコミとの連携

① 日本放送協会（企画展関連）

第91回、第92回、第93回、第94回の各企画展について、NHK水戸放送局の後援を受けて開催し、NHK県域デジタル放送などで広報の機会を得た。

② 茨城新聞社（企画展関連）

第91回、第92回、第93回、第94回の各企画展について、茨城新聞社の後援を受けて開催し、各企画展について、同新聞での企画展関連記事の連載を実施した。

③ LuckyFM茨城放送（企画展関連）

第91回、第92回、第93回、第94回の各企画展について、LuckyFM茨城放送の後援を受けて開催し、ラジオ放送での広報機会を得た。

(3) 県庁各部署との連携

観光・文化・環境関係の県各部署との連携・協力を図りながら、県内外からの来館者に対して、博物館活動のPRを実施している。

(4) 茨城県生物多様性センターとの連携

茨城県生物多様性センターと連携し、生物多様性の保全および外来種対策の推進に取り組んだ。当館職員および協力研究者による動植物の種同定にもとづく正確な記録や、当館が収集・保管する標本は、生物多様性に関する各種事業の証拠資料として活用されている。主な連携内容は以下の通りである。

・生物多様性保全

茨城県版レッドデータブック（植物）の改訂に向けて、協力を行った。

・外来種対策

動物分野ではキョン、アライグマ、カミツキガメなど、植物分野ではオオバナミズキンバイなどを対象として、生息・生育状況の把握や防除に向けた取り組みに協力した。

(5) 福井県立恐竜博物館との連携事業

当館と福井県立恐竜博物館は、平成19年度より覚え書きを交わし、博物館事業の効率的な運営および活性化を図ることを目的に「連携博物館」として博物館事業の連携を推進している。

① 教育普及事業における職員の相互派遣

福井県立恐竜博物館へ村田一弘主査を講師として派遣し、11月22日（土）に連携博物館セミナー「生痕化石「コダイアマモ」との出会い」を実施した。

② 古生物学の共同研究

重点研究「常磐地域の上白亜系から復元される後期白亜紀の海洋生態系」の一部において、当館の加藤太一副主任学芸員が福井県立恐竜博物館の藺田哲平博士と共同研究を行っている。

(6) 日本微生物生態学会・日本菌学会との共催イベントの開催

平成22年度に日本微生物生態学会と共催で「みてみよう！いきものミクロ☆探検隊」を開催したのを機に毎年実施するようになり、平成25年度からは日本菌学会も加わって行っている。本イベントは一般の参加者だけでなく、研究者や学生が全国から集い、人材育成の機会ともなっている。令和7年度は11月29日に実施した。

(7) 地域の関連機関や自然史系博物館と連携した自然観察会の実施

公益財団法人 日本海事科学振興財団 2025年度海の科学館「海の学び ミュージアムサポート」プログラム2「海の学び博物館活動サポート」Aコース博物館活動の助成金を活用し、地域の関連機関や他県の自然史系博物館と共催で、ひたちなか市の岩礁海岸で磯の動物についての自然観察会を実施した。

① 令和7年5月17日（土）に平磯海岸（ひたちなか市）で令和7年度自然ラボ（観察会）「磯の生き物を観察しよう」を予定していたが、天候不良のため中止となった。

主催：ミュージアムパーク茨城県自然博物館

共催：アクアワールド茨城県大洗水族館、公益財団法人水産無脊椎動物研究所、地球レーベル、茨城の海産動物研究会

② 令和7年6月1日（日）に平磯海岸（ひたちなか市）で令和7年度自然観察会「磯の生き物観察会2025」を実施した。

主催：地球レーベル

共催：ミュージアムパーク茨城県自然博物館、アクアワールド茨城県大洗水族館、公益財団法人 水産無脊椎動物研究所、茨城の海産動物研究会、群馬県立自然史博物館

参加者：40人

(8) 東京ドームにおける特別展「うち展」への協力

令和5年度に開催した第87回企画展「うち無しでは生きられない！ーあなたの知らない自然のしくみー」の内容をもとに一部再構成された特別展「うち展ーNo UNCHI, No LIFEー」が、東京ドームシティ Gallery AaMo（ギャラリーアーモ）で開催された。（主催：読売新聞社および東京ドーム）この特別展は、令和7年3月18日（火）から5月18日（日）までの期間で開催され、当館は特別協力として学術的監修や資料の貸出および展示などに携わった。なお、約2か月の会期中、43,508人の来場者があった。



展示室風景

Exhibition room



展示室風景

Exhibition room

8 ボランティアの養成と活動の支援

Training and Support for Volunteers

市民参加による博物館事業を推進するとともに、生涯学習の場、社会参加の場を提供することを目的として、博物館の活動や自然に興味のある人による博物館ボランティアが活動を行っている。例年、博物館ボランティアへさまざまな研修講座を実施するとともに、自主的な研修やチームの活動について積極的に支援している。

令和7年度は、定例の活動に加え、企画展のパネルおよびラベルの作成補助を行った。さらに、「第93回企画展 どんぐりー魅力に はまって さあたいへん♪ー」会場内にて、ボランティアによる工作教室を実施した（土日祝）。

博物館ボランティアが企画、運営する「ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）」、「子ども自然教室」には毎回多くの来館者が参加している。

(1) 年齢別登録者数および地域別登録者数（含研修生）

年齢	人数	地 域	人数	地 域	人数
10～	1	坂 東 市	15	千 葉 県	17
20～	7	常 総 市	6	埼 玉 県	8
30～	8	守 谷 市	7	東 京 都	1
40～	4	つくばみらい市	10	神 奈 川 県	1
50～	11	つ く ば 市	14	栃 木 県	3
60～	26	取 手 市	1		
70～	35	牛 久 市	7		
80～	12	そ の 他 の 県 内	14		
90～	0	県 内	74	県 外	30
合計	104			合計	104

(2) ボランティア研修会の実施

種 類	内 容	参加者	期 日
ボランティア総会および更新研修	総 会：ボランティア年間活動計画の承認など 更新研修：年1回の更新研修	53	R7. 5.24
ボランティア養成講座（上半期）	ミュージアムパーク茨城県自然博物館の特徴について	4	R7. 6.29
ボランティア記念日	チーム活動（成果、計画）相互発表会（プレゼン） 記念誌写真撮影	38	R7. 7.19
ボランティア交流受け入れ	多摩六都科学館ボランティアの視察および交流	来館 54人	R7.10. 7
自主研修視察および交流会	施設見学およびボランティア交流 場 所：国立科学博物館筑波実験植物園	15	R7.11.26
ボランティア養成講座（下半期）	ミュージアムパーク茨城県自然博物館の特徴について	3	R8. 1.17

(3) ボランティア活動の状況

現在、12のチーム単位に活動を行っている。

- ・化石クリーニング
- ・野鳥
- ・イベント
- ・きのこけ
- ・研修
- ・友の会
- ・植物
- ・昆虫
- ・図書
- ・地学
- ・ネイチャーゲーム
- ・竹林・竹炭

主な活動内容

- ①自然レクチャー「ふれあい野外ガイド」の開催
- ②「子ども自然教室」の企画運営
- ③ボランティア活動紹介展示
- ④収蔵資料（動物、植物、地学）の整理

- ⑤博物館野外での動植物の調査
- ⑥身近な植物の生体標本展示
- ⑦観察会などにおける指導補助
- ⑧図書室の利用案内および図書整理
- ⑨ボランティア自主研修会の企画・運営
- ⑩化石クリーニング
- ⑪友の会行事の企画および会報の発行補助
- ⑫企画展の支援



ボランティア交流：自主研修視察
 (国立科学博物館筑波実験植物園)
 Volunteer exchange : observation for voluntary training
 (Tsukuba Botanical Garden)



ボランティアによる工作教室（どんぐり展）
 Workshop by volunteers on special exhibition of “What a Wonderful Acorn World”

9 友の会活動の支援

Support to Events by Museum Friends of Ibaraki Nature Museum

(1) 友の会活動の支援

友の会は、当館の支援団体として位置づけられており、会員の入館料免除、情報提供、友の会事業への当館職員の派遣など、さまざまな面で友の会会員の活動を支援している。

① 会員の入館料免除

延べ4,752人の友の会会員が入館し、入館料を免除した。

② 情報提供

当館で年3回発行している機関誌「A・MUSEUM」を友の会会員全員に提供した。

③ 友の会事業への当館職員の協力

- ・各種イベントの計画・開催時における助言並びに職員の派遣。
- ・マンモス通信などへの寄稿。

(2) 友の会活動の状況

主な活動内容

- ・博物館が行う諸活動への協力
- ・博物館ボランティアの運営協力
- ・会員が相互の親睦を深め、自然と親しみ、楽しく学習するための事業
- ・会報などの発行および博物館ニュース、企画展案内などの配布
- ・博物館に相応しい企画展記念グッズの開発
- ・博物館来館者への便宜供与などにかかる収益事業
- ・友の会の普及発展およびそのほか目的達成に必要な事業
- ・友の会ホームページの運営とSNSによる情報発信

(3) 会員構成

令和7年度	666件（令和8年3月末現在）		
家族会員	503件	個人会員	124件
子ども会員	11件	賛助会員	28件

(4) 主な事業

① 友の会主催事業など

★印の行事は博物館との共催、又は博物館への後援事業 ◎博物館イベントに友の会会員枠で参加

	行 事 名	実施場所・内容など	参加者数
4月	○博物館ボランティアによるイベント 「マンモスのちぎり絵をつくろう」(R7.4.12)	○博物館ボランティアの協力を得て、友の会会員と一般来館者を含む幼児向けイベントとして、講座室でちぎり絵体験を行った。各回定員30人で全6回実施した。	151人
5月	○よるそら観察会 「皐月に華やぐ fantasia」(R7.5.17)	○天体の観測が難しい空模様であったため、セミナーハウスで講師2人によるレクチャーに変更して実施した。映像を活用し、春に見られる星座や月について学び、プラネタリウム内では、同時刻に観察予定だった星空を楽しむことができた。	45人

	行 事 名	実施場所・内容など	参加者数
7月	○昆虫観察会 「あつまれ 昆虫てんこ盛り」(R7.7.25)	○博物館職員と博物館ボランティアによるレクチャーをセミナーハウスで実施した。セミの抜け殻での雌雄判別やふ化の観察、ハチの巣の解体実演、事前準備した昆虫に直接触れる体験など、楽しみながら昆虫への理解を深めることができた。	39人
8月	○夏休みイベント 「かるたしようぜ！」(R7.8.23)	○開催中の企画展「恐竜とともに生きた生物たち」に因み、当館オリジナルの「恐竜かるた」を使って、セミナーハウスで家族対抗リーグ戦形式のかるたとり大会を行った。競技をとおして会員どうしの交流が見られた。	22人
9月	○植物観察会 「お部屋を彩る苔テラリウム」(R7.9.20)	○苔テラリウム作家を外部講師として招き、スタディールームで午前午後の2回実施した。丁寧な指導を受け、土台づくりと植栽の作業により、それぞれ個性的な作品を完成させることができた。	51人
10月	○よるそら観察会 「また月が昇る Front line」(R7.10.3)	○2人の博物館ボランティアの協力を得て、よるそら観察会を実施した。雲の動きを気にかけてながら、先に双眼鏡や天体望遠鏡による野外での観察会で月や星をじっくり観察した後で、セミナーハウスに戻り、レクチャーを実施した。	30人
11月	★サイエンスデーイベント 野外ガイドツアー 「どんぐりコレクションをつくろう」(R7.11.13) ○地学観察会 「今知りたい天気の話」(R7.11.15)	★茨城県民の日スペシャルイベントとして実施 どんぐり展と関連させて、どんぐりを観察しながらどんぐりコレクションをつくった。 ○気象予報士の資格をもつ博物館職員の協力で大人向けの観察会を実施した。雲の図鑑を手に野外で雲を観察した後で、身近にあるものを使って雲をつくる実験をした。また、猛暑や集中豪雨のしくみについても学んだ。	13人
12月	○クリスマスイベント 「ミニサンタを探せ！2025」 (R7.12.2～R7.12.26) ○クリスマス交流会 (R7.12.7)	○期間中、各自都合の良いときに来館し、館内に隠れているミニサンタを探すイベントを実施した。参加者には後日プレゼントを送付した。(ポケット双眼鏡 260コ) ○12人の博物館ボランティアの協力により会員限定交流イベントを実施した。映像ホールで紙芝居と手品ショーを楽しんだ後でセミナーハウスに移動してサンタさんからお菓子のプレゼントをもらい、どんぐりクッキーの試食やクイズで会員どうしの交流を深めることができた。	135組 151人
1月	◎博物館イベント (サンデーサイエンス) 「貝化石を見つけよう」(R8.1.11) ○野鳥観察会 「博物館で野鳥をみつけよう！」(R8.1.25)	◎午前中 友の会枠 (事前申し込み 抽選) ○博物館職員のレクチャーを受けた後、博物館野外で野鳥を観察し、身近に生息する野鳥について学んだ。	22人 28人
2月	◎博物館イベント (サンデーサイエンス) 「竹筆をつくろう」(R8.2.15)	◎午前中 友の会枠 (事前申し込み 抽選)	10人
3月	◎博物館イベント (サンデーサイエンス) 「カモの小さな置き物をつくろう」(R8.3.8) ○ミュージアムフレンズデー 「第1回プチウォークラリー大会」(R8.3.15) ★サイエンスデー「宇宙・科学の日」イベント 「プテラノドンちぎり絵をつくろう！」 (R8.3.20)	◎午前中 友の会枠 (事前申し込み 抽選) ○広い野外を活用し、ポイントを回りながら、ボランティアの方とゲームをしたり、問題に答えたりしながらゴールをめざすウォークラリー大会を実施した。 ★一般来館者向けイベントとして、プテラノドンのイラストに折り紙をちぎって貼る工作体験を実施した。友の会に関心をもってもらう機会となるよう、友の会についての説明時間を設けた。	15人 30人 142人

② 後援事業

- ・企画展関連事業への協力
- ・企画展記念グッズの製作

③ 会報の発行

- ・マンモス通信（令和7年6月、8月、10月、令和8年2月発行）
- ・ミニマンモス通信（令和7年4月、11月発行）

④ その他

- ・4月12日（土）博物館ボランティアによるイベント「マンモスのちぎり絵をつくろう」では、当日の一般来館者も参加できるよう計画し、友の会とボランティアの活動についてアピールした。
- ・博物館ボランティア友の会チームの協力を得て4月6日（日）、7月13日（日）、10月19日（日）、11月2日（日）に友の会入会促進キャンペーンを実施した。入会者には友の会オリジナルグッズをプレゼントした。
- ・ホームページに「年間イベント計画」を掲載した。
- ・12月下旬から、多くの来館者が見込まれる土日祝日に、「友の会会員募集」の看板をエントランス近くに立てることとした。入館前に友の会の特典などについて理解して頂くとともに、スムーズな入館手続きにもつながっている。
- ・SNSでタイムリーに博物館のようすや開催中の企画展について発信し、閲覧者に興味をもってもらえるよう努めた。
- ・会報「マンモス通信」のイベント報告を参加者に寄稿してもらうなど、読者である会員参加型の記事づくりをすることで会報への関心を高めた。
- ・各企画展の入館者10万人など達成記念式典では、記念入館者に友の会からオリジナルグッズなどの詰め合わせをプレゼントした。

(1) 目的

令和6年11月13日に開館30周年を迎え、これまで1,300万人を超える大変多くの来館者を迎えてきたが、近年、施設の老朽化や物価高騰の影響により、施設の維持・管理に多くの予算を割かなければならない状況にあり、教育普及活動や展示更新・修繕のための費用捻出に苦慮している状況にあった。

このような事情から、令和5年度に「賛助会員制度」を創設し、青少年の自然科学などへの興味関心の向上に関する事業や、資料の保存、修繕などの費用に充てるため、幅広い方々から寄付を募ることとした。

(2) 制度の概要

- ①会員区分 個人および団体
- ②会員期間 1年間
- ③会 費 個人1口5万円、団体1口10万円
- ④特 典
 - ・1口につき当館無料招待券10枚（団体会員は20枚）
 - ・当館発行の企画展展示解説書・博物館広報誌（A・MUSEUM）などの送付
 - ・氏名（団体名）を当館指定箇所およびホームページに掲載（希望制）
 - ・ミュージアムショップでの割引（一部限定商品を表示価格から1割引【個人会員のみ】）

(3) 令和7年度末現在の状況

- ①会 員 数 延べ24人（団体19人、個人5人）
- ②会費収入 約435万円
- ③使 途 （予定を含む）
 - イベントで使用する材料などの購入
 - ・材料の購入（従来は参加者から徴収していたもの）
 - ・イベントで使用する機器の購入
 - 教育普及用資料の製作や修繕
 - ・移動博物館用展示資料および運搬・展示機材の修繕
 - 常設展示に関連した資料の修繕や補充



イベントのようす
Educational event for children



移動博物館触れる展示
Hands-on Exhibition in Mobile Museum

Ⅱ 利用状況

Visitor's Statistics

1 令和7年度入館者数

Number of Visitors, 2025-2026

令和7年度の入館者総数は502,313人であり、前年度比約104.7%である。そのうち、教育活動の一環として当館を訪れた学校および人数は、延べ648校、50,153人である。そして、前年度比は学校数では約102.4%、人数で約102.0%である。

(1) 入館者数の推移

年	月	開館 日数	有料入館					無料入館								総計	1日 あたり 平均
			一般	高齢者	大学生 高校生	中学生 小学生	有料計	高齢者	身障者 知的障害者	学校関係	福祉関係	保育園 幼稚園	未就学児	その他	無料計		
平成6年度		112	128,611		3,865	48,018	180,494	15,428	1,448	8,947	567		42,306	41,783	110,479	290,973	2,598
平成7年度		298	291,832		8,698	119,693	420,223	36,302	3,078	88,001	5,909	25,710	65,572	36,448	261,020	681,243	2,286
平成8年度		296	200,433		6,167	74,317	280,917	20,818	1,979	64,957	4,073	24,355	53,585	49,857	219,624	500,541	1,691
平成9年度		300	169,377		4,905	63,797	238,079	14,932	1,676	67,540	2,912	32,146	69,100	61,377	249,683	487,762	1,626
平成10年度		302	143,616		4,098	47,465	195,179	13,199	1,970	69,848	3,447	39,155	59,408	72,864	259,891	455,070	1,507
平成11年度		302	131,939		3,890	43,988	179,817	12,632	2,370	57,473	4,336	34,178	60,027	74,017	245,033	424,850	1,407
平成12年度		300	120,376		3,835	43,287	167,498	11,857	2,306	58,188	4,041	37,681	57,143	72,673	243,889	411,387	1,371
平成13年度		302	127,253		3,393	45,594	176,240	13,093	2,906	63,555	4,071	39,143	59,782	79,072	261,622	437,862	1,450
平成14年度		303	124,798		2,948	42,579	170,325	12,310	3,008	59,558	3,747	35,530	56,824	77,847	248,824	419,149	1,383
平成15年度		305	124,604		2,843	44,917	172,364	10,739	3,360	59,169	4,506	38,543	55,111	80,436	251,864	424,228	1,391
平成16年度		306	129,943		2,817	48,242	181,002	9,497	4,111	55,119	4,617	38,896	59,771	86,989	259,000	440,002	1,438
平成17年度		306	108,644		2,587	38,235	149,466	8,238	4,226	51,273	5,041	43,091	51,040	81,786	244,695	394,161	1,288
平成18年度		308	117,105		2,417	42,145	161,667	7,408	4,150	61,835	4,939	46,643	54,448	77,695	257,118	418,785	1,360
平成19年度		307	122,108		2,530	40,118	164,756	6,332	4,341	58,259	4,946	47,619	53,874	77,212	252,583	417,339	1,359
平成20年度		305	105,345		2,516	36,478	144,339	6,494	4,501	60,496	3,723	43,515	48,914	89,158	256,801	401,140	1,315
平成21年度		305	102,908		2,389	36,634	141,931	7,031	5,025	56,355	4,738	43,005	45,280	97,386	258,820	400,751	1,314
平成22年度		288	96,196		2,248	31,946	130,390	7,371	4,967	54,120	4,523	44,536	41,699	94,272	251,488	381,878	1,326
平成23年度		307	91,313		2,148	32,032	125,493	6,812	5,344	46,349	2,985	29,399	45,944	116,339	253,172	378,665	1,233
平成24年度		306	94,704		2,248	30,873	127,825	6,753	5,707	52,866	3,687	41,261	41,597	109,940	261,811	389,636	1,273
平成25年度		305	105,159		2,528	34,246	141,933	7,627	6,002	52,727	4,302	41,198	47,585	117,881	277,322	419,255	1,375
平成26年度		305	104,523		2,237	32,044	138,804	8,188	6,325	53,338	5,582	41,689	51,074	124,786	290,982	429,786	1,409
平成27年度		305	121,719		2,648	37,097	161,464	8,533	7,193	50,422	5,539	39,385	51,811	120,922	283,805	445,269	1,460
平成28年度		306	135,343		2,778	39,034	177,155	8,948	8,144	46,734	6,954	42,460	58,786	96,920	268,946	446,101	1,458
平成29年度		305	174,022		3,560	49,692	227,274	10,424	9,968	50,769	7,469	41,291	71,797	84,568	276,286	503,560	1,651
平成30年度		305	176,544	7,296	3,795	65,884	253,519	3,393	10,020	28,837	7,121	41,986	72,164	71,944	235,465	488,984	1,603
令和元年度		302	177,904	9,338	4,017	74,529	265,788	1,105	11,068	18,468	7,581	37,148	70,133	69,625	215,128	480,916	1,592
令和2年度		258	118,296	4,811	3,193	33,373	159,673	816	5,929	8,091	514	4,574	47,382	30,679	97,985	257,658	999
令和3年度		227	112,605	4,600	3,217	39,775	160,197	814	5,292	14,374	833	6,803	59,350	33,461	120,927	281,124	1,238
令和4年度		307	170,252	7,898	3,839	73,382	255,371	1,145	8,876	14,526	2,810	18,353	85,900	61,109	192,719	448,090	1,460
令和5年度		293	159,486	7,634	4,216	72,686	244,022	1,270	9,330	15,280	8,376	25,179	70,314	56,830	186,579	430,601	1,470
令和6年度		299	190,854	9,066	4,288	78,918	283,126	1,529	10,719	16,487	9,436	29,091	71,130	58,153	196,545	479,671	1,604
令和7年度	4	26	14,537	710	160	4,452	19,859	36	932	311	615	1,485	5,141	4,766	13,286	33,145	1,275
	5	27	18,899	941	348	6,469	26,657	423	1,063	4,124	492	5,154	7,719	12,597	31,572	58,229	2,157
	6	20	14,212	660	86	4,947	19,905	33	721	2,809	507	1,901	4,776	3,220	13,967	33,872	1,694
	7	27	19,725	689	165	7,328	27,907	41	1,130	315	1,353	2,456	6,580	5,440	17,315	45,222	1,675
	8	28	37,066	1,490	666	12,736	51,958	0	2,052	0	2,691	194	14,095	4,486	23,518	75,476	2,696
	9	24	19,859	568	124	8,310	28,861	239	1,067	1,069	675	2,317	6,271	5,590	17,228	46,089	1,920
	10	27	15,308	668	78	10,963	27,017	0	806	4,400	777	4,379	4,825	3,922	19,109	46,126	1,708
	11	26	16,307	829	142	8,068	25,346	244	1,148	2,827	946	2,824	5,991	6,430	20,410	45,756	1,760
	12	23	8,145	407	58	5,222	13,832	0	527	362	372	471	2,837	2,678	7,247	21,079	916
	1	24	14,475	602	127	4,400	19,604	53	943	119	458	819	5,054	5,561	13,007	32,611	1,359
	2	17	12,321	458	105	2,276	15,160	0	638	21	277	3,076	3,800	1,116	8,928	24,088	1,417
	3	26	17,234	802	229	4,282	22,547	204	985	84	1,058	3,073	6,732	6,234	18,370	40,917	1,574
	計	295	208,088	8,824	2,288	79,453	298,653	1,273	12,012	16,441	10,221	28,149	73,821	62,040	203,957	502,610	1,704
	旧あたり平均		17,341	735	191	6,621	24,888	106	1,001	1,370	852	2,346	6,152	5,170	16,996	41,884	—
開館後累計		9,071	4,295,046	50,401	104,858	1,541,553	5,991,858	280,782	166,632	1,463,915	144,110	1,052,621	1,781,542	2,407,916	7,297,518	13,289,376	1,465

※ R6.10.1より野外のみ大学生料金

※ R6.10.9より共通券・野外券 大学生料金

(2) 学校などの利用状況

年	月	小学校		中学校		高校		特別支援		総計	
		校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
平成6年度		91	6,601	12	1,825	4	214	8	307	115	8,947
平成7年度		609	56,020	122	18,478	59	10,838	55	2,665	845	88,001
平成8年度		507	43,936	86	13,006	40	6,504	42	1,511	675	64,957
平成9年度		552	48,205	86	11,604	38	6,004	37	1,727	713	67,540
平成10年度		594	53,258	81	10,525	31	4,900	31	1,165	737	69,848
平成11年度		548	47,203	58	6,215	17	2,794	27	1,261	650	57,473
平成12年度		542	45,065	79	7,887	21	3,803	27	1,433	669	58,188
平成13年度		598	50,855	86	9,571	17	2,289	21	840	722	63,555
平成14年度		506	45,280	103	11,592	19	1,959	17	727	645	59,558
平成15年度		550	47,442	79	8,923	21	1,995	20	809	670	59,169
平成16年度		503	45,676	64	6,979	18	1,591	22	873	607	55,119
平成17年度		524	43,780	57	6,592	6	290	15	611	602	51,273
平成18年度		576	51,306	63	7,640	15	1,693	25	1,196	679	61,835
平成19年度		571	49,570	64	7,023	8	415	24	1,251	667	58,259
平成20年度		547	50,534	57	7,270	8	1,392	23	1,300	635	60,496
平成21年度		527	46,679	56	7,211	13	1,329	26	1,136	622	56,355
平成22年度		542	47,387	44	5,451	9	510	18	772	613	54,120
平成23年度		503	40,291	35	4,537	9	669	18	852	565	46,349
平成24年度		510	45,172	53	6,300	12	792	19	602	594	52,866
平成25年度		518	44,736	50	6,536	12	955	14	500	594	52,727
平成26年度		502	44,275	57	7,294	10	899	20	870	589	53,338
平成27年度		509	43,062	48	6,103	12	810	13	447	582	50,422
平成28年度		473	38,948	62	5,974	16	1,460	13	352	564	46,734
平成29年度		519	42,441	67	6,517	16	1,117	18	694	620	50,769
平成30年度		505	42,299	73	5,830	11	602	11	363	600	49,094
令和元年度		476	37,889	42	4,081	11	720	16	520	545	43,210
令和2年度		221	13,010	2	131	7	287	9	86	239	13,514
令和3年度		375	29,052	13	1,026	4	250	7	175	399	30,503
令和4年度		495	39,273	31	2,879	6	132	16	506	548	42,790
令和5年度		576	43,300	19	1,783	12	400	23	702	630	46,185
令和6年度		576	46,107	22	1,676	11	544	24	830	633	49,157
令和7年度	4	2	108	5	288	1	163	0	0	8	559
	5	76	6,458	6	672	6	470	1	16	89	7,616
	6	71	4,935	2	225	0	0	5	135	78	5,295
	7	32	2,454	0	0	0	0	2	64	34	2,518
	8	1	80	0	0	1	20	0	0	2	100
	9	71	5,851	5	73	2	86	3	103	81	6,113
	10	154	12,337	1	220	2	27	7	253	164	12,837
	11	98	7,715	1	22	2	70	2	74	103	7,881
	12	54	4,350	2	33	2	66	0	0	58	4,449
	1	19	1,806	0	0	1	9	0	0	20	1,815
	2	5	422	1	21	0	0	0	0	6	443
	3	1	60	4	467	0	0	0	0	5	527
	計	584	46,576	27	2,021	17	911	20	645	648	50,153
開館後累計		16,229	1,375,228	1,798	210,480	510	59,068	679	27,728	19,216	1,672,504

(3) 企画展の入館状況

企画展名		30周年展 ーいつも茨城県自然博物 館はおもしろい！ー		恐竜とともに生きた 生物たち展 ーぼくらは脇役じゃないー		どんぐり展 ー魅力にはまって さあたいへん！ー		鳥の世界へようこそ！展 ー知れば知るほど おもしろいー		企画展以外の期間		合計	
会期	(延べ日数)	4/1～6/1 (54)		7/5～9/15 (64)		10/11～1/25 (88)		2/28～3/31 (27)		(62)		(295)	
有料	一般	35,157	36.9%	68,073	47.4%	50,461	38.0%	18,172	42.7%	36,224	41.1%	208,087	41.4%
	高齢者	1,710	1.8%	2,545	1.8%	2,279	4.1%	838	4.3%	1,452	1.6%	8,824	4.3%
	高校大学生	529	0.6%	909	0.6%	387	0.3%	230	0.5%	233	0.3%	2,288	0.5%
	小・中学生	11,399	12.0%	23,302	16.2%	24,117	18.2%	3,996	9.4%	16,342	18.6%	79,156	15.8%
	計	48,795	51.2%	94,829	66.0%	77,244	58.2%	23,236	54.6%	54,251	61.6%	298,355	59.4%
無料	高齢者	459	0.5%	138	0.1%	297	0.2%	204	0.5%	175	0.2%	1,273	0.3%
	身障者など	2,120	2.2%	3,774	2.6%	3,175	2.4%	1,033	2.4%	1,910	2.2%	12,012	2.4%
	学校教育	4,435	4.6%	323	0.2%	6,877	5.2%	84	0.2%	4,722	5.4%	16,441	3.3%
	福祉施設	1,155	1.2%	4,257	3.0%	2,018	1.5%	1,158	2.7%	1,633	1.9%	10,221	2.0%
	未就学児など	20,088	21.1%	27,742	19.3%	25,288	19.1%	10,212	24.0%	18,640	21.2%	101,970	20.3%
	その他	18,333	19.2%	12,622	8.8%	17,763	13.4%	6,599	15.5%	6,724	7.6%	62,041	12.4%
計		46,590	48.8%	48,856	34.0%	55,418	41.8%	19,290	45.4%	33,804	38.4%	203,958	40.6%
合 計		95,385	100.0%	143,685	100.0%	132,662	100.0%	42,526	100.0%	88,055	100.0%	502,313	100.0%

2 アンケート調査による入館者の状況 Summary Analysis of Questionnaires on Visitor's Background

当博物館では、一般来館者の動向を把握するため、企画展開催時においてアンケート調査を実施した。この調査の結果は、博物館の運営に反映させていくため、博物館協議会や繁忙期対策会議などの資料として活用している。

(1) 調査方法

Google フォームによるアンケート方式

(2) 調査項目

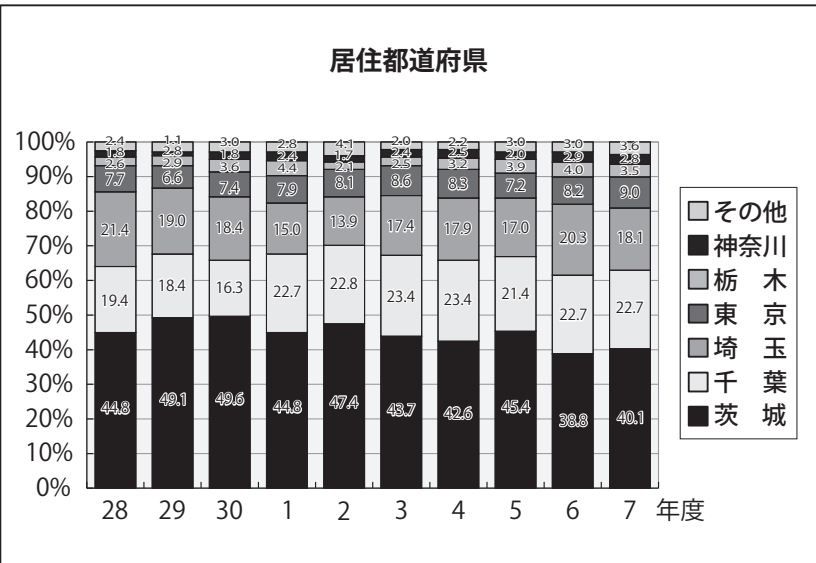
入退館時間、居住地、年齢、性別、同伴者、来館回数、博物館へ何度も来る理由（再来館者対象）など。

(3) 回答数

4,092件

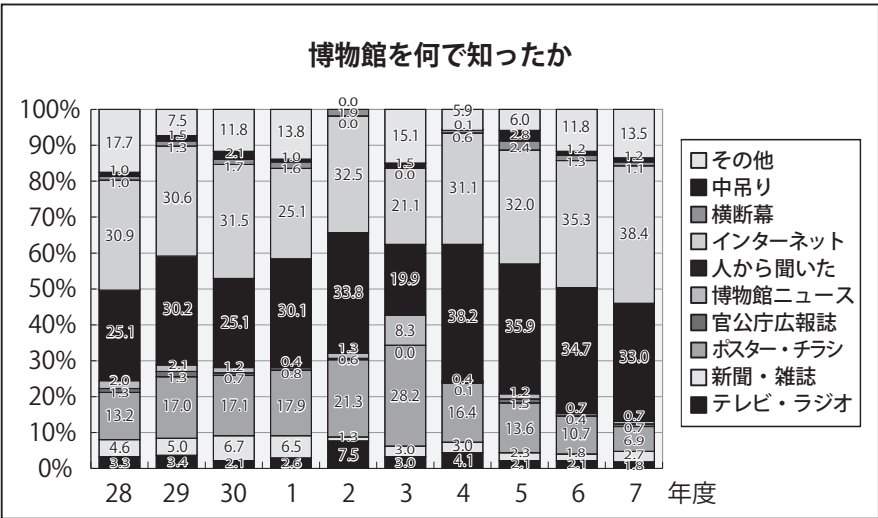
○都道府県別回答者数

	H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
茨 城	485	44.8	690	49.1	997	49.6	847	44.8	517	47.4	871	43.7	1,192	42.6	1,287	45.4	1,417	38.8	1,641	40.1
千 葉	210	19.4	258	18.4	327	16.3	430	22.7	248	22.8	465	23.4	655	23.4	606	21.4	830	22.7	930	22.7
埼 玉	232	21.4	267	19.0	370	18.4	283	15.0	151	13.9	346	17.4	502	17.9	483	17.0	741	20.3	741	18.1
東 京	83	7.7	92	6.6	148	7.4	149	7.9	88	8.1	172	8.6	231	8.3	205	7.2	300	8.2	370	9.0
栃 木	28	2.6	41	2.9	72	3.6	83	4.4	23	2.1	49	2.5	90	3.2	112	3.9	147	4.0	145	3.5
神奈川	19	1.8	16	1.1	37	1.8	46	2.4	18	1.7	48	2.4	69	2.5	58	2.0	107	2.9	116	2.8
その他	26	2.4	40	2.8	61	3.0	53	2.8	45	4.1	40	2.0	61	2.2	85	3.0	109	3.0	149	3.6
計	1,083	100.0	1,404	100.0	2,012	100.0	1,891	100.0	1,090	100.0	1,991	100.0	2,800	100.0	2,836	100.0	3,651	100.0	4,092	100.0
[その他] の内訳	北海道 宮城 新潟 福島 群馬 山梨 愛知 大阪 石川 兵庫 福岡		愛知 岐阜 福島 群馬 長野 宮城 大阪		北海道 山形 宮城 群馬 長野 静岡 愛知 兵庫 福岡		北海道 宮城 群馬 長野 愛知		福島 静岡 愛知 鹿児島 北海道 宮城 山梨 大阪 富山		群馬 宮城 福島 長野 静岡 新潟 山梨		群馬 福島 山梨 長野 静岡 新潟		新潟 福島 群馬 兵庫 山梨 奈良 福岡 大阪 沖縄 長野 高知		群馬 福島 大阪 長野 富山 愛知		群馬 福島 大阪 新潟 山口 愛知 宮城 北海道 長野	



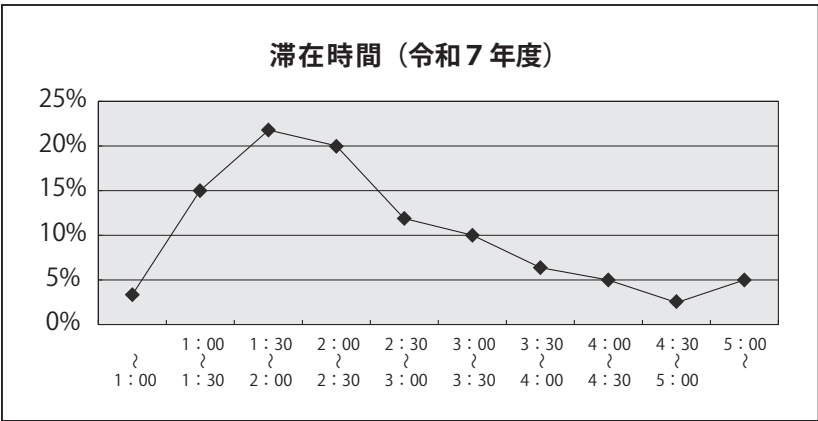
○博物館を何で知ったか

	H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
テレビ・ラジオ	13	3.3	18	3.4	12	2.1	13	2.6	12	7.5	10	3.0	28	4.1	18	2.1	22	2.1	22	1.8
新聞・雑誌	18	4.6	26	5.0	39	6.7	32	6.5	2	1.3	10	3.0	20	3.0	19	2.3	19	1.8	34	2.7
ポスター・チラシ	52	13.2	89	17.0	99	17.1	88	17.9	34	21.3	95	28.2	111	16.4	115	13.6	111	10.7	87	6.9
官公庁広報誌	5	1.3	7	1.3	4	0.7	4	0.8	1	0.6	0	0.0	3	0.4	10	1.2	4	0.4	9	0.7
博物館ニュース	8	2.0	11	2.1	7	1.2	2	0.4	2	1.3	28	8.3	1	0.1	13	1.5	7	0.7	9	0.7
人から聞いた	99	25.1	158	30.2	145	25.1	148	30.1	54	33.8	67	19.9	258	38.2	303	35.9	360	34.7	413	33.0
インターネット	122	30.9	160	30.6	182	31.5	123	25.1	52	32.5	71	21.1	210	31.1	270	32.0	366	35.3	481	38.4
横断幕	4	1.0	7	1.3	10	1.7	8	1.6	3	1.9	0	0.0	4	0.6	20	2.4	14	1.3	14	1.1
中吊り	4	1.0	8	1.5	12	2.1	5	1.0	0	0.0	5	1.5	1	0.1	24	2.8	12	1.2	15	1.2
その他	70	17.7	39	7.5	68	11.8	68	13.8	0	0.0	51	15.1	40	5.9	51	6.0	123	11.8	169	13.5
合計	395	100.0	523	100.0	578	100.0	491	100.0	160	100.0	337	100.0	676	100.0	843	100.0	1,038	100.0	1,253	100.0



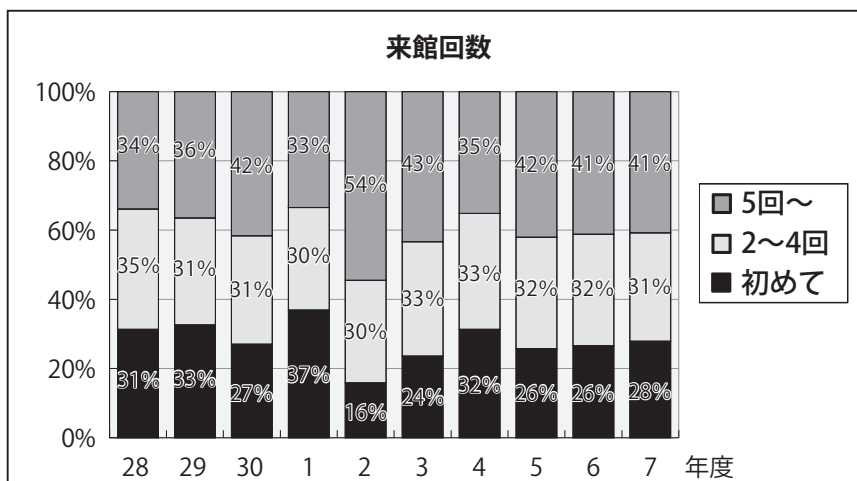
○滞在時間

	H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
～1:00	62	6%	41	8%	84	5%	67	4%	46	4%	77	4%	149	6%	170	6%	215	6%	137	3%
1:00～1:30	94	9%	25	5%	178	12%	190	11%	150	14%	278	15%	248	10%	409	15%	614	17%	601	15%
1:30～2:00	168	17%	42	8%	136	9%	173	10%	113	11%	209	11%	469	18%	550	20%	765	21%	893	22%
2:00～2:30	113	11%	159	29%	298	19%	270	16%	223	21%	429	23%	509	20%	506	18%	704	19%	819	20%
2:30～3:00	223	22%	38	7%	176	11%	191	11%	133	13%	225	12%	296	12%	346	12%	426	12%	504	12%
3:00～3:30	81	8%	33	6%	197	13%	235	14%	133	13%	200	11%	344	13%	307	11%	331	9%	390	10%
3:30～4:00	106	11%	23	4%	109	7%	139	8%	79	8%	134	7%	172	7%	167	6%	198	5%	262	6%
4:00～4:30	44	4%	16	3%	110	7%	154	9%	64	6%	93	5%	135	5%	128	5%	163	4%	195	5%
4:30～5:00	37	4%	16	3%	66	4%	87	5%	40	4%	104	6%	108	4%	84	3%	78	2%	101	2%
5:00～	81	8%	149	27%	182	12%	228	13%	65	6%	122	7%	129	5%	119	4%	157	4%	190	5%
合計	1,009	100%	542	100%	1,536	100%	1,734	100%	1,046	100%	1,871	100%	2,559	100%	2,786	100%	3,651	100%	4,092	100%



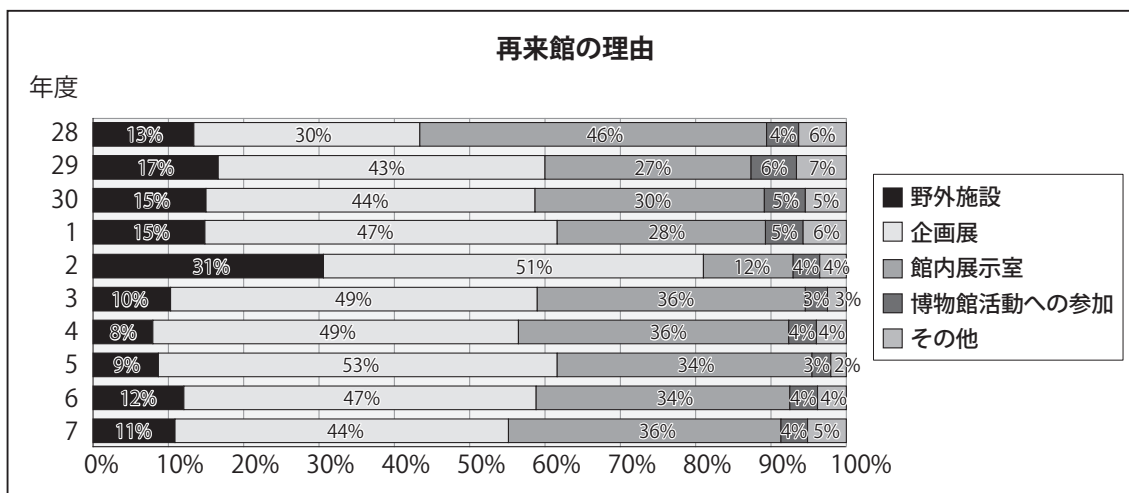
○来館回数

	H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
初 め て	335	31%	413	33%	537	27%	497	37%	173	16%	412	24%	897	32%	727	26%	964	26%	1,145	28%
2～4回	369	35%	388	31%	613	31%	398	30%	321	30%	575	33%	950	33%	912	32%	1,175	32%	1,277	31%
5回以上	364	34%	460	36%	822	42%	449	33%	588	54%	750	43%	999	35%	1,195	42%	1,509	41%	1,670	41%
合 計	1,068	100%	1,261	100%	1,972	100%	1,344	100%	1,082	100%	1,737	100%	2,846	100%	2,834	100%	3,648	100%	4,092	100%



○博物館へ何度も来る理由（再来館者対象・複数回答）

	H28年度		H29年度		H30年度		R01年度		R02年度		R03年度		R04年度		R05年度		R06年度		R07年度	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
野 外 施 設	74	13%	225	17%	284	15%	305	15%	412	31%	240	10%	310	8%	284	9%	504	12%	499	11%
企 画 展	165	30%	590	43%	832	44%	961	47%	682	51%	1,136	49%	1,898	49%	1,748	53%	1,966	47%	2,029	44%
館 内 展 示 室	253	46%	373	27%	579	30%	568	28%	159	12%	833	36%	1,405	36%	1,115	34%	1,414	34%	1,654	36%
博物館活動への参加	24	4%	82	6%	104	5%	105	5%	48	4%	67	3%	142	4%	85	3%	155	4%	163	4%
そ の 他	35	6%	90	7%	104	5%	118	6%	49	4%	60	3%	157	4%	70	2%	165	4%	241	5%
合 計	551	100%	1,360	100%	1,903	100%	2,057	100%	1,350	100%	2,336	100%	3,912	100%	3,302	100%	4,204	100%	4,586	100%



3 博物館日誌（令和7年度）

Museum Calendar 2025-2026

月	日	項 目
4	5	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	5	・自然ラボ（講座）「美しき巨大品洞の成り立ちを探る」
	6	・サンデーサイエンス「動物のうんちをつくろう！」（4月毎日曜日）
	6	・ミニ移動博物館（逆井城まつり、逆井城公園）
	19	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	19	・自然ラボ（観察会）「ヘリテージストーンアドベンチャー in 石切山脈」
	19	・自然ラボ（観察会）「筑波山で春の植物を観察しよう」
	20	・ジュニア学芸員養成講座 開講式
	25	・移動博物館（茨城県立図書館）（～5/6）
	26	・サイエンストーク「茨城の海の骨なし動物たち」
5	4	・サイエンスデー（生物・科学の日）（無料入館日）
	4	・サンデーサイエンス「貝化石を見つけよう」（5月毎日曜日）
	10	・第91回企画展「ミュージアムパーク30年のありったけ」20万人達成記念式典
	10	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	10	・子ども自然教室「博物館で季節の昆虫を観察しよう」
	11	・ジュニア学芸員養成講座
	11	・ミニ移動博物館（常総千姫まつり、常総市市民のひろば）
	17	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	24	・わくわくディスカバリー「おさんぽ恐竜をつくろう！」
	24	・ボランティア総会
	25	・自然ラボ（観察会）「湿地の希少植物を観察しよう」
	31	・自然ラボ（観察会）「博物館で昆虫を観察しよう」
	31	・ミニ移動博物館（歴史館まつり、茨城県立歴史館）
6	1	・第91回企画展「ミュージアムパーク30年のありったけーいつも茨城県自然博物館はおもしろい！ー」（11/2～）最終日
	1	・ジュニア学芸員養成講座
	1	・サンデーサイエンス「コケのテラリウムをつくろう」（6月毎日曜日）
	5	・サイエンスデー（地球・科学の日）（無料入館日）
	7	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	7	・サイエンストーク「葉化石からよみがえる約165万年前のブナ林の姿」
	8	・イベント「SDGs クイズ」
	14	・子ども自然教室「自然とのふれあい」
	21	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	21	・自然ラボ（講座）「きみはアカミガメを知っているか？」
	28	・わくわくディスカバリー「アジサイのうちわをつくろう！」
	29	・上半期ボランティア養成講座
7	1	・移動博物館（つくば市立学園の森義務教育学校）（～7/8）
	5	・第92回企画展「恐竜とともに生きた生物たちーぼくらは脇役じゃないー」内覧会および一般公開（～9/15）
	5	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	6	・サンデーサイエンス「動物のあしあとをつくろう」（7月毎日曜日）
	10	・移動博物館（城里町立沢山小学校）（～7/17）
	12	・理科自由研究のヒントを見つけよう
	12	・子ども自然教室「土のペンダントをつくろう！」
	12	・ジュニア学芸員養成講座
	19	・ボランティア記念日
	19	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	21	・海の日特別イベント「海の生き物タッチングプール」「コーパルみがき体験！」
	26	・自然ラボ（講座）「プランクトン化石とウンチ化石から探る中生代の海洋生態系」
	26	・わくわくディスカバリー「パタパタはばたくヒバリをつくろう！」
	26	・ミニ移動博物館（イオンモールつくば）（～7/27）
8	2	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	2	・自然ラボ（講座）「恐竜時代の景色はどんなの？～イラストレーターと研究者が描く恐竜時代～」
	3	・ジュニア学芸員養成講座（オンライン）
	3	・サンデーサイエンス「葉っぱのスタンプでエコバッグをつくろう」（8月毎日曜日）
	9	・子ども自然教室「光る泥だんごをつくろう!!」
	16	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	23	・わくわくディスカバリー「博物館で夏祭り！手作りお魚すくいをつくろう！」
	24	・ジュニア学芸員養成講座
	24	・ミニ移動博物館（霞ヶ浦ECO フェスティバル、霞ヶ浦環境科学センター）
	30	・第92回企画展「恐竜とともに生きた生物たち」10万人達成記念式典
9	1	・移動博物館（日立市立駒王中学校）（～9/5）
	6	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	7	・サンデーサイエンス「木の葉化石を見つけよう」（9月毎日曜日）
	13	・子ども自然教室「ちりモン図鑑をつくろう」
	13	・サイエンストーク「ちょっとマニアックな“初崎層”の化石研究の話」
	15	・第92回企画展「恐竜とともに生きた生物たちーぼくらは脇役じゃないー」（7/5～）最終日
	19	・移動博物館（茨城大学附属幼稚園）
	20	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	24	・移動博物館（筑西市立小栗小学校）（～9/30）
	27	・子ども自然教室「きのこハンター」
	27	・わくわくディスカバリー「つくってかざろう！天体モビール」
	28	・ジュニア学芸員養成講座 研究報告会・認定式



「30年のありったけ」展20万人達成式典
Celebration of 200,000 Visitors to the 91st Special Exhibition



「恐竜じゃない」展内覧会
Private Viewing of The 92nd Special Exhibition



ミニ移動博物館
Mini mobile museum



「恐竜じゃない」展10万人達成式典
Celebration of 100,000 Visitors to the 92nd Special Exhibition

月	日	項 目
10	4	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	5	・サイエンストーク「知られざるキノコのはたらきとは？」
	5	・サンデーサイエンス「観察してつくろう！「クマムシ」プラバンアート」（10月毎日曜日）
	11	・第93回企画展「どんぐりー魅力にはまってさぁたいへん♪」内覧会および一般公開（～1/25）
	15	・移動博物館（茨城県立伊奈特別支援学校）（～10/21）
	18	・自然ラボ（観察会）「キノコを観察しよう」
	18	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	22	・移動博物館（八千代町立西豊田小学校）（～10/28）
	25	・わくわくディスカバリー「ハロウィンコウモリのお面をつくろう！」
	25	・自然ラボ（観察会）「博物館でどんぐりを観察しよう」
11	26	・ミニ移動博物館（あすなろの秋祭り、あすなろの里）
	31	・移動博物館（北茨城市立精華小学校）（～11/7）
	1	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	2	・サンデーサイエンス「木の葉化石を見つけよう」（11月毎日曜日）
	8	・子ども自然教室「ネイチャーゲームで自然とふれあおう」
	8	・ミニ移動博物館（国営ひたち海浜公園（ひたちなか市））
	9	・ミニ移動博物館（将門まつり、坂東市内）
	13	・サイエンスデー（茨城・科学の日）（無料入館日）・県民の日スペシャルイベント
	13	・移動博物館（常総市立図書館）（～11/20）
	15	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
12	16	・ミニ移動博物館（鹿行生涯学習センター）
	22	・わくわくディスカバリー「木の実でオーナメントをつくろう！」
	27	・移動博物館（土浦市立大岩田小学校）（～12/4）
	29	・自然ラボ（講座）「みてみよう！いきものミクロ☆たんけん隊」
	29	・ミニ移動博物館（子育てフェスタ、イースつくば）（～11/30）
	3	・第1回博物館協議会
	6	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	6	・サイエンストーク「おさかな調査～菅生沼をのぞいてみたら～」
	6	・子ども自然教室「博物館で冬の野鳥を探そう」
	6	・ミニ移動博物館（カシマスポーツセンター）
1	7	・サンデーサイエンス「どんぐりブックをつくろう」（12月毎日曜日）
	13	・子ども自然教室「マツボックリでツリーをつくろう」
	20	・自然ラボ（講座）「どんぐりの謎ー拾って食べて考えたー」
	20	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	28	・年末・年始休館（～1/1）
	2	・お正月イベント（～1/3）
	3	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	4	・サンデーサイエンス「貝化石を見つけよう」（1月毎日曜日）
	10	・第93回企画展「どんぐりー10万人達成記念式典」
	10	・自然ラボ（観察会）「菅生沼の鳥、じっくりじっくり見てみよう」
2	10	・子ども自然教室「土壌のミニモノリスを作ろう!!」
	12	・自然ラボ（観察会）「野焼きがタチスミレを救う」
	17	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	17	・下半期ボランティア養成講座
	20	・移動博物館（茨城県立友部特別支援学校）（～1/23）
	24	・子ども自然教室「石の図鑑をつくろう」
	25	・第93回企画展「どんぐりー魅力にはまってさぁたいへん♪」（10/11～）最終日
	31	・電気設備改修工事に伴う臨時休館（～2/9）
	6	・ミニ移動博物館（TX PLAZA 秋葉原）（～2/8）
	14	・ミニ移動博物館（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）
3	14	・子ども自然教室「化石をスケッチしてみよう」
	14	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	15	・サンデーサイエンス「竹筆をつくろう」（2月毎日曜日）
	21	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	28	・第94回企画展「鳥の世界へようこそ！ー知れば知るほどおもしろいー」内覧会および一般公開（～6/7）
	1	・自然ラボ（講座）「宇宙大航海 part II」
	1	・サンデーサイエンス「カモの小さな置き物をつくろう」（3月毎日曜日）
	6	・第2回博物館協議会
	7	・ネイチャーガイド（第3週以外の土曜日）
	7	・サイエンストーク「1億年前の化石を調べる～CTスキャンを用いた最新化石研究～」
2	7	・ミニ移動博物館（イオンモール土浦）（～3/8）
	14	・自然ラボ（講座）「県の花からわかる大地の成り立ち～関東編～」
	20	・サイエンスデー（宇宙・科学の日）（無料入館日）イベント
	21	・自然ラボ（講座）「あなたもきっと、鳥が見たくなる！ー観察を続けて見えてくることー」
	21	・ふれあい野外ガイド（毎月第3土曜日）
	21	・ミニ移動博物館（水戸市民会館）



「どんぐり」展内覧会

Private Viewing of The 93rd Special Exhibition



「どんぐり」展10万人達成式典

Celebration of 100,000 Visitors to the 93rd Special Exhibition



「鳥」展オープニングセレモニー

The 94th Special Exhibition's Opening Ceremony



サイエンスデー

Science Day Event

Ⅲ 管理運営

Organization and Management

1 組織

Staff and Structure

茨城県自然博物館組織図（令和8年3月31日現在）

館 長 横山一己			
副 館 長 菅野弘司			
管 理 課	企 画 課	教 育 課	資 料 課
副参事兼管理課長 泉水正和	企画課長 岸川将史	教育課長 小泉直孝（植物）	副参事兼資料課長 池澤広美（動物）
係長 飯田一行	首席学芸員（学芸総括） 小池 涉（地学）	首席学芸主事 佐藤一康（地学）	首席学芸主事 前橋千里（地学）
〃 平川正樹	係長 清水麻里子	〃 豊崎賢二（植物）	主任学芸主事 石塚勇太（地学）
主事 高畑 智	主事 川村詩音	主任学芸主事 佐野拓哉（動物）	〃 吉田 佑（動物）
〃 篠崎 樹	〃 百瀬裕子	主任学芸員 鶴沢美穂子（植物）	〃 櫛引豪人（植物）
主査 佐藤浩二郎	主査 栗栖宣博（植物）	主任学芸主事 北澤佑子（動物）	〃 世木田和也（植物）
〃 安藤一彦	〃 石塚武彦（動物）	主査 滝本秀夫（地学）	主任学芸員 後藤優介（動物）
副主査 塚田芳美	〃 針谷 武	〃 村田一弘（地学）	副主任学芸員 加藤太一（地学）
8人	副主査 池田洋子	〃 高橋 淳（地学）	〃 伊藤彩乃（植物）
	10人	〃 長塚和徳（動物）	主査 小林正雄（動物）
		〃 成田 昭（植物）	〃 久松正樹（動物）
		〃 横倉政宏（植物）	〃 前島 清（地学）
		12人	12人
展示解説員 23人 井口結賀 岩本静夏 加藤敦子 栗崎香菜 篠崎美波 辻 史織 真柄紫保 渡部花歩	石川優里 大谷凜音 木下春菜 小林阿紀 滝本麻衣子 原田紗里 宮澤美里 渡辺優子	石丸茉莉乃 小野田裕介 木村弥生 坂本由香理 龍田 愛 昼間佳奈子 森田麻友	学芸補助員 3人 飯田勝明（植物） 松尾武祥（地学） 日名川祐亮（動物） 事務支援員 1人 倉持倫江 事務職員 1人 染谷佑香

*（ ）内は、各学芸系職員の所属研究室を示す。

2 予算・決算

Financial Summary

(1) 令和7年度歳入状況

(単位：円)

科 目	内 訳	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	備 考
使用料および 手数料	入館料	168,958,650	168,958,650	0	0	
	行政財産使用料	4,785,548	4,785,548	0	0	
	小 計	173,744,198	173,744,198	0	0	
諸収入		481,440	481,440	0	0	
合 計		174,225,638	174,225,638	0	0	

(2) 令和7年度歳出予算

自然博物館費

(単位：千円)

事		業	名	予算額	備	考
管理運営費	管理運営費	会計年度任用職員雇用等経費		88,304	会計年度任用職員雇用経費	
		施設設備保守管理委託経費		228,319	館内清掃、警備、設備運転など	
		管理に付随する各種手数料		3,035	ごみ収集、浄化槽汚泥抜など	
		光熱水費		95,652	電気料、水道料など	
		その他の事務費		24,732	事務経費	
管理運営費計				440,042		
美術館博物館協議会費		自然博物館協議会費		305	委員報酬、旅費	
展示事業費	常設展費	常設展費		26,022	展示メンテナンス委託料など	
	企画展費	第91回企画展費		5,459	30周年博物館展	
		第92回企画展費		25,892	恐竜じゃない展	
		第93回企画展費		23,852	どんぐり展	
		第94回企画展費		20,338	鳥展	
		次年度以降企画展準備費		23,410	骨なし展 など	
	小 計			98,951		
展示事業費計				124,973		
資料管理費		資料管理費		9,258		
資料整備費	資料整備費	資料整備費		15,182		
	学術調査研究費	学術調査研究費		4,313		
	資料整備費計				19,495	
教育普及事業費	教育普及事業費	教育普及事業費		3,037	学校教育・社会教育と連動した教育普及活動費	
	教育広報事業費	教育広報事業費		1,214	広告代、パンフレット印刷代など	
	教育普及事業費計				4,251	
合計					598,324	

文化施設整備費

事 業 名	予算額	備 考
文化施設整備費	92,086	トップライト防水工事、 誘導灯等照明更新工事、 自動始動発電機盤改修工事
文化施設整備費計	92,086	

総合計	690,410	
-----	---------	--

3 施設整備など

Facility Maintenance

(1) 主な施設整備

番号	整備名称	整備内容
1	トップライトシーリング改修工事	経年劣化したトップライトのシーリング更新
2	非常灯・誘導灯他更新工事	誘導灯などのLED化
3	非常用発電機A Uユニット持帰り修理	故障した非常用発電機A Uユニットの修理
4	授乳室改修業務	男女共用の授乳室への改修
5	駐車場舗装改修	駐車場の芝生敷きの箇所をアスファルト舗装に改修

(2) 管理運営委託事業一覧

番号	委託事業名	委託先	委託期間	委託内容
1	機械警備業務	セコム(株)	R6. 4. 1～ R11. 3.31	本館、自然発見工房および野外券売所の機械警備
2	常駐警備業務	(株)エス・エス・ジー	R7. 4. 1～ R10. 3.31	本館、自然発見工房および野外施設の警備業務
3	設備運転保守管理業務	(株)オーチャー茨城支店	R6. 4. 1～ R9. 3.31	電気、空調、給排水設備の運転・保守管理および環境衛生管理業務
4	館内清掃業務	(株)セントラル	R7. 4. 1～ R8. 3.31	本館、自然発見工房および野外券売所の清掃業務
5	エレベーター保守点検業務	(株)日立ビルシステム関東支社	R6. 4. 1～ R9. 3.31	本館内各種エレベーターの保守点検業務
6	自動扉開閉装置保守点検業務	茨城寺岡オートドア(株)	R6. 4. 1～ R9. 3.31	自動扉の定期点検業務
7	消防設備保守点検業務	高橋興業(株)	R6. 4. 1～ R9. 3.31	火災報知設備、消火設備の保守点検業務
8	合併浄化槽維持管理業務	(株)アビック	R6. 4. 1～ R9. 3.31	合併浄化槽の運転管理および処理水の水质検査業務
9	水系展示施設水処理設備保守点検業務	新生ビルテクノ(株)北関東支店	R6. 4. 1～ R9. 3.31	水系展示用循環浄化装置などの保守点検業務
10	水系展示水槽管理業務	(公財)いばらき文化振興財団	R7. 4. 1～ R8. 3.31	水系展示用魚類の飼育および水槽設備管理業務
11	空調設備および自動制御機器保守点検業務	(株)サイオー	R6. 4. 1～ R9. 3.31	空調設備の保守点検業務
13	野外施設管理設計積算および施工管理業務	(一財)茨城県建設技術公社	R6. 4. 1～ R7. 3.31	野外施設管理業務(設計積算)および施工管理業務
14	野外施設管理業務(第1工区)	(株)貝沢造園土木	R6. 4. 1～ R7. 3.31	野外施設の管理業務(第1工区)
15	野外施設管理業務(第2工区)	(株)古谷植物園	R6. 4. 1～ R7. 3.31	野外施設の管理業務(第2工区)
16	野外施設管理業務(第3工区)	(有)中山造園土木	R6. 4. 1～ R7. 3.31	野外施設の管理業務(第3工区)
17	野外施設管理業務(第4工区)	常緑工業(株)	R6. 4. 1～ R7. 3.31	野外施設の管理業務(第4工区)
18	野外施設管理業務(第5工区)	(株)岩井造園土木	R6. 4. 1～ R7. 3.31	野外施設の管理業務(第5工区)
19	収蔵庫・展示室の環境調査業務	関東港業(株)	R6. 5.15～ R6.12.15	収蔵庫・展示室の環境調査業務
20	収蔵庫の燻蒸業務	(株)フミテック	R6. 6. 1～ R6. 9.29	動物・植物収蔵庫ほかの燻蒸業務
21	燻蒸釜保守点検業務	I P Mサポート(株)	R6. 5.31～ R7. 3.31	燻蒸室の燻蒸釜保守点検業務

4 博物館協議会

Trust Committee

(1) 博物館協議会開催状況

- ・令和7年度第1回博物館協議会
期 日：令和7年12月3日（水）
場 所：自然博物館講座室
出席者：委員10人、事務局
議 題：①令和7年度前期事業の報告について
②令和7年度後期事業計画について
③予算・決算などについて

- ・令和7年度第2回博物館協議会
期 日：令和8年3月6日（金）
場 所：自然博物館講座室
出席者：委員7人、事務局
議 題：①令和7年度後期事業の報告について
②令和8年度事業計画について
③中期計画2026の進捗状況について

(2) 博物館協議会委員名簿

令和8年3月31日現在（敬称略・五十音順）

委員氏名	役 職 など	住 所
青 木 尚 美	一般社団法人茨城県子ども会育成連合会 理事	石岡市
浅 野 直 俊	茨城県教育研究会理科教育研究部 部長 水戸市立上中妻小学校 校長	水戸市
荒 木 郁 子	公募委員	常総市
川 股 圭 之	首都圏新都市鉄道株式会社 常務取締役	筑西市
坂 本 和 弘	元東京都葛西臨海水族園 園長	埼玉県さいたま市
高 尾 戸 美	合同会社マープルワークショップ 代表 日本ミュージアム・マネージメント学会 関東支部長	岡山県倉敷市
中 村 由 香	坂東市立猿島幼稚園 園長 茨城県国公立幼稚園・子ども園長会長・同幼稚園・子ども園教育研究会 副会長、Bブロック会長	坂東市
○生田目 美 紀	京都女子大学 教授 筑波技術大学 名誉教授	京都府京都市
◎樋 口 正 信	国立科学博物館 名誉研究員 元国立科学博物館植物研究部長、元筑波実験植物園長	つくば市
藤 咲 富士子	一般社団法人ガールスカウト茨城県連盟 副連盟長	那珂市
吉 富 友 恭	東京学芸大学 教授	東京都小平市
鷲 田 美 加	株式会社 RION 代表取締役	取手市
渡 辺 祐 子	日本放送協会水戸放送局 局長	水戸市

◎委員長 ○副委員長

5 資料評価委員会

Material Appraisal Committee

(1) 資料評価委員会名簿

令和8年3月31日現在（敬称略・分野別五十音順）

分 野	氏 名	所 属 ・ 職 名
動 物	山 田 文 雄	沖縄大学 客員教授 アミノクロウサギミュージアム QuruGuru 名誉館長
	山 根 爽 一	茨城県生物多様性 センター長 茨城大学 名誉教授
植 物	遠 藤 泰 彦	茨城大学 名誉教授
	中 村 俊 彦	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 農学特定支援員
地 学	對比地 孝 亘	国立科学博物館 生命史研究部 進化古生物研究グループ 研究主幹 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 准教授
	門 馬 綱 一	国立科学博物館 理学研究部 地球研究グループ 研究主幹

6 助言者会議

Advisory Committee

(1) 助言者会議実施状況

- ・令和7年度資料評価委員会・助言者会議（調査研究の部）合同会議

日 時：令和7年5月29日（木）

場 所：自然博物館講座室

出席者：助言者11人（オンラインでの参加3人）、事務局

議 題：

- ①令和6年度の事業報告
- ②令和7年度の事業計画
- ③その他

- ・令和7年度助言者会議（教育普及の部）

日 時：令和7年7月25日（金）

場 所：講座室

出席者：助言者10人（オンラインでの参加3人）、事務局

議 題：

- ①令和6年度重点事業の実施報告
- ②令和7年度の重点事業
- ③その他

(2) 助言者委員名簿

【教育普及（EDUCATION ADVISOR）】

令和8年3月31日現在（敬称略・五十音順）

No.	氏 名	所 属 ・ 職 名	分 野
1	浅 野 直 俊	茨城県教育研究会理科教育研究部 部長 水戸市立上中妻小学校 校長	理科教育（小中）
2	大 辻 永	東洋大学理工学部 教授	科学教育
3	大 山 真 理	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 課長補佐	生涯学習
4	片 平 克 弘	筑波大学 名誉教授	理科教育
5	郡 司 晴 元	茨城大学学術研究院教育学野 准教授	博物館運営
6	斎 須 久 依	茨城大学教育学部附属幼稚園 園長	幼児教育
7	佐 藤 留 美	特定非営利活動法人 NPO birth（バース） 事務局長	環境教育・市民活動
8	中 川 卓 浩	茨城県教育庁学校教育部義務教育課 指導主事	理科教育
9	中 村 千 秋	茨城県立つくば特別支援学校 校長	特別支援
10	浜 田 健 志	茨城県高等学校教育研究会 生物部長 茨城県立勝田工業高等学校 校長	理科教育（高等学校）
11	福 田 洋 子	公益社団法人全国幼児教育研究協会茨城支部 参与	幼児教育
12	山 本 容 子	筑波大学人間系 准教授	環境教育

【調査研究（RESEARCH ADVISOR）】

令和8年3月31日現在（敬称略・分野別五十音順）

分野	氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
動物	加 納 光 樹	茨城大学地球・地域環境共創機構 水圏環境フィールドステーション 教授	保全生物学（魚類）
	森 野 浩	茨城大学 名誉教授	動物系統分類学（水生無脊椎動物、特に甲殻類）
	山 田 文 雄	沖縄大学 客員教授 アマミノクロウサギミュージアム QuruGuru 名誉館長	動物生態学、保全生物学（哺乳類）
	山 根 爽 一	茨城県生物多様性 センター長 茨城大学 名誉教授	動物生態学・行動学（特に昆虫）
植物	伊 村 智	国立極地研究所 副所長 南極観測センター長	植物生態学（コケ植物）
	遠 藤 泰 彦	茨城大学 名誉教授	植物分類学、植物系統学（維管束植物）
	岡 部 宏 秋	元森林総合研究所 森林微生物研究領域微生物生態研究室 室長	森林生態学（特に菌類）
	中 村 俊 彦	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 農学特定支援員	植物生態学（維管束植物）
地学	安 藤 寿 男	福井県立大学 恐竜学部 教授 茨城大学 名誉教授	層序・古生物学、地質学
	鈴 木 毅 彦	東京都立大学 都市環境学部 教授	第四紀学、地形学
	對比地 孝 亘	国立科学博物館 生命史研究部 進化古生物研究グループ 研究主幹 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 准教授	古生物（脊椎動物）
	門 馬 綱 一	国立科学博物館 理学研究部 地球研究グループ 研究主幹	鉱物学、結晶学

施設概要

(1) 工事関係

- ① 設計 仙田 満+(株)環境デザイン研究所
- ② 管理
建築・展示 仙田 満+(株)環境デザイン研究所
野外 (財)茨城県建設技術公社・仙田 満
+(株)環境デザイン研究所

③ 施工

第1工区

- ア 建築 大成・武藤・正栄 J V
- イ 電気 和光・三光 J V
- ウ 空調衛生 須賀・小島 J V

第2工区

- ア 建築 大林・日産・小薬 J V
- イ 電気 六興・共和 J V
- ウ 空調衛生 菱和・関彰 J V

昇降機 日立東ビルシステム販売(株)

浄化槽 大日本インキ化学工業(株)

展示工事 (株)丹青社

外構工事

第1工区 正栄工業(株)

第2工区 (株)三和建設

野外施設 (株)中村組他34社

自然観察遊歩道橋架橋工事

上部工 (株)フジタ

下部工 川田建設(株)

- ④ 建設事業費 18,883百万円
- 用地購入費 1,271百万円
- 本館建設工事費 7,864百万円
- 展示工事費 2,997百万円
- 資料整備費 1,252百万円
- 野外施設工事費 2,789百万円
- 遊歩道橋架橋工事費 923百万円
- 自然発見工房工事費 150百万円
- 進入道路工事費 165百万円
- 備品購入費 417百万円
- その他 1,055百万円

(2) 本館施設

① 建築の概要

敷地面積 15.8ha

建築面積 7,079.23m²

延床面積	11,995㎡
構造規模	RC造、一部S造
	地上2階（一部地下1階、地上3階）
軒高	20.25m（最高高さ21.85m）
天井高さ	4.5m（展示室）

② 外部仕上げの概要

屋根	亜鉛合金板一文字葺 アスファルト断熱防水
外壁	珪器質タイル貼
外構	乱石貼
建具	アルミサッシ

③ 内部仕上げの概要

・エントランスルーム

床	サビ御影石、ショットブラスト、一部本磨
壁	珪器質タイル貼
天井	アルミシステム天井

・展示室

床	ゴムタイル貼
壁	PB12クロス貼
天井	メッシュ天井

・レストラン

床	モルタル下地カリフローリング、一部大理石貼
壁	鏡貼
天井	アルミシステム天井

・恐竜ホール

床	カリフローリング、サビ御影石、ゴムタイル
壁	珪器質タイル貼、偏光タイル
天井	メッシュ天井

・収蔵庫

床	鉄骨根太二重床コンパネ下地ブナフローリング
壁・天井	

LGS、特殊ケミカル板25の上スプル15

④ 設備の概要

・電気設備

受電方式	普通高圧6.6KV1回線受電
変圧器容量	3,000KVA
予備電源	ガスタービン発電6.6KV375KVA

・空調設備

空調方式	
展示室	単一ダクト＋VAV式
収蔵庫	空冷パッケージ式
管理部門	ファンコイル＋全熱交換器式
研究部門	空冷ヒートポンプ式
熱源	空冷ヒートポンプチラー 120HP×7台

- ・衛生設備
 - 給水 加圧給水式、受水槽30m³（FRP2層式）
 - 給湯 便所・洗面器電気式個別給湯
研究室系統ガス瞬間式個別給湯
 - 排水 汚水・雑排水別系統方式
合併浄化槽：300m³/日 1,650人漕
- ・防火設備
 - 消火 一般室系統 スプリンクラー消火設備
収蔵庫・電気室炭酸ガス消火設備
 - 排煙 自然排煙・機械排煙1系統
- ・昇降機 乗用3基、荷物用1基
- ・リフト 身障者用1基、荷物用1基

(3) 野外施設

① 主な施設の面積

駐車場	1.62ha
レストラン前広場	0.31ha
花木の広場	0.45ha
つたの森	0.41ha
くまざさの森	0.35ha
古代の広場	0.36ha
芝生広場	1.13ha
昆虫の森	0.36ha
とんぼの池	0.70ha
どんぐりの森	1.25ha
太陽の広場	0.34ha
夢の広場	0.64ha
水の広場	0.45ha
ばったの原	1.06ha
花の谷	0.61ha

② 管理施設

駐車場			
一般駐車場	1.12ha	乗用車	343台
		身障者用	5台
バス駐車場	0.19ha		24台
業務用駐車場展示物搬入路など			
	0.31ha		60台
駐輪場	160m ²		90台
臨時駐車場	1.39ha		約600台
掲揚ポール	4本		
焼却炉	1基		
正面ゲート	W=7,780+4,000	H=2,000	1基
出口専用回転扉	2基		
管理用出入口扉	H=2,000	W=2.0~7.0m	14基
外周柵（フェンス）	H=2,000	2,155m	

揚水ポンプ 2基
汚水中継ポンプ 1基
キュービクル 1.80m×2.50m 1基
駐車場告知サイン 9基

③ 建築物

自然発見工房 364.7㎡ 1棟
野外発券所（あすなろゲート） 26.39㎡ 1棟
炭焼き窯、炭焼き窯管理小屋 43.10㎡ 2棟
屋外倉庫 20.10㎡ 1棟
野外便所 4棟
芝生広場 39.78㎡
男子 大1 小3、女子 大4
身障者用1
古代の広場 41.64㎡
男子 大1 小3、女子 大4
身障者用1
駐車場 54.43㎡
男子 大2 小5、女子 大6
身障者用1
自然発見工房
男子 大2 小5、女子 大5
身障者用1

④ 園内広場

プロムナードなど
中央プロムナード（正面～エントランス）
L=125m W=3.0m
外周プロムナード
L=285m W=2.5～7.0m
遊歩道（観察路）
アスファルト自然色舗装
L=2、600m W=3.0～6.0m
アスファルト浸透舗装
L=695m W=1.5m
木製舗装 L=730m W=0.6～6.0m
広場
御影石舗装 1,514㎡
ダスト舗装 1,405㎡
インターロッキングブロック舗装 385㎡
ゴムチップ舗装 263㎡
平板ブロック舗装 128㎡
橋梁・デッキ
菅生沼ふれあい橋
L=285.0m W=3.0～9.0m
あすなろ橋 L=52.8m W=3.0m
閘門橋 L=23.0m W=3.0m

ボックス橋 L=3.0m 1,000×1,500

階段 9箇所

修景施設

植栽高木 2,907本

株物 8,378㎡

地被類 4,478㎡

芝生 38,090㎡

ワイルドフラワー 1,100㎡

生垣 536m

ホタルの流れ 140m

館名石 1基

便益施設

ベンチ類

一般ベンチ 1,800×506 29基

テーブルベンチ 1,800×1,710 27基

屑入れ類

屑入れ D=710 14個

吸殻入れ 2個

休憩施設

あずまや 2,750×2,750 2基

パーゴラ D=3,676 H=2,550 3基

照明器具類

照明灯（一般） 62基

照明灯（足元型） 21基

視覚障害者対策施設

点字ブロック 2,260m

パトロールライト 30W照明灯内臓 6基

その他

水飲み5基

時計（太陽電池型） H=5,200 D=700 4基

サイン・遊具類

サイン

館内案内サイン 8基

掲示板 5基

方向指示サイン10基

車輛誘導サイン 7基

ネイチャートレイル案内サイン 9基

ネイチャートレイル観察ノートサイン 27基

ネイチャートレイル観察用・注意サイン 96基

自然発見器類

動物の巣 D=14,500 1箇所

りすの目タワー 床高=12,600

H=15,500 D=5,000 1箇所

いろいろな目 D=1,500 1基

パラボラベンチ D=1,500 1基

風のおと 1基
 100M伝言パイプ 1基
 オープンプラネタリウム
 D=1,200×4 1基
 日時計 4基
 森のおとしもの D=600 3基
 霧ふんすい 2基
 体重ふんすい
 D=500 ノズル=10, 12, 14 3基
 住居跡保存 7箇所
 貝化石の砂 2箇所
 双眼鏡 50倍・・・2、30倍・・・3 5基
 ゆげのパラボラ D=1,000 1基
 流れ循環装置（水の流れ） 1基
 循環ポンプ 5.5KW
 濾過ポンプ 3.7KW
 井戸ポンプ 3.7KW

(4) セミナーハウス

① 建築の概要

建築面積 653.6㎡
 延床面積 504㎡
 構造 SRC造
 収容人員 408名

② 外部仕上げの概要

屋根 折板葺

③ 設計・管理 仙田 満+(株)環境デザイン研究所

④ 施工
 ア 建築 正栄工業(株)
 イ 電気 結城電設(株)
 ウ 機械 (有)鈴木工業

⑤ 建設費
 ア 建築 93,678,500円
 イ 電気 39,655,000円
 ウ 機械 24,205,000円

ANNUAL REPORT
OF
IBARAKI NATURE MUSEUM
－年報第32号 令和7年度－

令和8年7月31日発行

発 行 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
茨城県坂東市大崎700番地

TEL 0297-38-2000

編 集 ミュージアムパーク茨城県自然博物館
印 刷 株式会社光和印刷
